fusion_place 研修

ベーシックコース

fusions

fusion_place は、株式会社フュージョンズの商標です。

Oracle, Java は、米国 Oracle Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。 Microsoft, Windows, Windows Vista, Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他のブランド名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

この文書の著作権は株式会社フュージョンズおよびその供給者に帰属します。著作権者が発行した文書による許可がない限り、個人的な使用目的以外でこの文書の一部または全部をいかなる形式または方法でも（転写、記録、情報検索システムへの利用などの電子的または機械的な方法を含む）複製または転載することを禁じます。

株式会社フュージョンズ
（本店所在地：東京都港区）

文書名	fusion_place ベーシックトレーニング
文書バージョン	1.2.7
対応製品バージョン	fusion_place 9.0
公開日	2020年7月7日

ベーシックトレーニングを始める前に

ベーシックトレーニングを始める前に、下記ユーザマニュアルの「fusion_placeをセットアップする」をご参考に、お手もとのコンピュータに、fusion_placeをセットアップしておいて下さい。
https://docs.fusionplace.net/manual/ja/setting_up/description.html

対象バージョン：fusion_place 9.0 以降

本コースガイドは、fusion_place の起動／ログインと言った基本的な操作をご理解頂いている前提で記述しております。そうした点について一歩ずつ確認されたい場合は、インストーラとともに配布されている自習用チュートリアル「はやめぐり」を先に実行されることをお勧めします。

クラウド環境でトレーニングを実施する場合、fusion_place のセットアップは不要です。
一方で、複数のユーザーがトレーニングに参加するため、ユーザアカウントの割り振りなどが必要です。
インストラクタの指示に従って下さい。

はじめに

■目的

fusion_placeの基本概念(用語や仕組み・機能)について理解し、
アプリケーションの定義から入出力機能の設定方法を習得する。

■ゴール

- ✓ fusion_placeの基本概念(用語・仕組み・機能)が理解できていること
- ✓ アプリケーションの定義(ディメンション登録、元帳設定)ができること
- ✓ 簡単な入出力機能(フォーム、Excel-Link)の設定ができること

■研修内容

1.fusion_placeの基本概念	2.データ入出力①(フォーム)	3.データ集計①（ツリー構造）	4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）	5. データ入出力②（ Excel-Link）	6.データ入出力③（インポート）
fusion_placeの基本概念となる多次元データベースについて説明する	データの入出力ができるフォーム機能について説明する	ツリー構造と積み上げの考え方について説明する	勘定科目と表示形式ディメンションについて説明する	元帳へのもう一つの入出力方法となるExcel-Linkについて説明する	CSVファイルのインポート方法を説明する

本日のタイムスケジュール

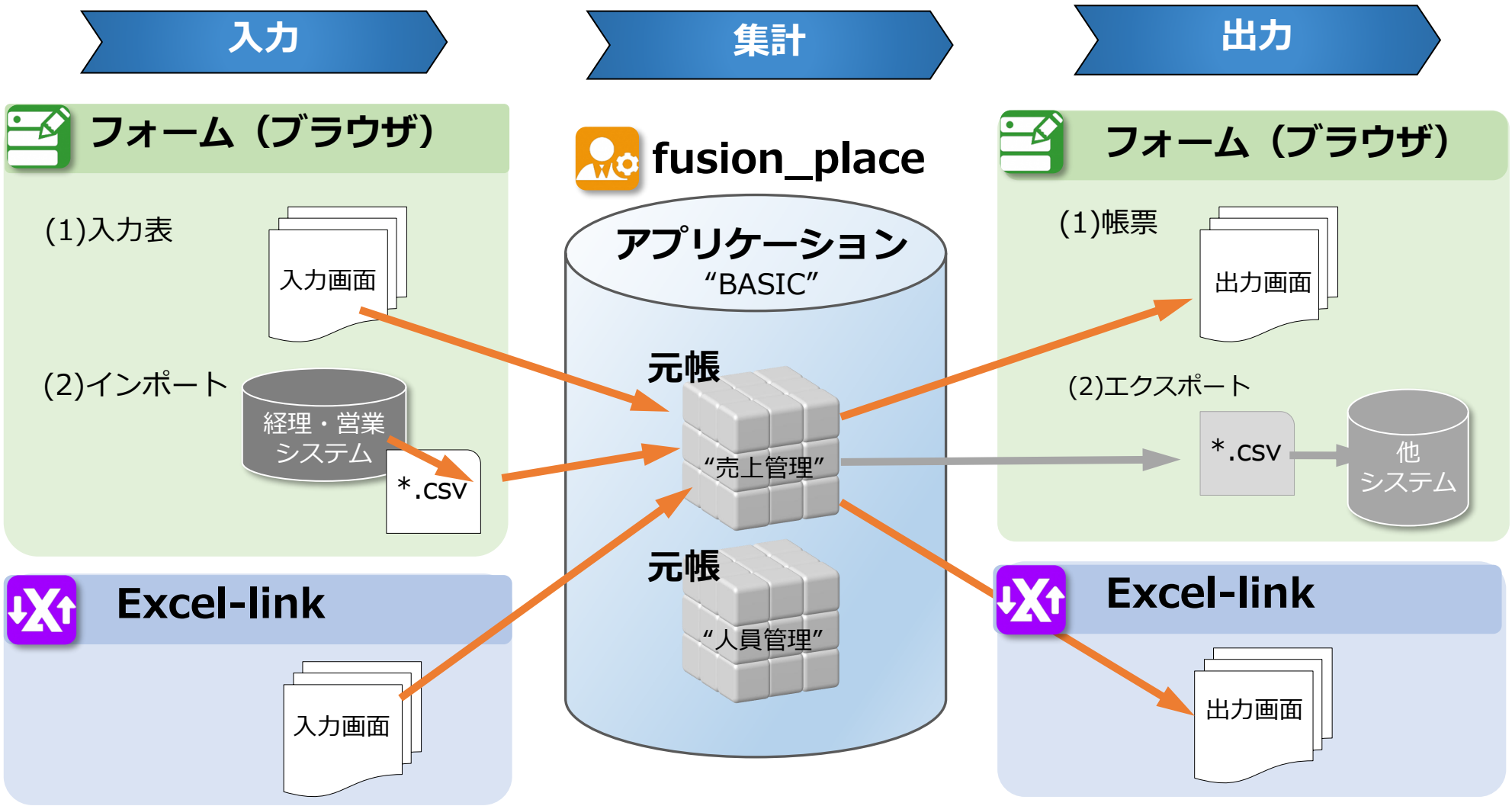
	第1部 10:00-12:00		第2部 13:00-14:30		第3部 14:45-16:45	
	質疑応答					
	1.fusion_place 基本概念	2.データ入出力①（フォーム）	3.データ集計①（ツリー構造）	4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）	5.データ入出力②（Excel-Link）	6.データ入出力③（インポート）
講義	1-1.ディメンションとメンバ 1-2.多次元データベースとは 1-3.fusion_placeにおけるディメンション 1-4.元帳とは	2-1.フォームとは 2-2.簡易版とフル機能版 2-3.フォームの作成方法	3-1.ツリー構造について 3-2.積み上げの考え方 3-3.メンバリスト	4-1.表示形式 4-2.勘定科目	5-1.Excel-Link概要 5-2.リンク機能(データ取得) 5-3.リンク機能(データ反映) 5-4.テンプレート処理	6-1.インポート概要 6-2.インポート（簡易版） 6-3.インポート(フル機能版)
デモ	アプリケーション 元帳	フォーム作成 入力	ツリー構造 積み上げ	表示形式 勘定科目	データ入力 データ出力	インポート
演習	演習1.基本設定	演習2.フォーム	演習3.データ集計①	演習4.相対期間/表示形式/勘定科目	演習5.データ入出力②（Excel-Link）	演習6.データ入出力③（インポート）
ならおいさ	fusion_placeの基本概念	データ入出力	ツリー構造と積み上げ	相対期間、表示形式、勘定科目	Excel-Link	インポート

事前準備

本研修では、架空の企業を題材に、説明および演習を進めます。
詳細は、下表のとおりです。

社名	株式会社ルバイヤート
業種	食器の販売
店舗	3店舗（六本木店、代官山店、横浜店）
取扱商品種類	和食器、洋食器、ガラス食器
あなたの所属	経営企画部門
fusion_place適用の業務	実績管理および予算編成
決算期間	4月1日から3月31日

本トレーニングの全体像



1.fusion_placeの基本概念

1-1.ディメンションとメンバ
1-2.多次元データベースとは
1-3.fusion_placeにおけるディメンション
1-4.元帳とは

1-1.ディメンションとメンバ

ディメンション(=次元)とは、データに付随する属性を管理する視点（切り口）を意味しています。
たとえば、以下の「店舗別×商品別×期間別売上表」を例にとって見てみましょう。

■店舗別×商品別×期間別売上表

店舗	商品＼期間	4月	5月	6月
六本木店	和食器	1,000	1,500	2,000
	洋食器	500	600	400
	ガラス食器	300	350	250
代官山店	和食器	400	500	600
	洋食器	200	150	300
	ガラス食器	100	125	150
横浜店	和食器	460	400	350
	洋食器	870	600	900
	ガラス食器	900	1,100	1,200

この表の場合、売上データを管理する切り口となっている店舗・商品・期間それぞれを、ディメンションと呼びます。また、ディメンションの構成要素をメンバと呼びます。
たとえば、店舗ディメンションのメンバは六本木店、代官山店、横浜店の３つです。

©2020 fusions corporation

1-2.多次元データベースとは

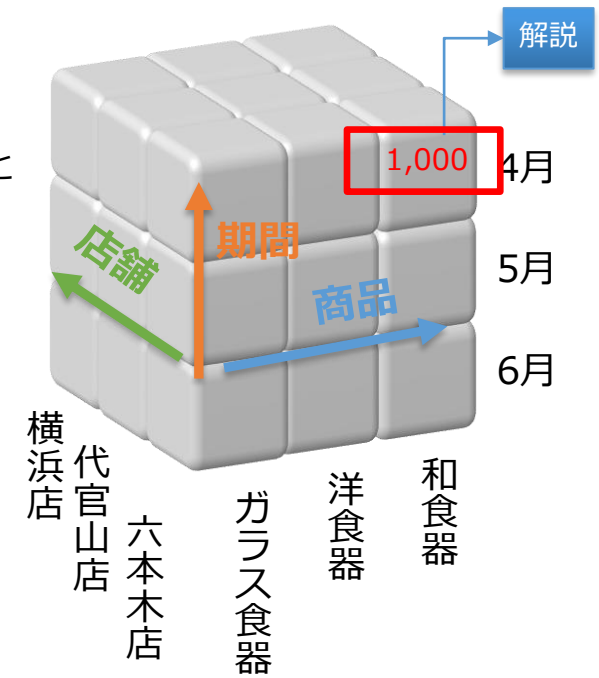
多次元データベースとは、複数のディメンションを持つデータを管理するための、データの入れ物のようなものと考えることができます。例のようにディメンションが3つであれば、多次元データベースは、立方体を区切った箱としてイメージできます。

■店舗別×商品別×期間別売上表

店舗	商品＼期間	4月	5月	6月
六本木店	和食器	1,000	1,500	2,000
	洋食器	500	600	400
	ガラス食器	300	350	250
代官山店	和食器	400	500	600
	洋食器	200	150	300
	ガラス食器	100	125	150
横浜店	和食器	460	400	350
	洋食器	870	600	900
	ガラス食器	900	1,100	1,200

多次元データベース

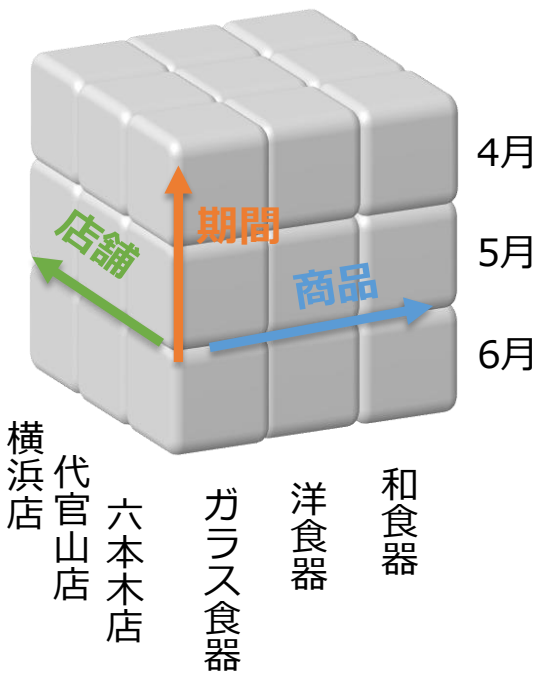
多次元
データベース
に格納してみると



解説 右上図の [　　] 枠のセルは「店舗：六本木」、「商品：和食器」、「期間：4月」のデータを格納するセルに、データ値「1,000」が入っています。

1-2.多次元データベースとは

多次元データベースを用いると、格納されているデータの取り出し順により、店舗と商品を入れ替えたレイアウトで表示することも可能です。



■**店舗別×商品別**×期間別売上表

店舗	商品＼期間	4月	5月	6月
六本木店	和食器	1,000	1,500	2,000
	洋食器	500	600	400
	ガラス食器	300	350	250
代官山店	和食器	400	500	600
	洋食器	200	150	300
	ガラス食器	100	125	150
横浜店	和食器	460	400	350
	洋食器	870	600	900
	ガラス食器	900	1,100	1,200

■**商品別×店舗別**×期間別売上表

商品	店舗＼期間	4月	5月	6月
和食器	六本木店	1,000	1,500	2,000
	代官山店	400	500	600
	横浜店	460	400	350
洋食器	六本木店	500	600	400
	代官山店	200	150	300
	横浜店	870	600	900
ガラス食器	六本木店	300	350	250
	代官山店	100	125	150
	横浜店	900	1,100	1,200

©2020 fusions corporation

1.fusion_placeの基本概念
1-3.fusion_placeにおけるディメンション

fusion_placeには、経営管理データを扱うための基本的なディメンションが予め準備されています。
更に用途に応じてディメンションを追加することが可能です。

- シナリオ（実績,予算,見込・・）
- 会計年度（FY2018,FY2019,FY2020,・・）
- 相対期間（4月,5月,1Q,2Q・・）
- 勘定科目（売上,売上原価,経費・・）※
- 増減科目（期首,期末,増加,なし・・）
- 表示形式（期別,四半期累計,半期累計,年度累計）

システムディメンション
（fusion_placeに予め準備されているディメンション）

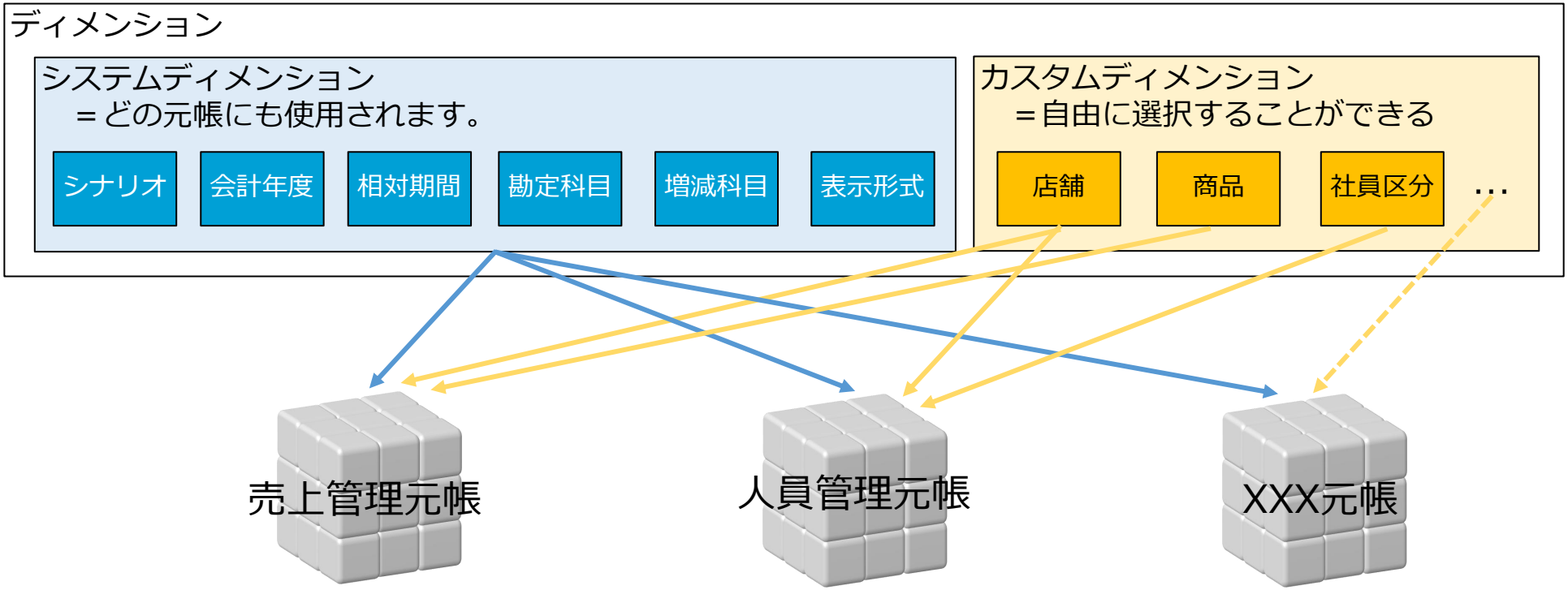
- 店舗（六本木,代官山,横浜・・）
- 商品（和食器,洋食器,ガラス食器・・）
- ・・・

カスタムディメンション
（任意に追加できるディメンション）

※勘定科目ディメンションには、会計用語としての勘定科目ではないメンバ（人員数、KPI等）も登録できます。

1-4.元帳とは

元帳とは、fusion_placeにおける多次元データベースのことです。
ディメンションを登録しただけではデータの入れ物は作られません。fusion_placeに登録されているディメンションの中から、使用したいものを選択して元帳を作成します。
システムディメンションはどの元帳にも使用されます。カスタムディメンションは元帳ごとに自由に選択することができます。また、目的に応じて複数の元帳を作成することができます。



1.fusion_placeの基本概念
（参考）元帳の段階的な拡張

fusion_placeは扱うデータを段階的に拡張することができます。

❶実績、見込み、予算のPL数値を勘定別に**PL元帳**で管理

・期間
・シナリオ
・勘定科目
・組織

	実績				見込		
	4月 実績	5月 実績	6月 実績	7月 実績	8月 見込	9月 見込	累計
売上高	1,100	1,150	1,200	1,250	1,300	1,350	
売上原価	700	710	720	730	740	750	
売上総利益	400	440	480	520	560	600	
給与・賞与	120	120	120	120			
広告宣伝費	60	60	60	60			
旅費交通費	80	80	80	80			
：	：	：	：	：			

❸**商品別売上元帳**を追加することで、商品別の売上にドリルダウン、入力管理が可能

商品部門	4月	5月	6月	7月
和食器	300	300	300	350
洋食器	400	450	450	450
ガラス食器	400	400	450	450
計	**1,100**	**1,150**	**1,200**	**1,250**

・期間
・シナリオ
・勘定科目
・組織
・**商品部門**

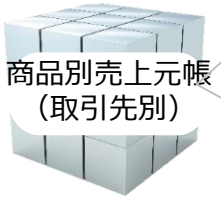
❷経費の**伝票明細元帳**を追加することで伝票明細にドリルダウン可能

日付	伝票No.	組織	勘定科目	金額	摘要
1日	＃00001	六本木店	旅費交通費	22,300	A社訪問電車代
1日	＃00002	六本木店	旅費交通費	34,700	B社訪問タクシー代
2日	＃00003	六本木店	旅費交通費	23,000	C社訪問宿泊費
計				**80,000**	

・期間
・シナリオ
・勘定科目
・組織
・**伝票番号**
・**伝票日付**
・**摘要**

❹商品別の売上に取引先の管理軸が増えた場合、**商品別売上元帳（取引先別）**を追加

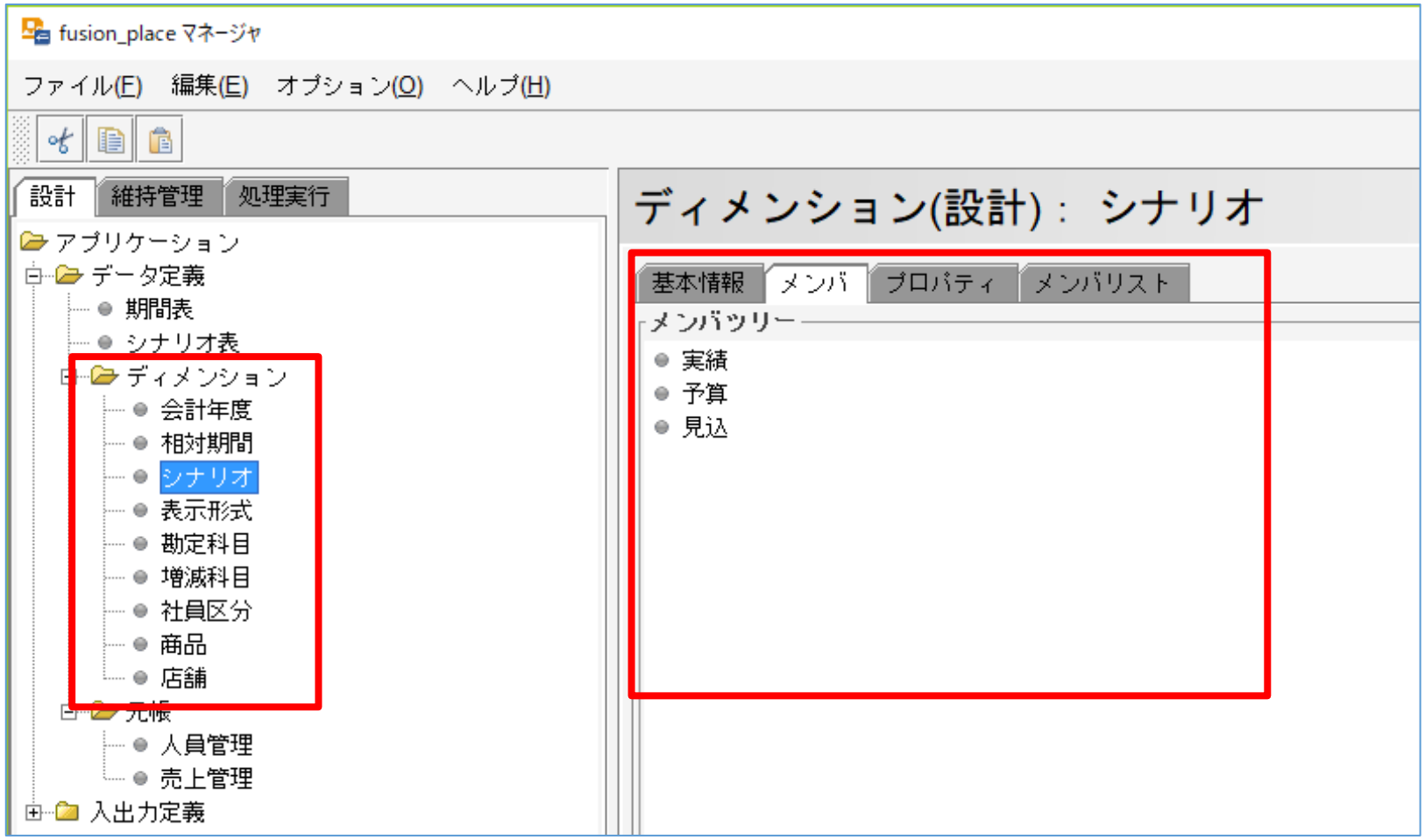
過去データコピー



・期間
・シナリオ
・勘定科目
・組織
・**商品部門**
・**取引先**

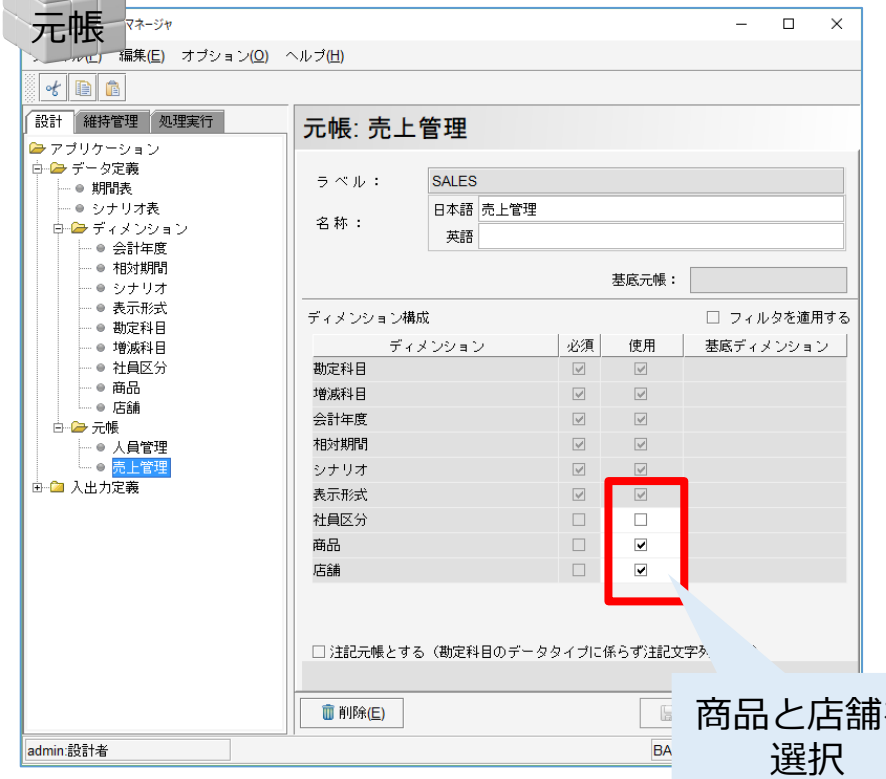
1.fusion_placeの基本概念
デモ

それでは実際にfusion_placeの実機で確認していきましょう。



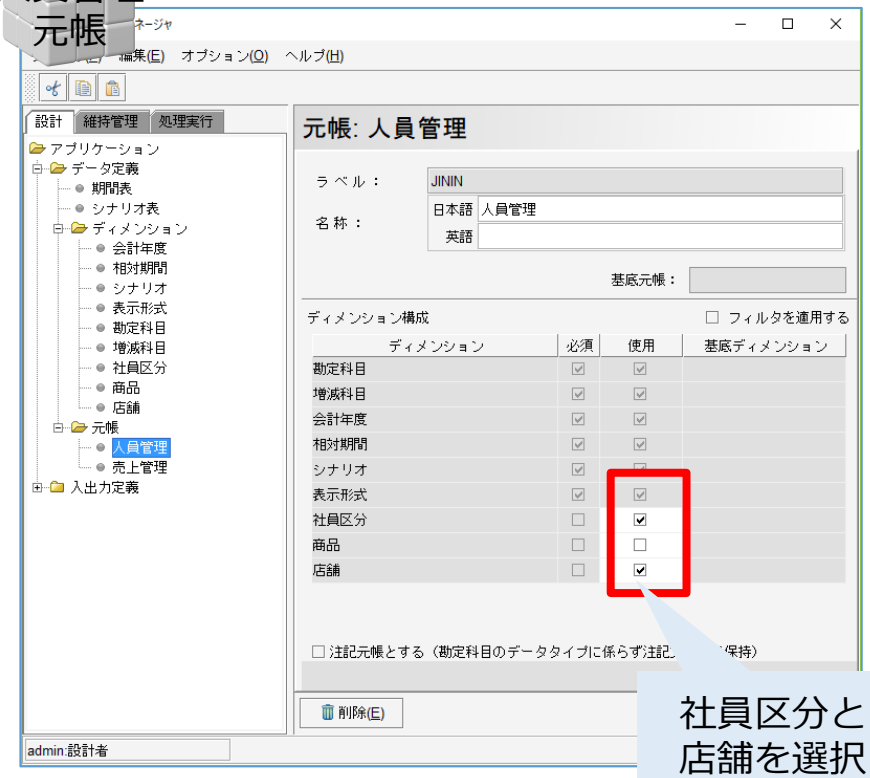
1.fusion_placeの基本概念
デモ

売上管理
元帳



商品と店舗を
選択

人員管理
元帳



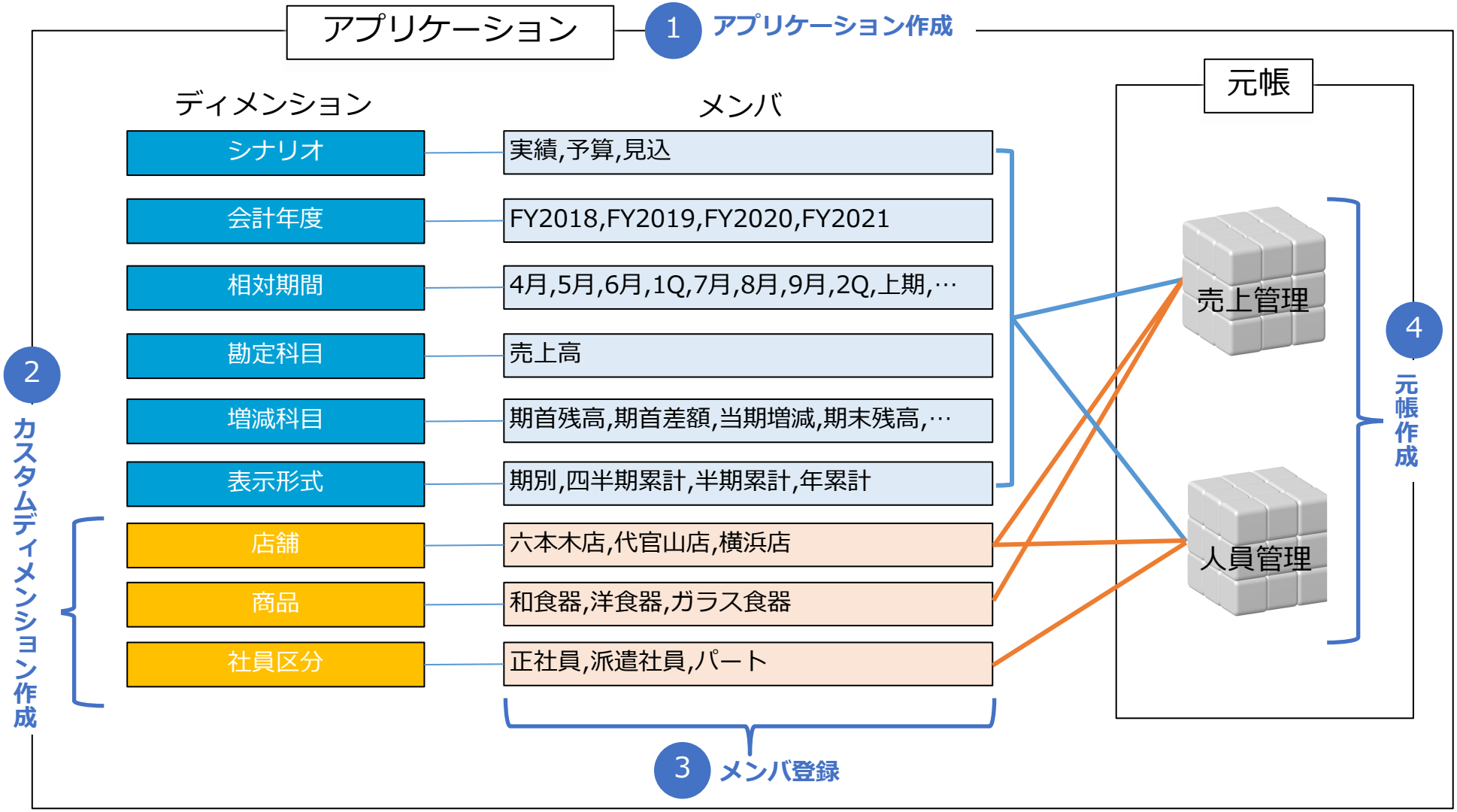
社員区分と
店舗を選択

演習1.基本設定

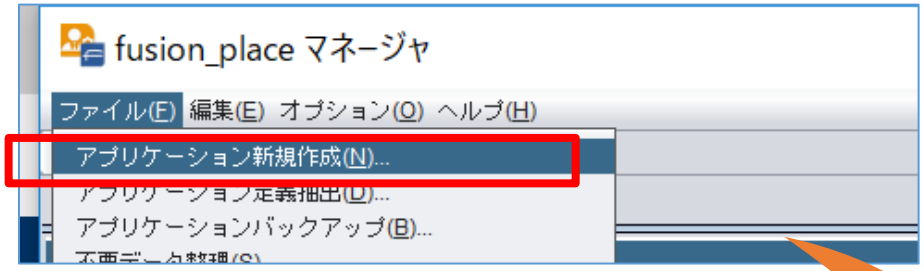
⓪演習の全体像
①アプリケーション作成
②ディメンション作成
③メンバ登録
④元帳作成

演習1.基本設定
⓪演習の全体像

当演習では、アプリケーション作成(①)から、元帳作成(④)までの作業を習得して頂きます。

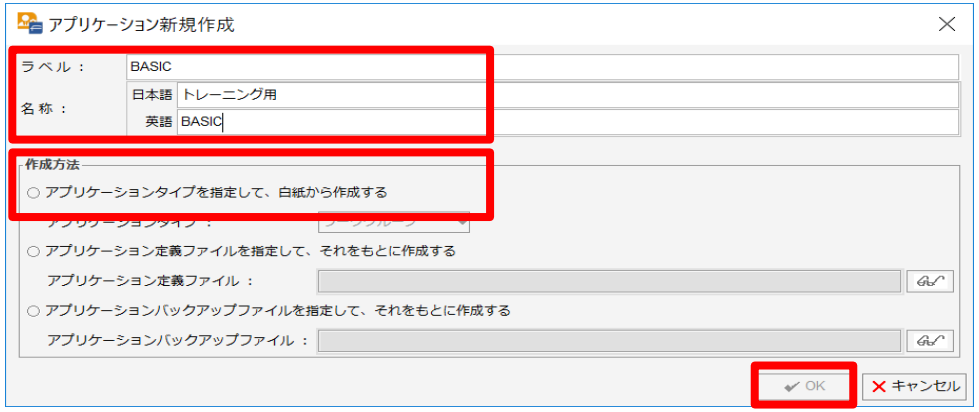


演習1.基本設定
①アプリケーション作成



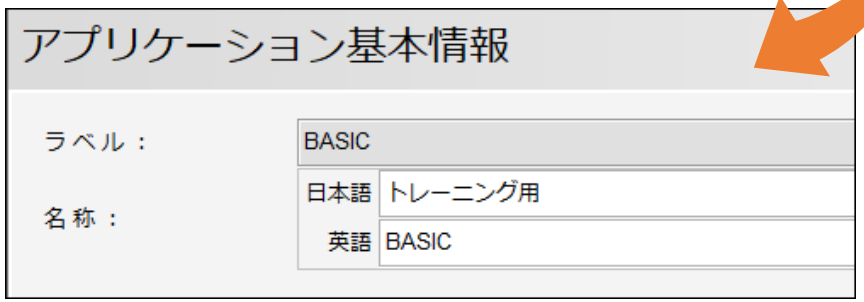
1.fusion_placeメニューから「マネージャ」アイコンをクリックしログインします。
（アプリケーション選択は不要です）

2.メニューから[ファイル]→[アプリケーション新規作成]を選択します（左図）。



3.『アプリケーション新規作成』画面で
- ラベル　　:BASICn（※）
- 名称(日本語)　:トレーニング用(n)（※）
- 作成方法　　:アプリケーションタイプを指定して白紙から作成する
- アプリケーションタイプ: ワークグループ

を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

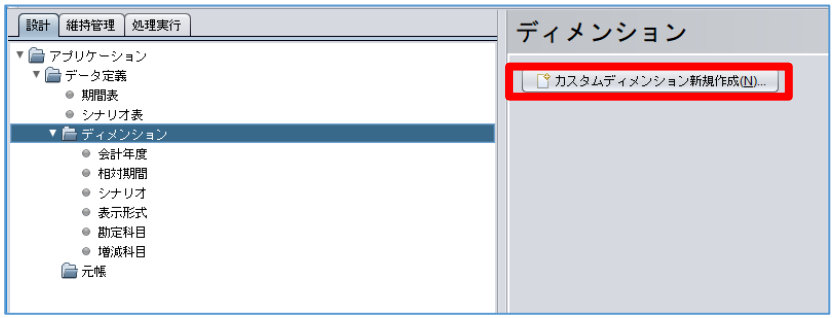


4.アプリケーションが作成されます。

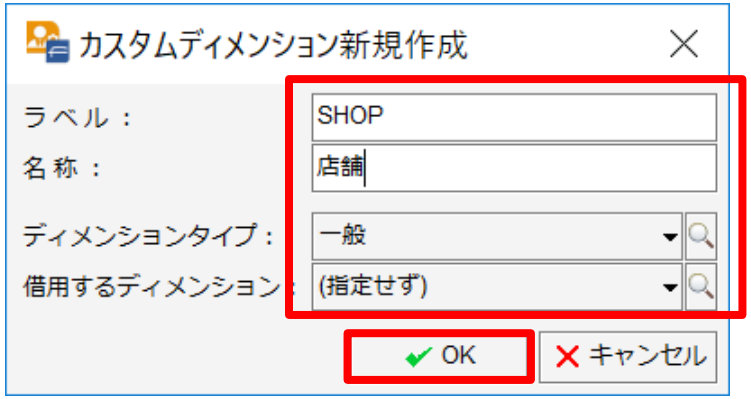
（※）n
複数のトレーニング受講者が、共通のfusion_placeサーバーにアクセスしている場合、各受講者はアプリケーションラベルと名称の末尾に、異なる数字(n)を付し、個々のアプリケーションを作成してください（例：BASIC1、BASIC2）。単独の場合は、「BASIC」で結構です。

演習1.基本設定
②ディメンション作成

カスタムディメンションを登録します。



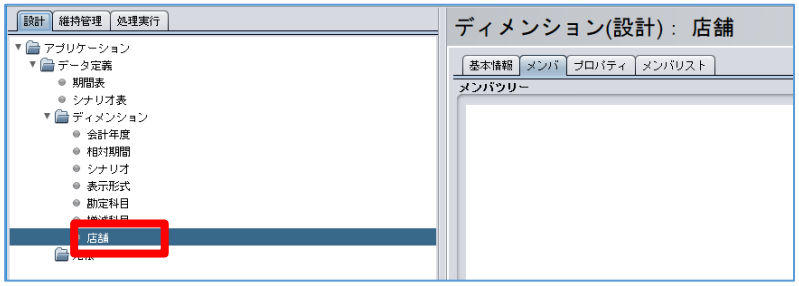
1.設計タブから[ディメンション]を選択した状態で、「カスタムディメンション新規作成」ボタンをクリックします。



2.『カスタムディメンション新規作成』画面で

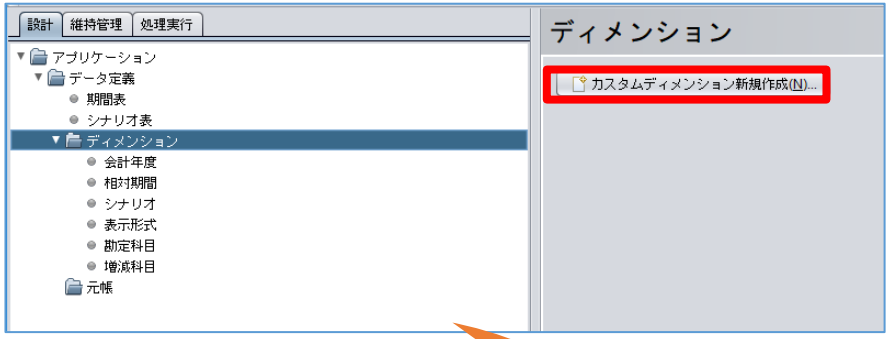
- ・ラベル　:SHOP
- ・名称　:店舗
- ・ディメンションタイプ　:一般
- ・借用するディメンション　:(指定せず)

を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



3.ディメンション「店舗」が作成されます。

演習1.基本設定
②ディメンション作成



4.同様の手順にてディメンション商品、社員区分を作成します。

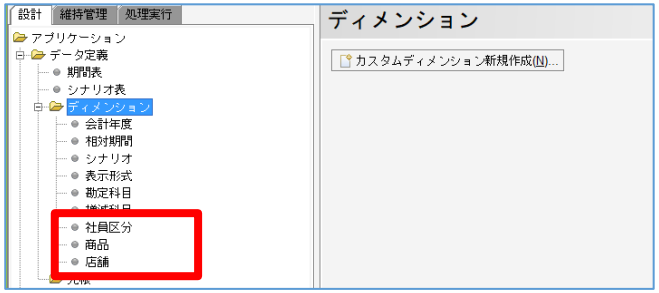
■商品

・ラベル　:PRODUCT
・名称　:商品
・ディメンションタイプ　:一般
・借用するディメンション　:(指定せず)

■社員区分

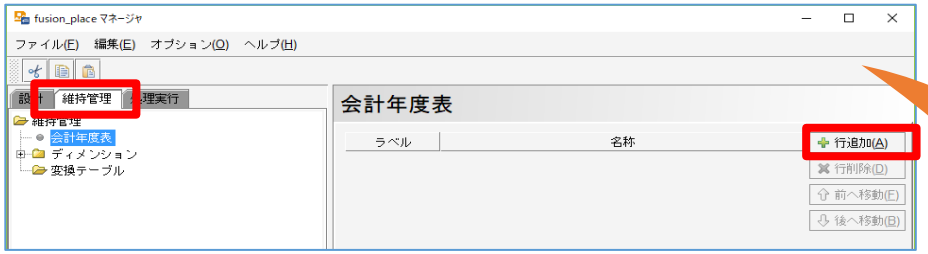
・ラベル　:EMPTYPE
・名称　:社員区分
・ディメンションタイプ　:一般
・借用するディメンション　:(指定せず)

5.右画面のように、ディメンション「商品」「社員区分」が作成されます。

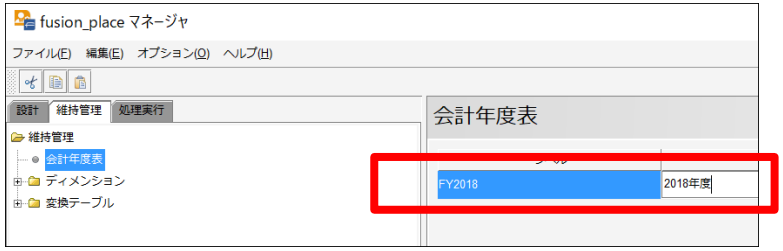


演習1.基本設定
③メンバ登録

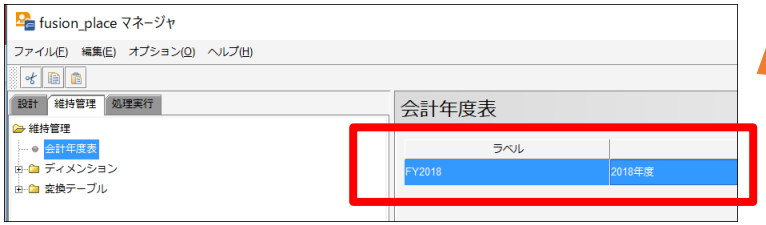
ディメンション「会計年度」を登録します。ディメンションの種類により、登録方法が異なります。



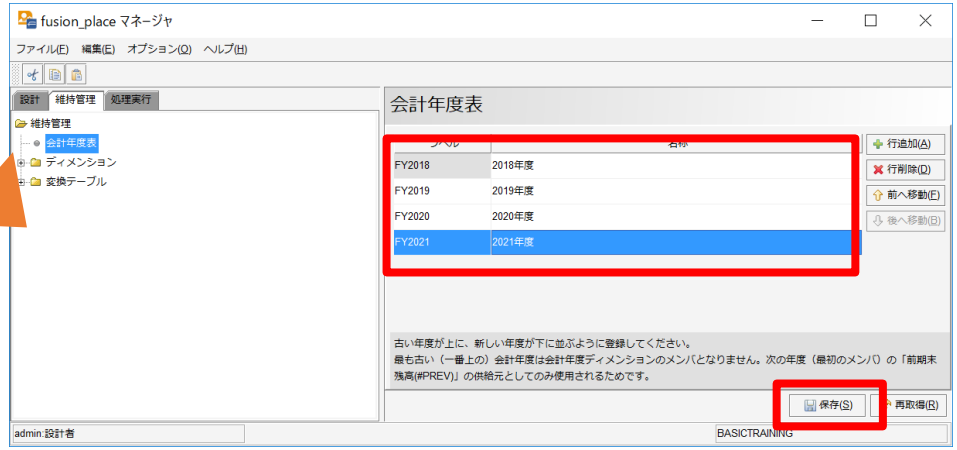
1.維持管理タブから [会計年度表]を選択し、
「行追加」ボタンをクリックします。



2.表示された項目に
・ラベル/名称：FY2018/2018年度
を入力し、「Enter」キーをクリックします。



3.会計年度が作成されます。



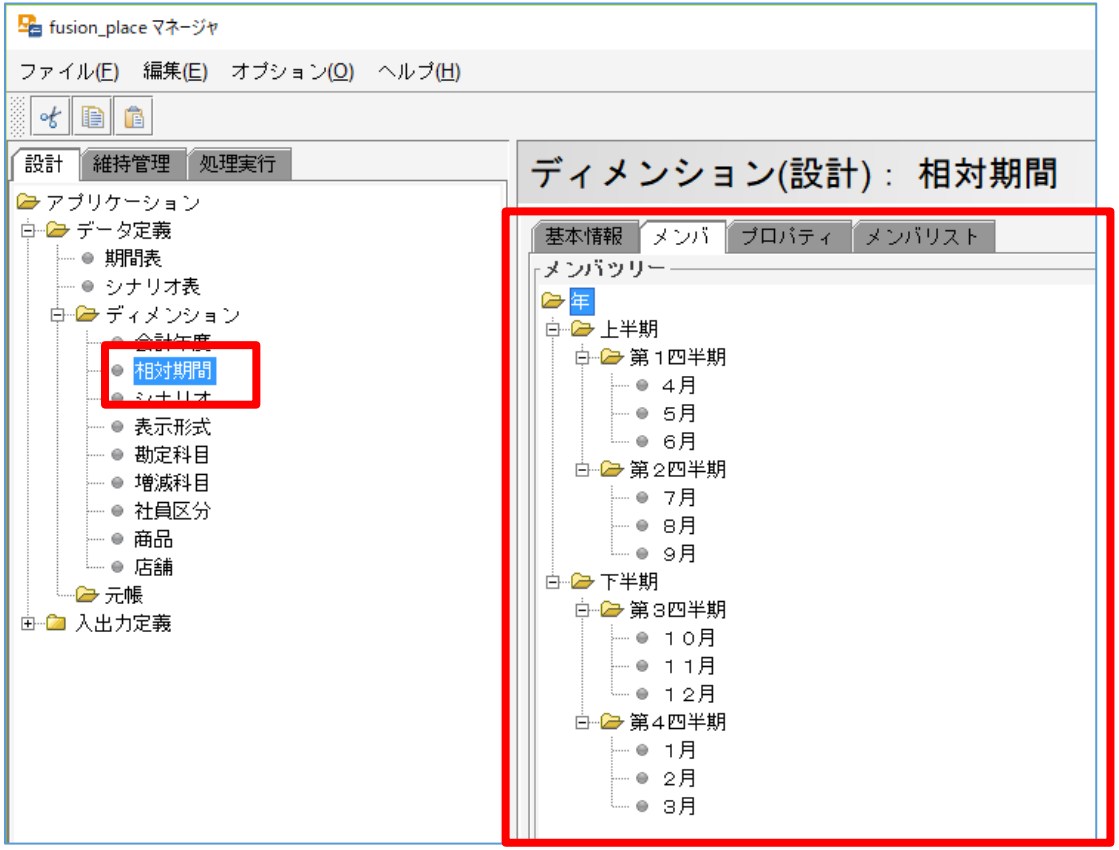
4.同様の手順で以下を登録し、保存します。

・ラベル/名称：FY2018/2018年度
・ラベル/名称：FY2019/2019年度
・ラベル/名称：FY2020/2020年度
・ラベル/名称：FY2021/2021年度

一番古い会計年度は、会計年度ディメンションのメンバになりません。次の年度(最初のメンバ)の「前期末残高」の供給元としてのみ使用。

演習1.基本設定
③メンバ登録

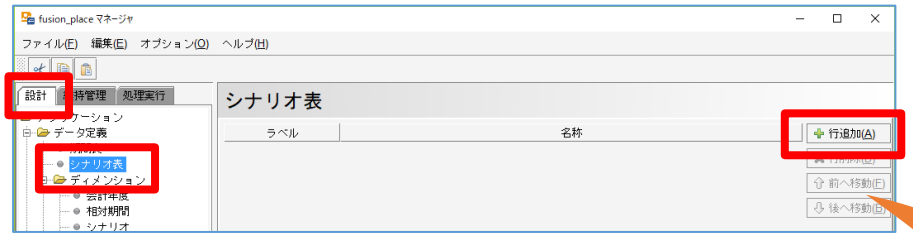
ディメンション「相対期間」は、予め標準で設定されているため、登録不要です。



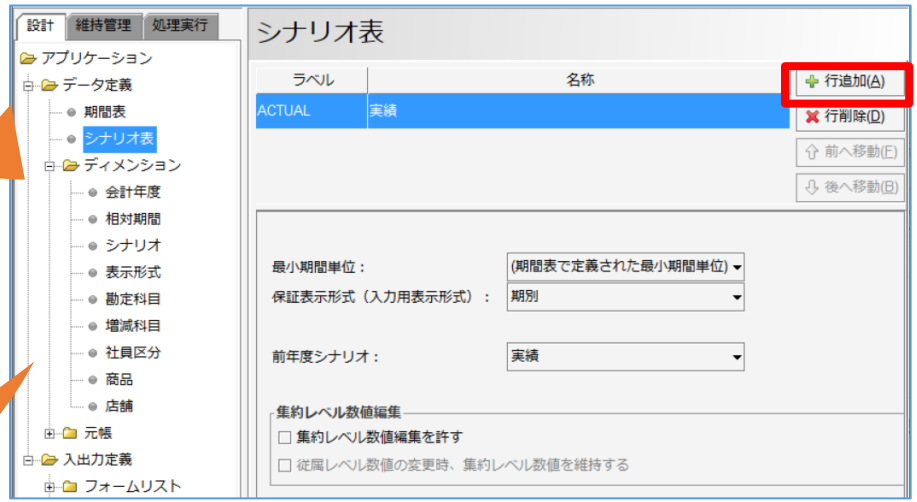
※　デフォルトでは4月に始まる月別の相対期間が設定されますが、それ以外の相対期間を設定することも可能です。

演習1.基本設定
③メンバ登録

ディメンション「シナリオ」を登録します。

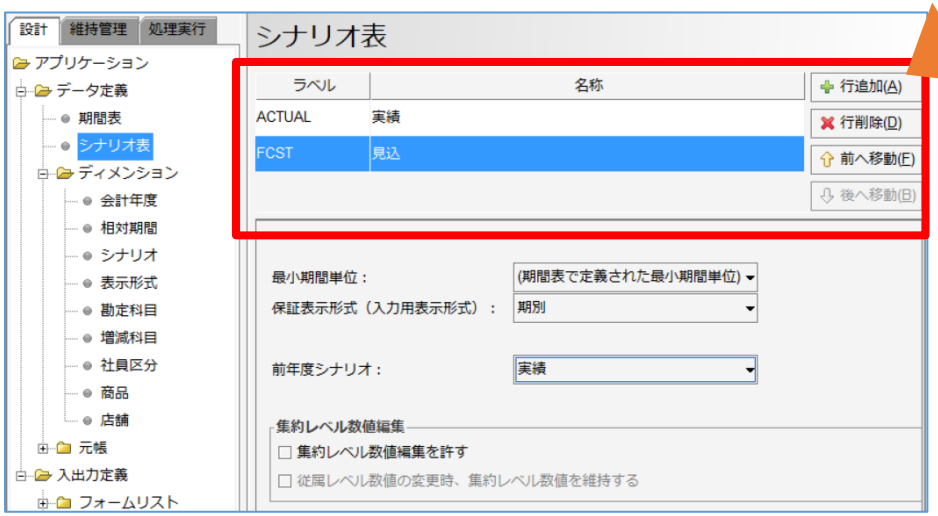


1.設計タブから[シナリオ表]を選択し、「行追加」ボタンをクリックします。



2.表示された項目に以下を入力します。

- ラベル/名称　　：ACTUAL/実績
- 保証表示形式　　：期別(4章で詳しく説明)
  (入力用表示形式)
- 前年度シナリオ：実績

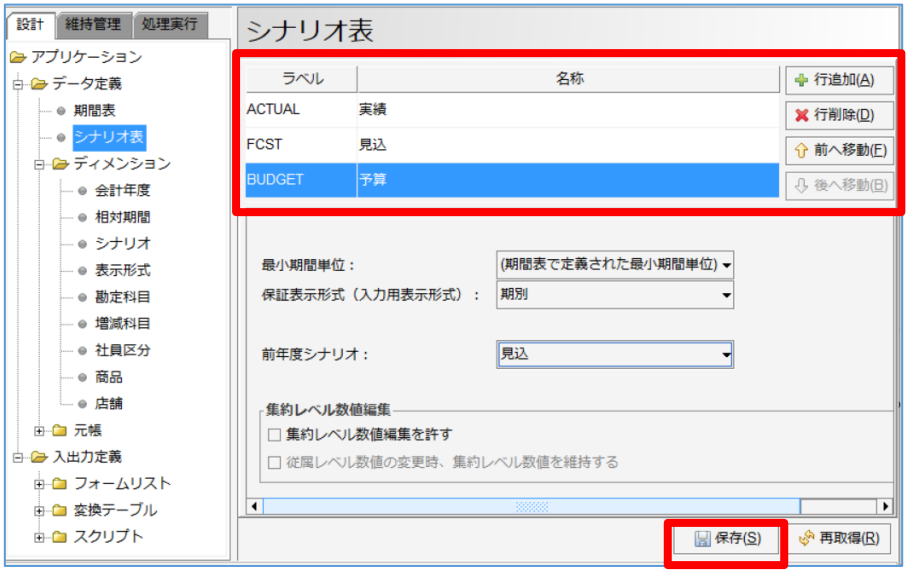


3.同様の手順で、見込メンバを登録します。

- ラベル/名称　　：FCST/見込
- 保証表示形式　　：期別
  (入力用表示形式)
- 前年度シナリオ：実績

※他の部分は、初期設定のままとします。

演習1.基本設定
③メンバ登録



4.同様の手順で、予算メンバを登録し、最後に「保存」ボタンをクリックします。

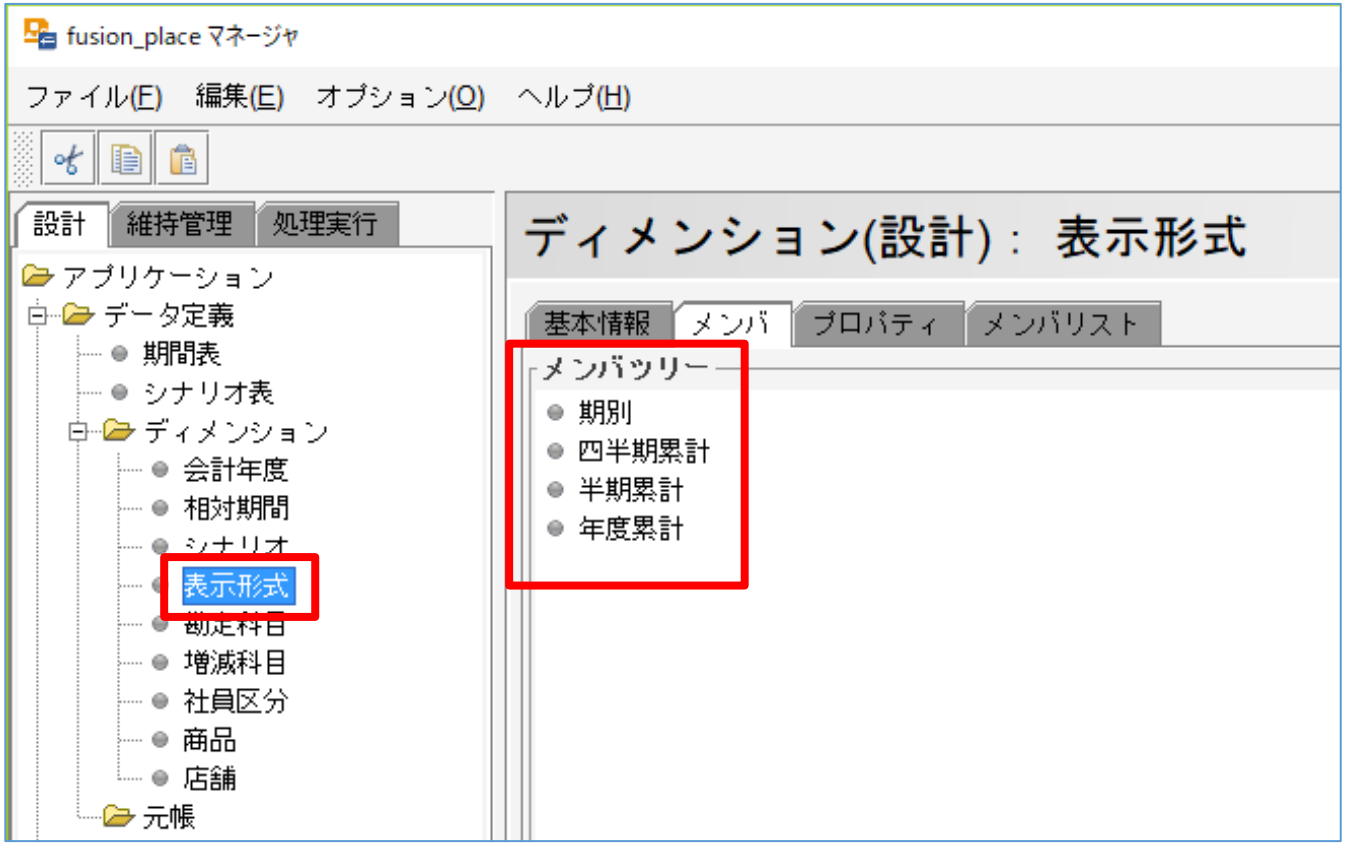
- ラベル/名称　　：BUDGET/予算
- 保証表示形式　　：期別
  （入力用表示形式）
- 前年度シナリオ：見込

保証表示形式（入力用表示形式）：
値を変更した期間の後続期間において変更の影響を受けないことを保証する表示形式のことです。
詳細は、https://docs.fusionplace.net/manual/ja/concepts/dimensions/assured_view.htmlを参照ください。
また、各シナリオのデータ入力は、保証表示形式でのみ許されます。(参照はいずれの表示形式でも可能)
どの表示形式を選択すべきかはシナリオによって異なることがあります。例えば、予算については期別値を入力し、実績値については制度決算に合わせて年度累計値等を入力することにすると便利な場合があります。

前年度シナリオ：
BS科目や在庫などのバランス勘定科目について、期末残高をどのシナリオから引き継ぐかを指定するため、シナリオごとに「前年度シナリオ」を指定することができます。
多くの場合、前年度シナリオはそのシナリオ自身*ですが、当演習では、予算策定時には当年度の期末残高実績は未確定のため、期末見込をもとにする運用を想定し、「予算」シナリオの前年度シナリオとして「見込」シナリオを指定しています。
*「PL科目」しか使用しない場合や「前年度末残高」の数値を使用しない場合、期首引継ぎは必要ありませんので、前年度シナリオとして、そのシナリオ自体を指定しておいて特に問題ありません。

演習1.基本設定
③メンバ登録

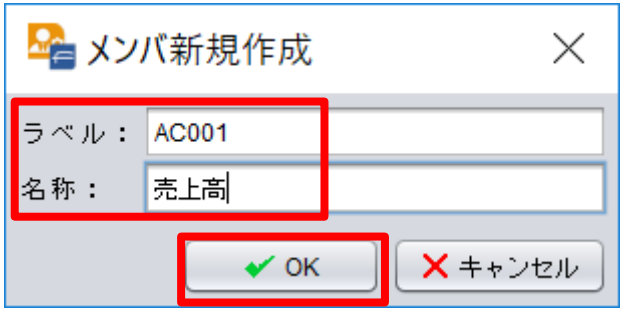
ディメンション「表示形式」は、予め標準で設定されており、登録不要です。詳細は4章で説明します。



演習1.基本設定
③メンバ登録

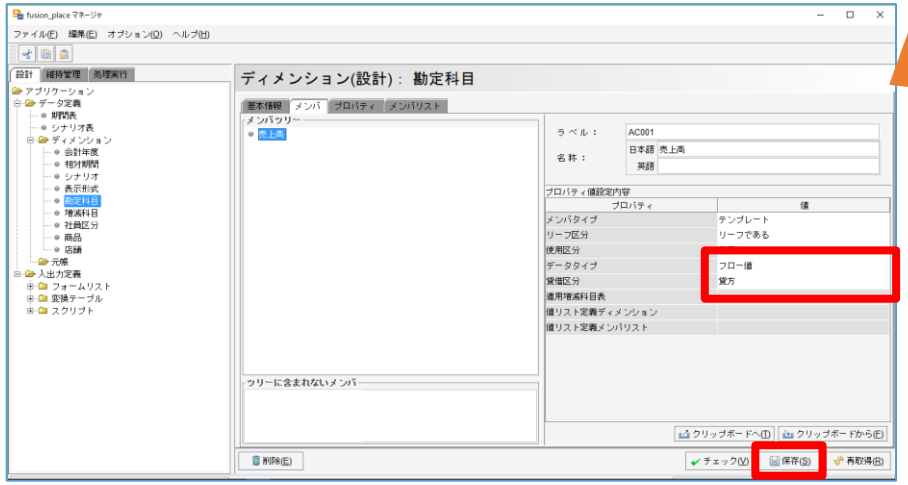
ディメンション「勘定科目」を登録します。

1.設計タブからディメンション:[勘定科目]を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[メンバを追加]→[ルートメンバ]をクリックします。



2.『メンバ新規作成』画面で
- ・ラベル　　:AC001
- ・名称　　:売上高

を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



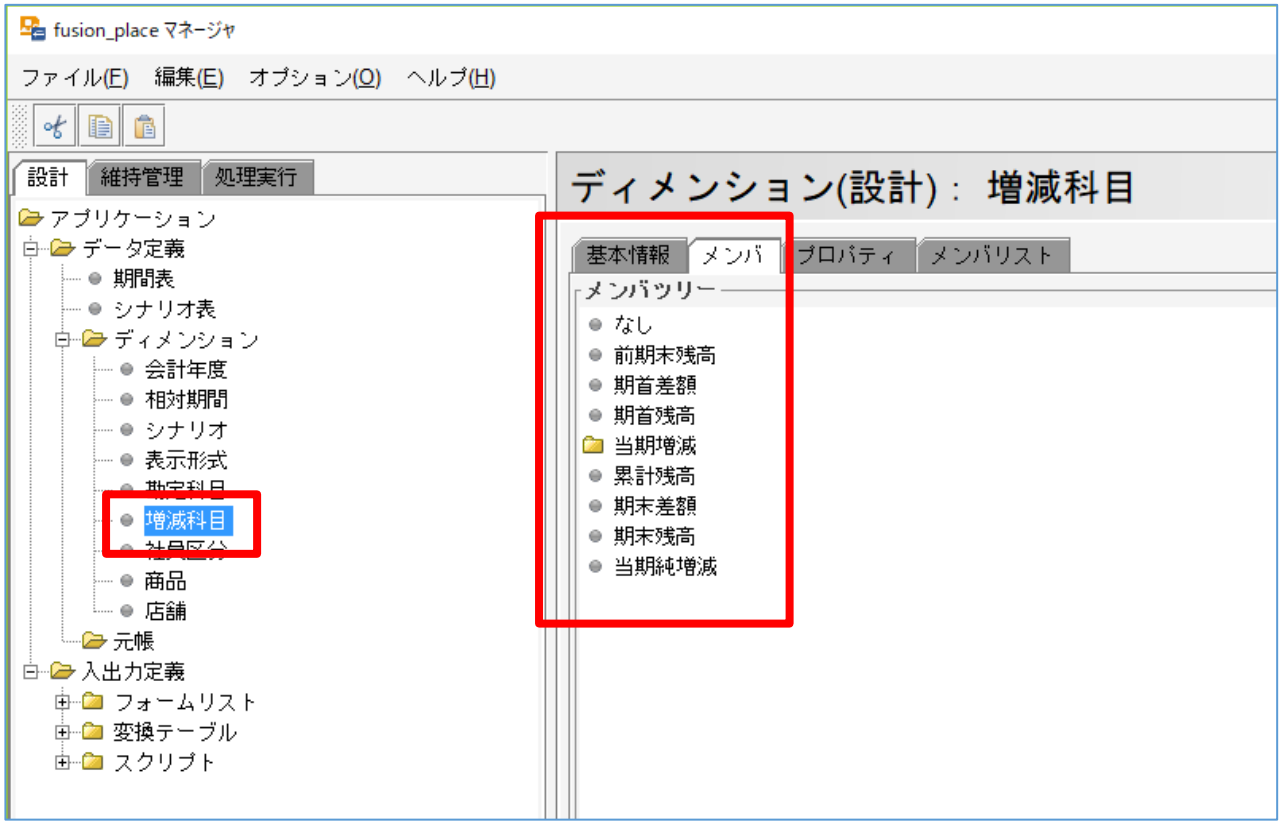
3.プロパティ値設定内容フィールドにて
- ・データタイプ：フロー値
- ・貸借区分　　：貸方

を選択し、「保存」ボタンをクリックします。

※プロパティ値については、3章・4章で説明します。

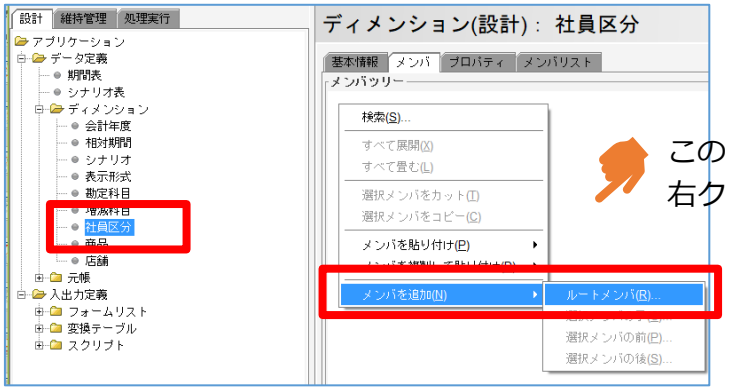
演習1.基本設定
③メンバ登録

ディメンション「増減科目」は、予め標準で設定されているため、登録不要です。



演習1.基本設定
③メンバ登録

カスタムディメンションに、メンバを登録します。

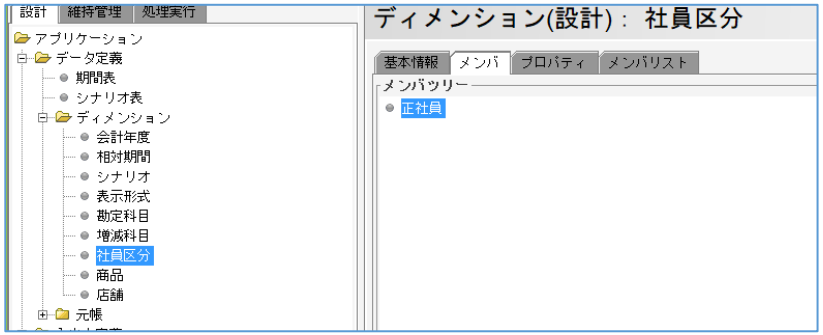


このフィールドで
右クリック。

1.設計タブからディメンション:[社員区分]を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[メンバを追加]→[ルートメンバ]をクリックします。

2.『メンバ新規作成』画面で
- ・ラベル　　:EMP_TYPE1
- ・名称　　:正社員

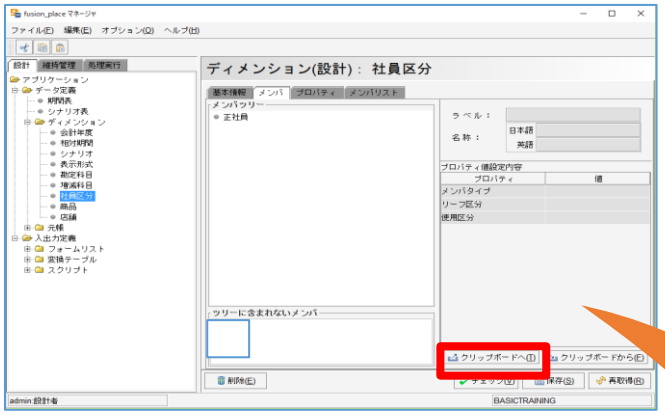
を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



3.メンバ「正社員」が作成されます。

演習1.基本設定
③メンバ登録

[メンバツリーフィールド]で、一つずつメンバを追加する方法のほかに、Excel シートに登録されたデータをもとに、ディメンションのメンバを、一括して追加することもできます。



4.設計タブからディメンション:[社員区分]を選択した状態で、メンバパネルで「クリップボードへ」ボタンをクリックします。

5. ExcelシートのA1セルにカーソルを置いた状態で、Ctrl-Vで貼り付けて下さい。下図のようにメンバ登録データが貼り付けられます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	HDR	LABEL	REMOVE_CHILDREN	NAME:en	NAME:ja	P:#MEMBER_TYPE	P:#LEAF	P:#ACTIVE	PARENT	IS_ROOT
2	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE1	TRUE		正社員	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
3											

6. 貼り付けられたデータに、右図下段のように2行追加します。
■3行目
・LABEL　：EMP_TYPE2
・NAME:ja：派遣社員
■4行目
・LABEL　：EMP_TYPE3
・NAME:ja：パート
他の項目は正社員メンバ（2行目）と同じとします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	HDR	LABEL	REMOVE_CHILDREN	NAME:en	NAME:ja	P:#MEMBER_TYPE	P:#LEAF	P:#ACTIVE	PARENT	IS_ROOT
2	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE1	TRUE		正社員	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
3	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE2	TRUE		派遣社員	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
4	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE3	TRUE		パート	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
5											

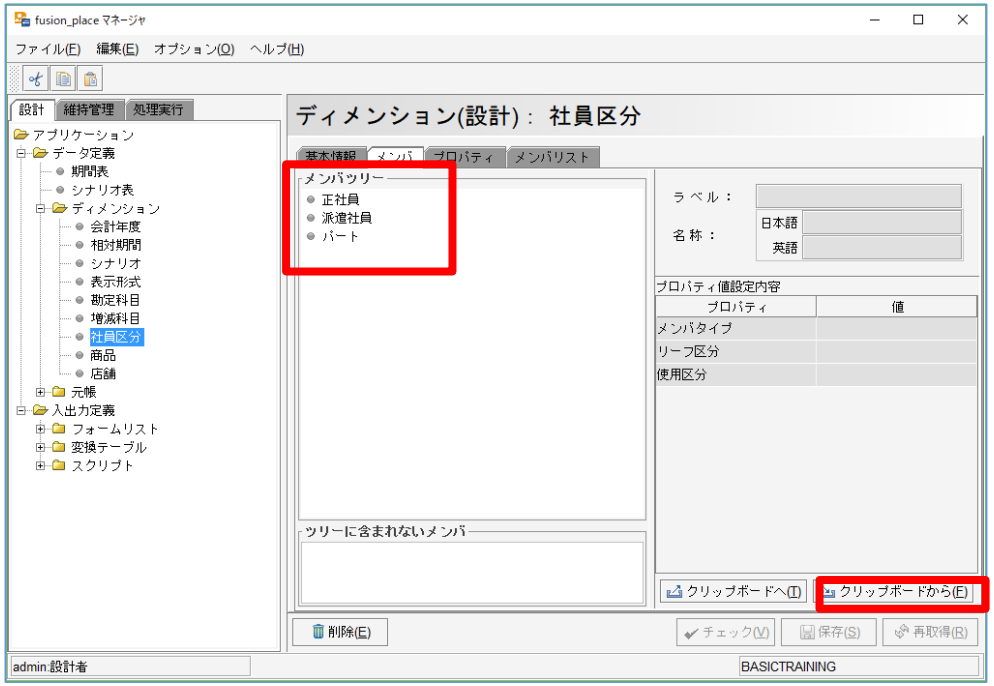
演習1.基本設定
③メンバ登録

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	HDR	LABEL	REMOVE_CHILDREN	NAME:en	NAME:ja	P:#MEMBER_TYPE	P:#LEAF	P:#ACTIVE	PARENT	IS_ROOT
2	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE1	TRUE		正社員	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
3	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE2	TRUE		派遣社員	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
4	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	EMP_TYPE3	TRUE		パート	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
5											

7.メンバを追加したExcelシート上の範囲を選択し、コピーします。
※同梱のBasicTraining_貼り付け用.xlsx
>演習1.③からもコピーできます。

8.「クリップボードから」ボタンをクリックします。
メンバが追加作成されます。

確認して右下の保存ボタンをクリックして下さい。変更内容が保存されます。

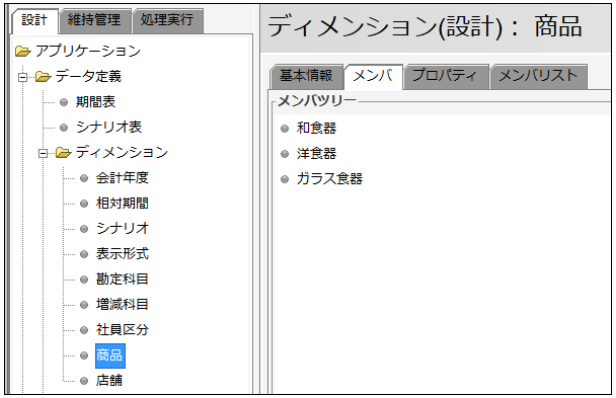


演習1.基本設定
③メンバ登録

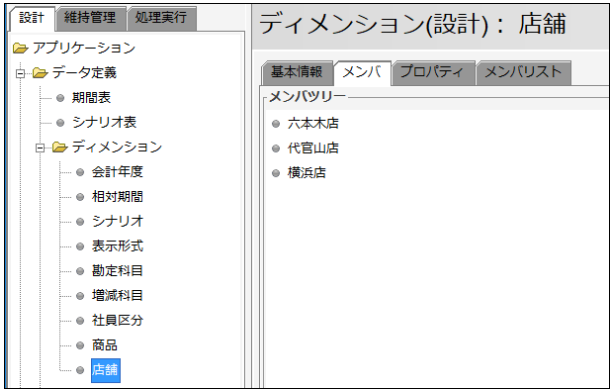
ディメンション	メンバ/ラベル	メンバ/名称
社員区分	EMP_TYPE1	正社員
	EMP_TYPE2	派遣社員
	EMP_TYPE3	パート
商品	PRODUCT1	和食器
	PRODUCT2	洋食器
	PRODUCT3	ガラス食器
店舗	SHOP1	六本木店
	SHOP2	代官山店
	SHOP3	横浜店

9.同様の手順で、左表の通り、商品・店舗ディメンションにメンバを登録します。下図も、ご参照ください。

■商品



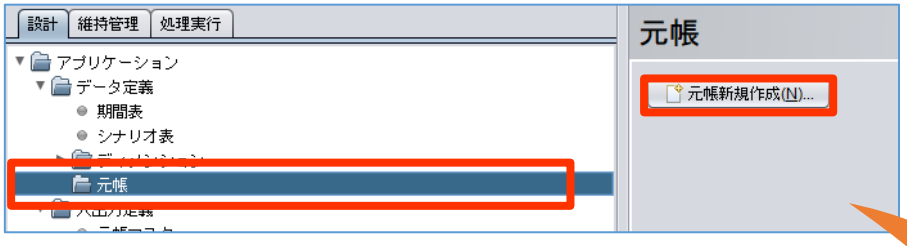
■店舗



10.各ディメンションにメンバが登録されます。

演習1.基本設定
④元帳作成

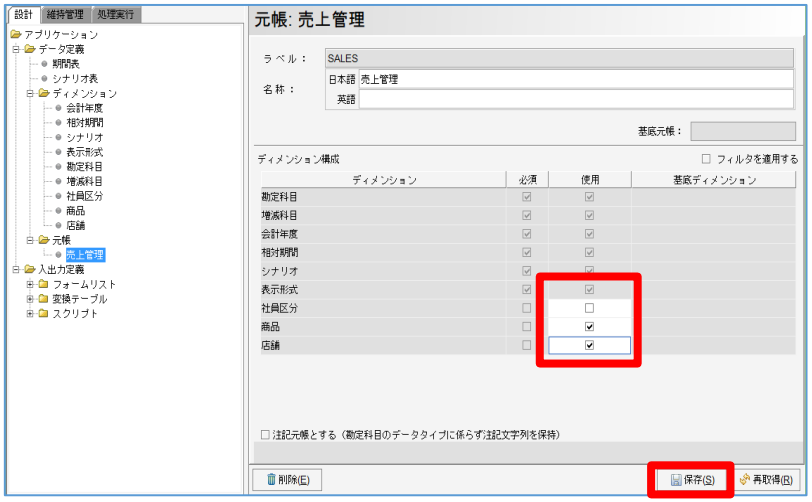
「元帳」を作成します。



1.設計タブから[元帳]を選択し、「元帳新規作成」ボタンをクリックします。

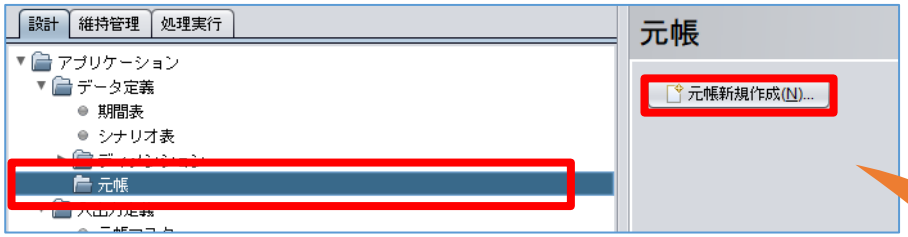
2.『元帳新規作成』画面で
- ・ラベル/名称　　：SALES/売上管理
- ・基底元帳　　：(指定せず)

を入力し、「OK」ボタンをクリック。



3.使用欄で[商品][店舗]にチェックを入れ、「保存」ボタンをクリックします。

演習1.基本設定
④元帳作成



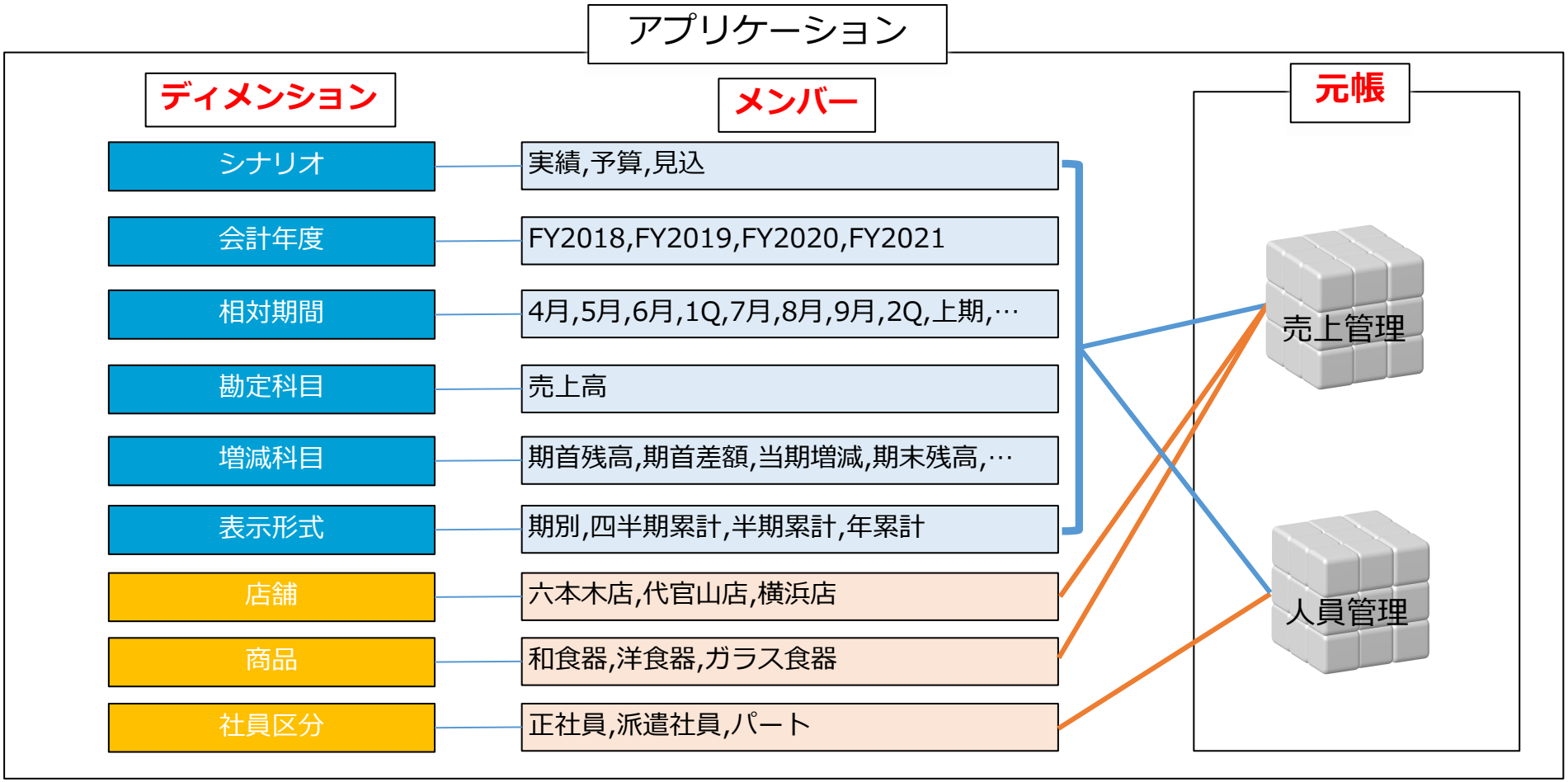
4.同様の手順で人員管理元帳も作ってみましょう。

5.『元帳新規作成』画面で
・ラベル/名称　　：JININ/人員管理
・基底元帳　　：(指定せず)
を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

6.使用欄で[社員区分][店舗]にチェックを入れ、
「保存」ボタンをクリックします。

1.fusion_placeの基本概念
おさらい

以上で、fusion_placeの基本設定は終了です。「ディメンション」「メンバ」「元帳(＝多次元データベース」の概念をしっかりご理解ください。



1.fusion_placeの基本概念
Tips（ルック＆フィール）

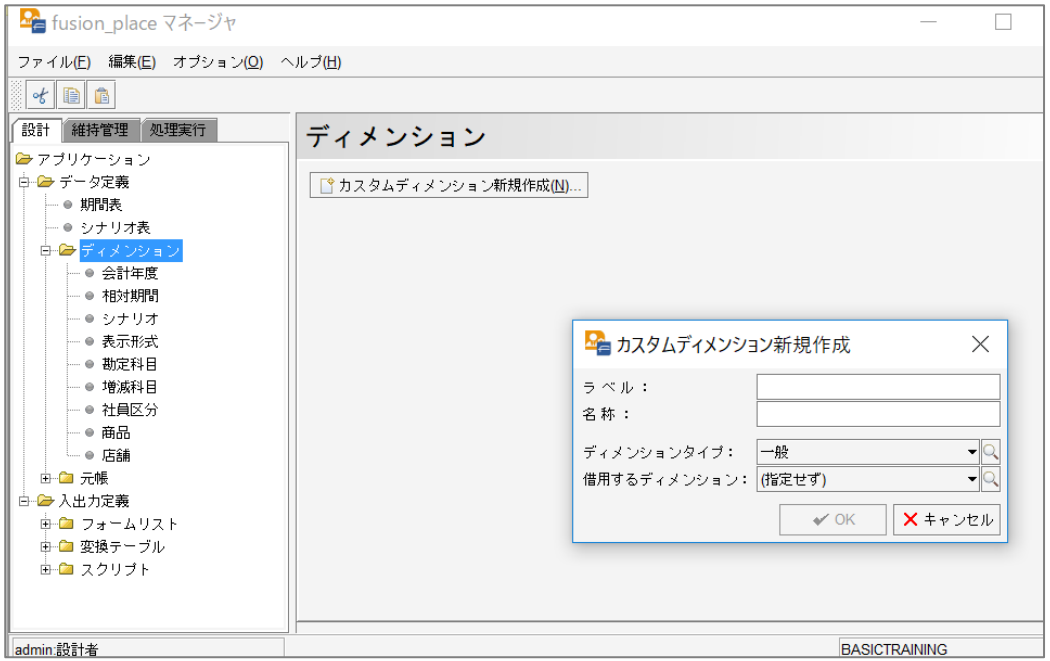
ルック&フィールとは画面の見た目（イメージ）を意味します。

fusion_placeでは予めシステムに登録されたルック＆フィールから選択することができます。
マネージャ、ブラウザ、コントリビュータの何れかにログイン後、メニューの「オプション」→「ルック＆フィール」からお好みのタイプを指定してください。

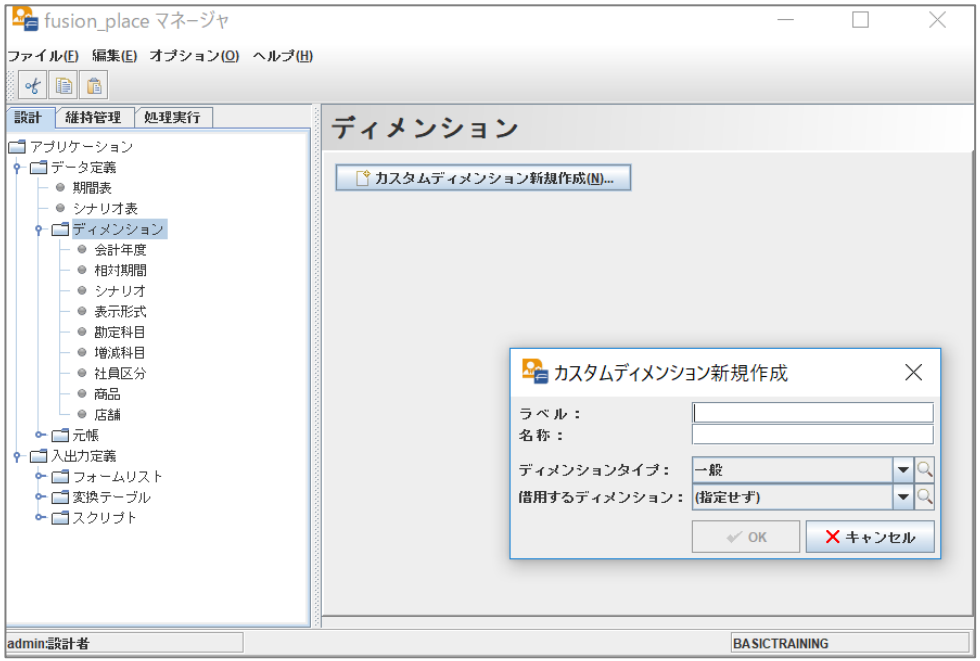
※ 指定したルック＆フィールを反映するには、マネージャ等の再起動が必要です。

<u>ルック＆フィールの例</u>

[プラスチックの場合]



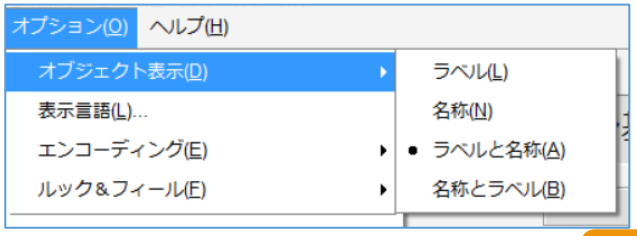
[メタルの場合]



1.fusion_placeの基本概念
Tips（メンバの表示を切り替える）

fusion_place のディメンションやメンバ、フォーム等は、ラベル、名称、その組み合わせで表示を切り替えることができます。

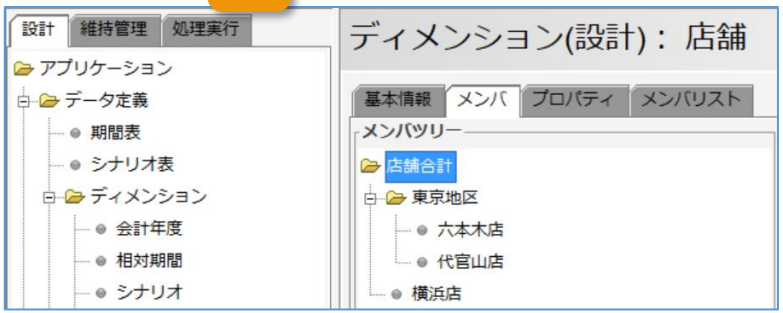
メニューから [オプション] > [オブジェクト表示] を選択、任意の表示方法を指定します。



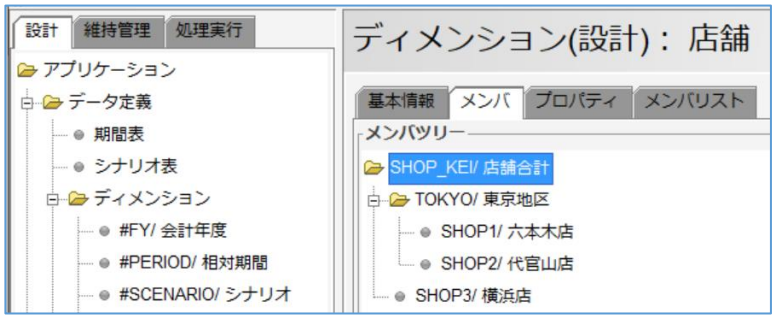
マネージャ

ブラウザ

[名称]を
選択した場合



[ラベルと名称]を
選択した場合



2.データ入出力①（フォーム）

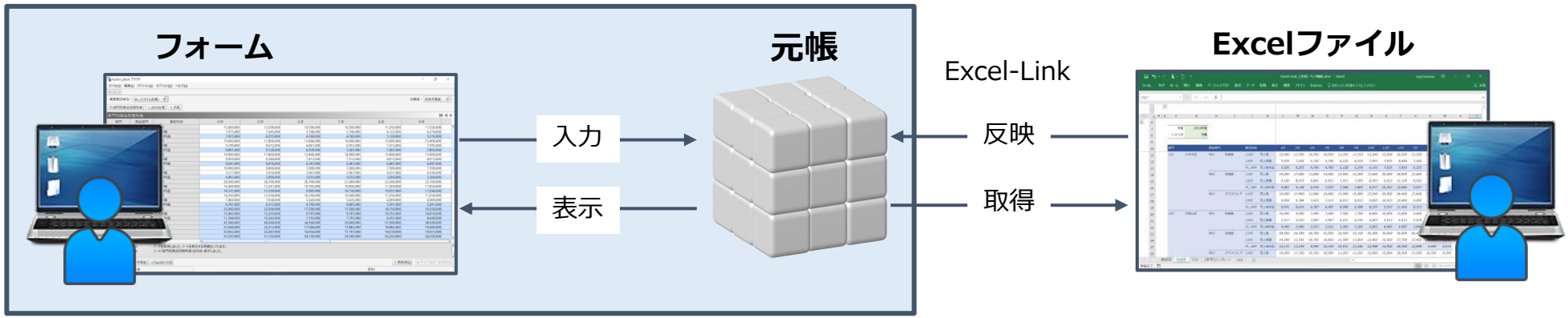
2-1.フォームとは
2-2.簡易版とフル機能版
2-3.フォームの作成方法
2-4.デモ

2.データ入出力①（フォーム）
2-1.フォームとは

fusion_placeでは元帳にデータを出し入れするため、以下2つの仕組みが用意されています。

- フォーム
  fusion_place から起動する専用画面です。fusion_placeの一機能で作成します。
  元帳のデータを表示すること、また元帳にデータを入力することができます。
- Excel-Link
  Microsoft Excel ワークシートから fusion_place の元帳データにアクセスする機能です。
  現在お使いのExcelファイルを、そのまま入出力画面とするような設定も可能です。

この章では、フォームについて説明します。
Excel-Linkを用いた入出力については5章で説明します。

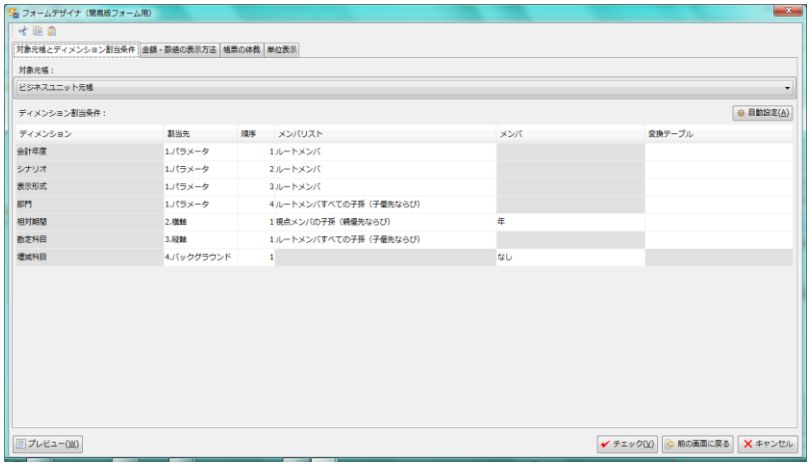


2.データ入出力①（フォーム）
2-2.簡易版とフル機能版

フォームには、**簡易版**と**フル機能版**の２種類があります。
どちらも、fusion_placeの「マネージャ」で設定し、「ブラウザ」でデータの入出力を行います。
どちらで作成しても、「ブラウザ」を使ってフォームを開くという点は同じですが、マネージャでの設定画面が異なります。

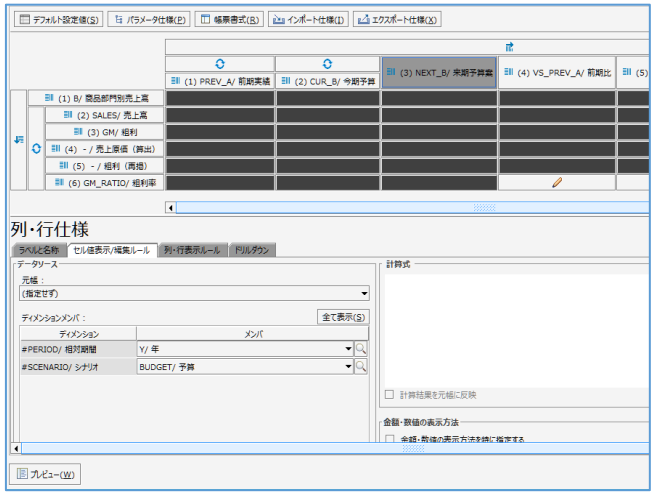
「簡易版」フォーム設定画面

縦軸・横軸などにディメンションを割り当てていくだけで、きわめて手軽にレポートや入力画面を作成することができます。
計算式を使えない、レイアウトの自由度が低いなど、機能に制約があります。



「フル機能版」フォーム設定画面

縦軸・横軸のディメンション割り当てを、より精緻に行えます。列・行およびその交点に計算式、書式などの設定が可能です。実務ニーズに即した帳票、入力画面を作成できます。換算、配賦などの計算処理の実行、計算結果の保存も行えます。

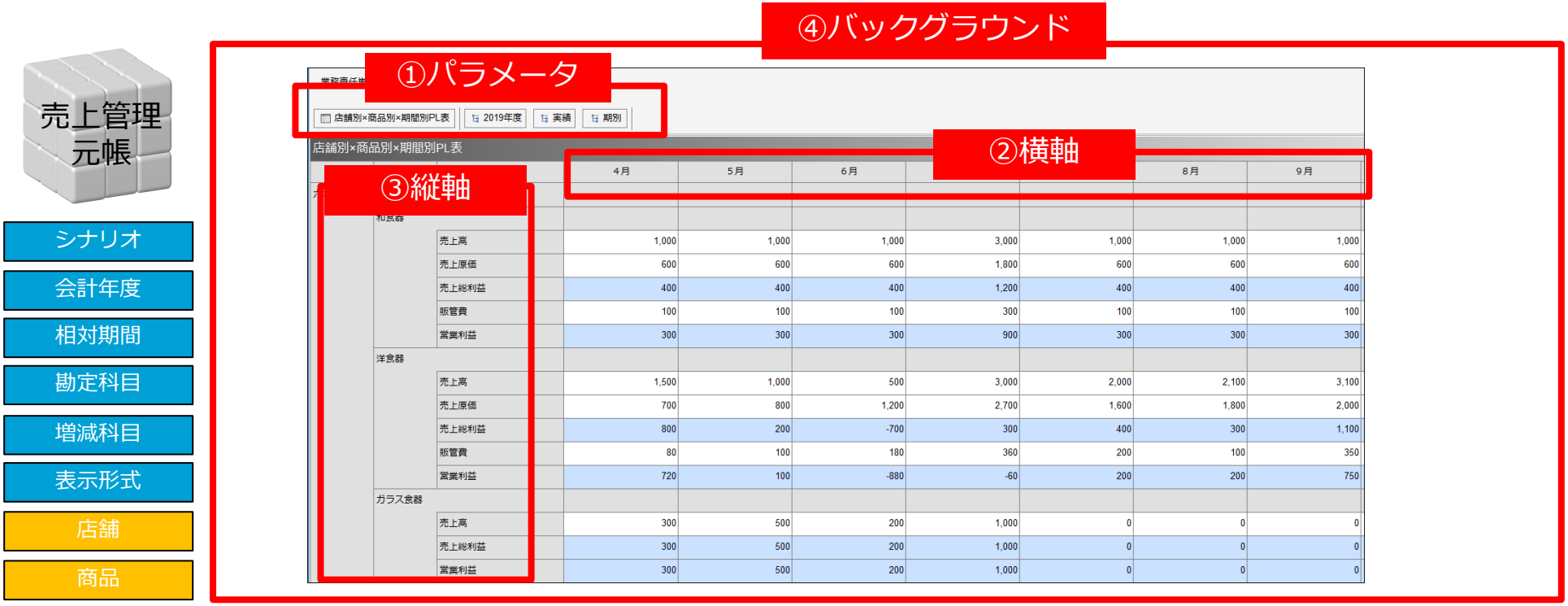


「簡易版」として作成したフォームを「フル機能版」に変換することが可能です。

2.データ入出力①（フォーム）
2-3.フォームの作成方法

簡易版フォームで、フォームを作成する場合は、作成したい帳票のレイアウトに応じて、元帳をひとつ選択し、その元帳を構成する全てのディメンションを、下記①～④のいずれかに割り当てます。

①パラメータ　：パラメータとは「実行時に指定する項目」を意味します。
②横軸　：帳票・画面の横軸（列方向の軸）です。
③縦軸　：帳票・画面の縦軸（行方向の軸）です。
④バックグラウンド　：あるディメンションについて、帳票・画面の全項目に同じメンバを適用したいとき、そのディメンションを「バックグラウンド」に割り当て、メンバを指定します。

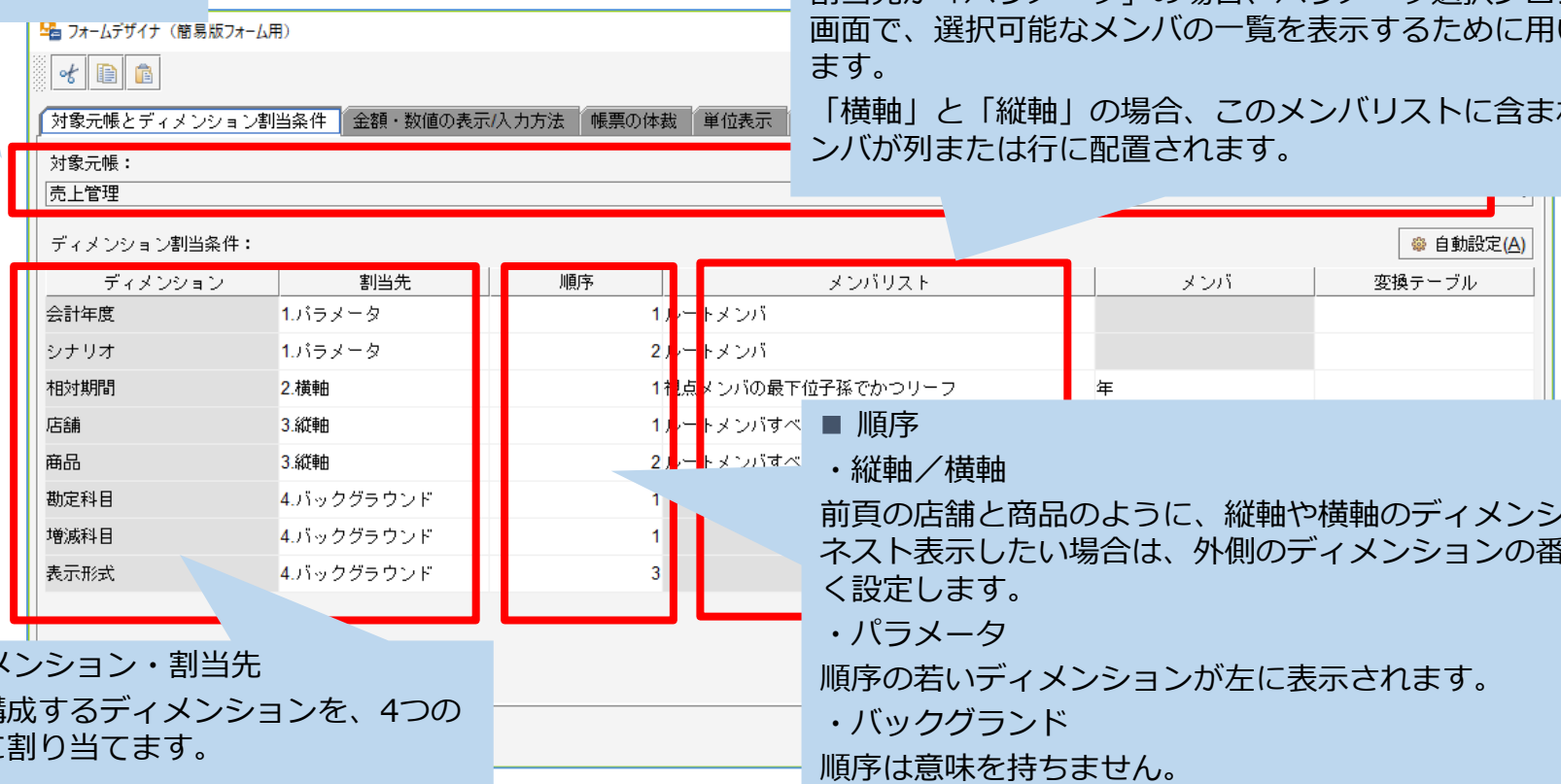


2.データ入出力①（フォーム）
2-3.フォームの作成方法

前述の画面はフォームデザイナ画面で以下の通り設定しています。

■ 対象元帳
フォームを作成する対象の元帳を選択します。

■ メンバリスト（3-3.メンバリストで説明）
割当先が「パラメータ」の場合、パラメータ選択プロンプト画面で、選択可能なメンバの一覧を表示するために用いられます。
「横軸」と「縦軸」の場合、このメンバリストに含まれるメンバが列または行に配置されます。



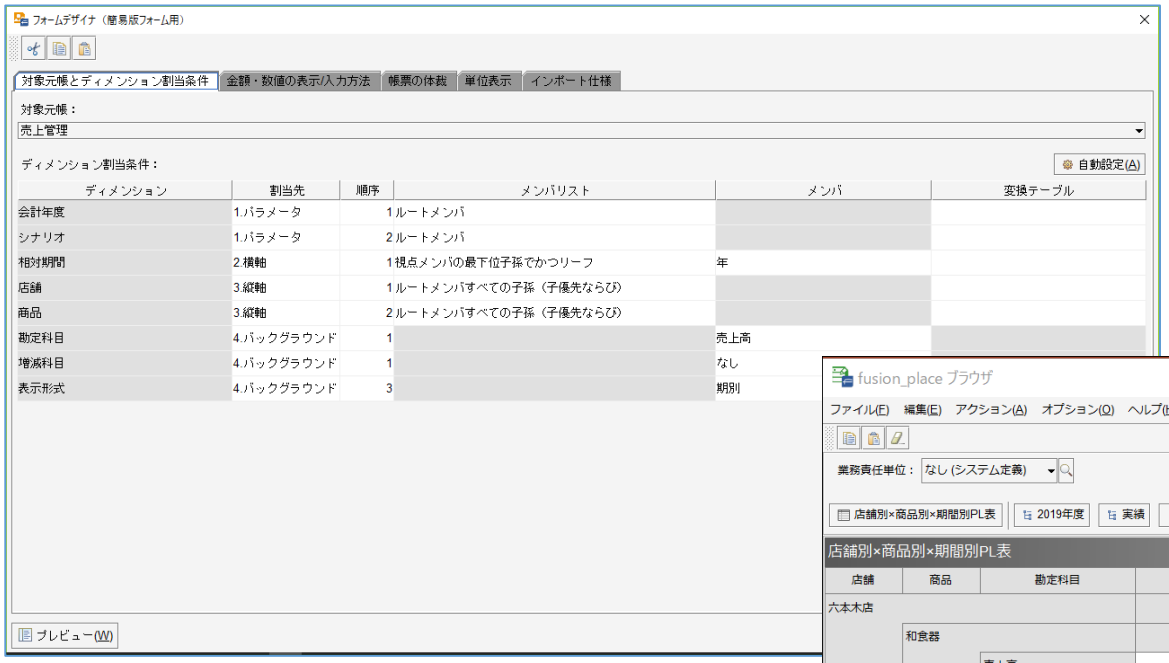
■ 順序
・縦軸／横軸
前頁の店舗と商品のように、縦軸や横軸のディメンションをネスト表示したい場合は、外側のディメンションの番号を若く設定します。
・パラメータ
順序の若いディメンションが左に表示されます。
・バックグランド
順序は意味を持ちません。

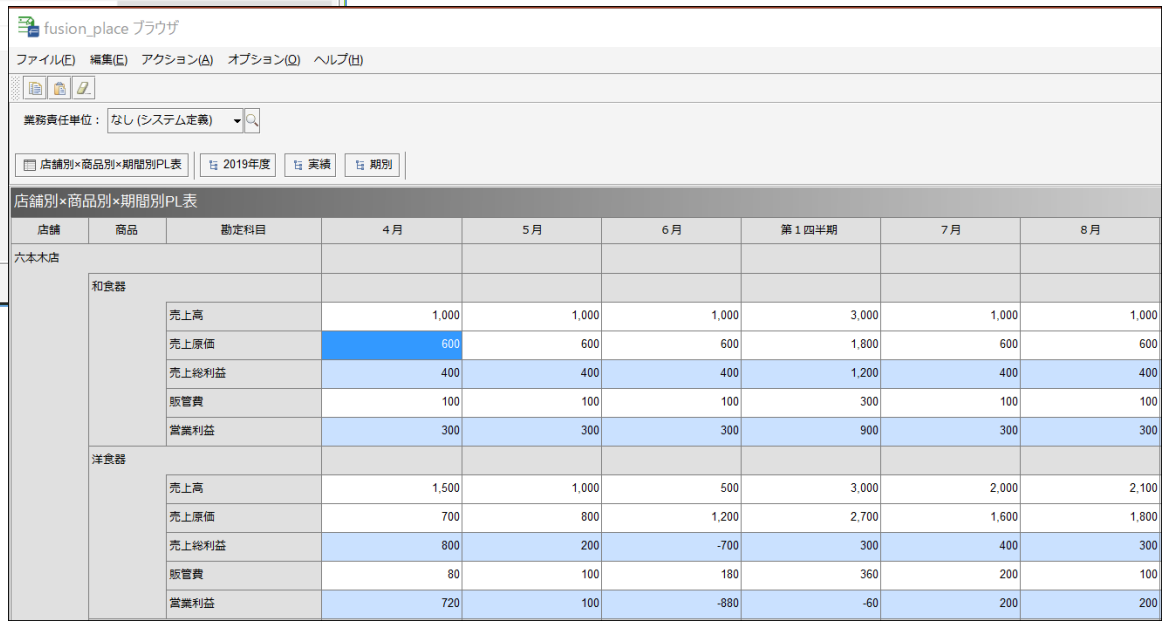
■ ディメンション・割当先
元帳を構成するディメンションを、4つの割当先に割り当てます。

(*) メンバ、変換テーブルについてはフォームトレーニングの研修内容となります。

2.データ入出力①（フォーム）
2-4.デモ

それでは実際にfusion_placeの実機で確認していきましょう。





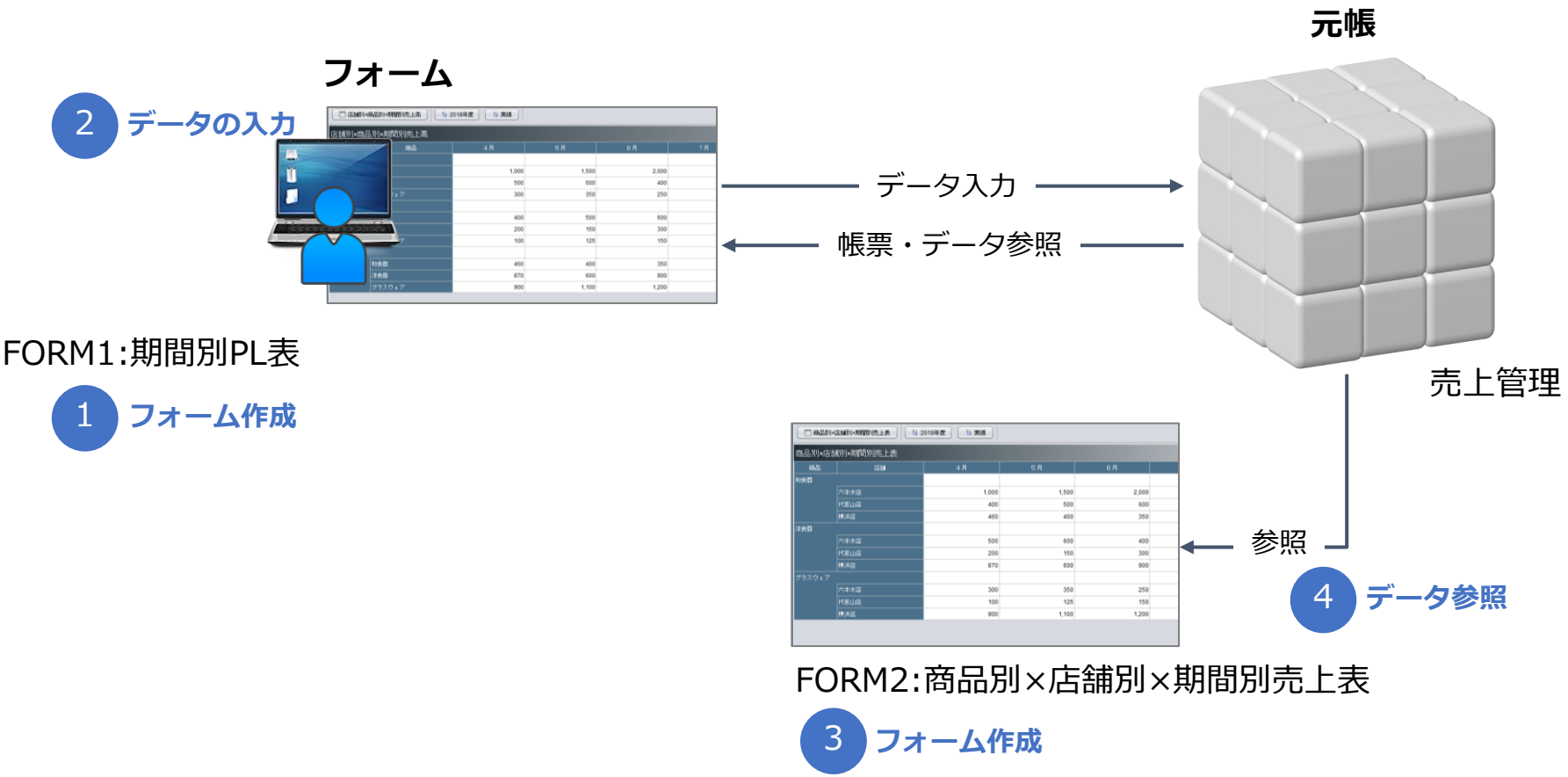
店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	第１四半期	7月	8月
六本木店								
	和食器							
		売上高	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000
		売上原価	600	600	600	1,800	600	600
		売上総利益	400	400	400	1,200	400	400
		販管費	100	100	100	300	100	100
		営業利益	300	300	300	900	300	300
	洋食器							
		売上高	1,500	1,000	500	3,000	2,000	2,100
		売上原価	700	800	1,200	2,700	1,600	1,800
		売上総利益	800	200	-700	300	400	300
		販管費	80	100	180	360	200	100
		営業利益	720	100	-880	-60	200	200

演習2.フォーム

⓪演習の全体像
①フォーム作成（1）
②データ入力
③フォーム作成（2）
④データ参照

演習2.フォーム
⓪演習の全体像

フォームの作成からフォームを利用したデータの入力、出力の概念、操作方法について習得します。

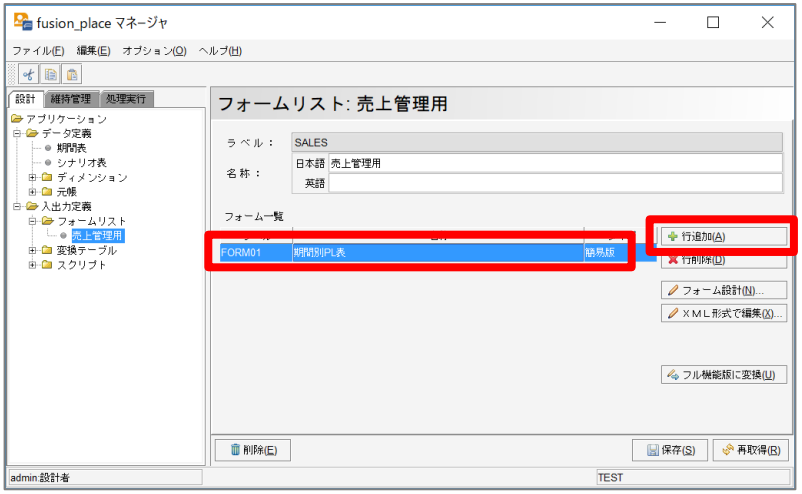


演習2.フォーム
①フォーム作成（1）

「期間別PL表」を作ります。

1.まず、フォームリストを作成します。設計タブから[フォームリスト]を選択し、「フォームリスト新規作成」ボタンをクリックします。

2.『フォームリスト新規作成』画面で
・ラベル/名称　　：SALES/売上管理用
を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



3.フォームリスト中に、フォームを作成します。「行追加」ボタンをクリックし、表示されたフォーム一覧に以下の通り入力します。
・ラベル：FORM1
・名称：期間別PL表

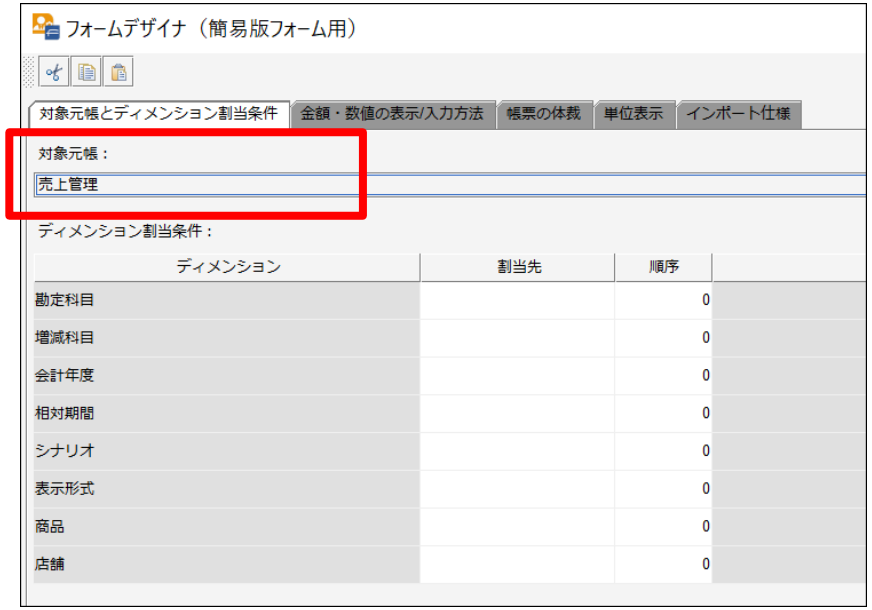
演習2.フォーム
①フォーム作成（1）

4.「FORM1：期間別PL表」は、下図のようなレイアウトにします。

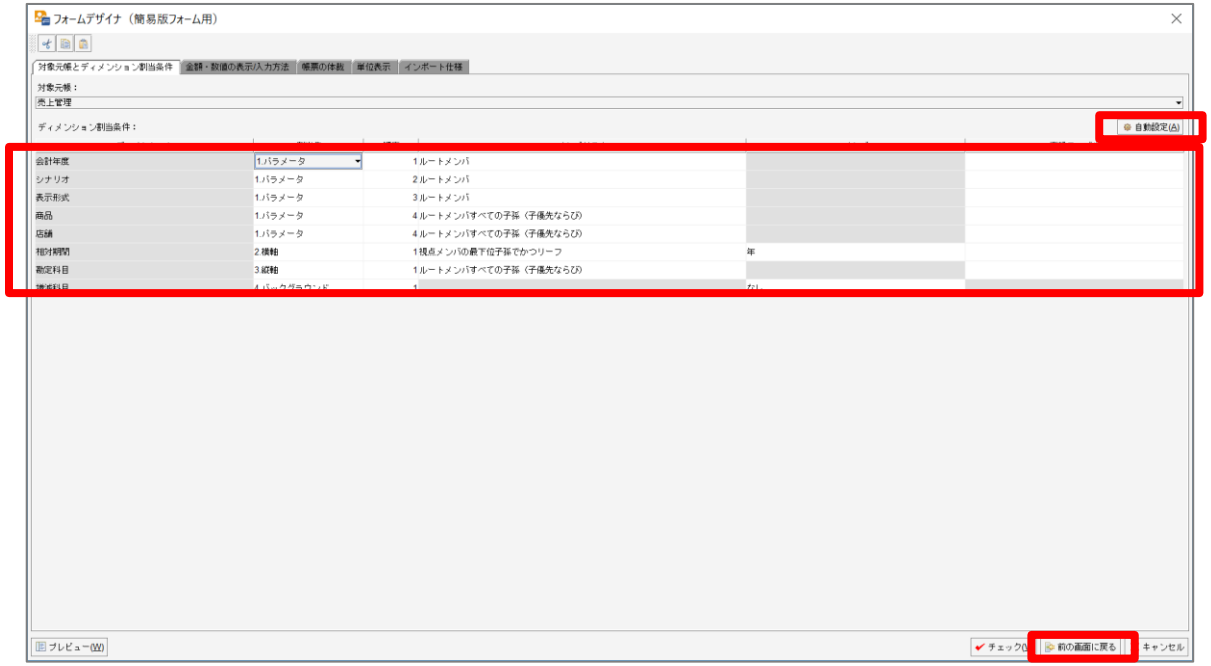
演習2.フォーム
①フォーム作成（1）

5.「フォーム設計」ボタンをクリックします。

6.「対象元帳」欄で「売上管理」を選択します。
ディメンション割当条件の欄に、「売上管理」元帳で使用されているディメンションが表示されます。



演習2.フォーム
①フォーム作成（1）

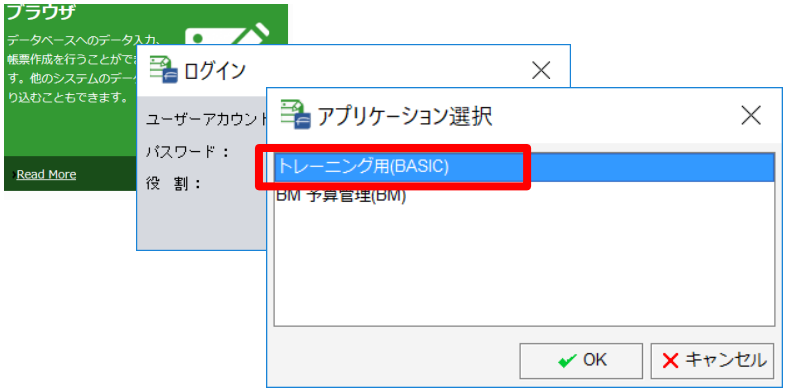


7.「自動設定」ボタンをクリックします。
既定値のフォーム形式となるよう、各項目が自動設定されます。
今回は、この既定フォームを使用します。

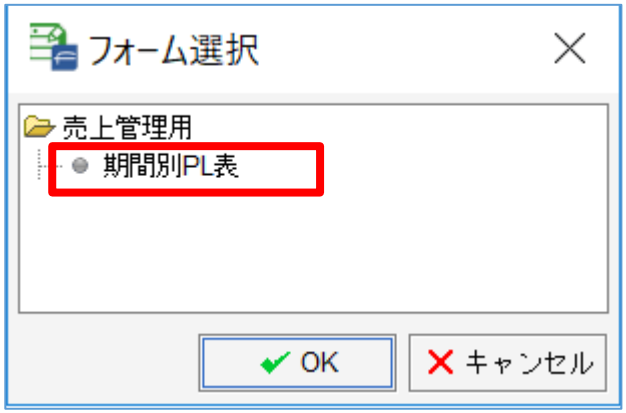
8.「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

演習2.フォーム
①フォーム作成（1）

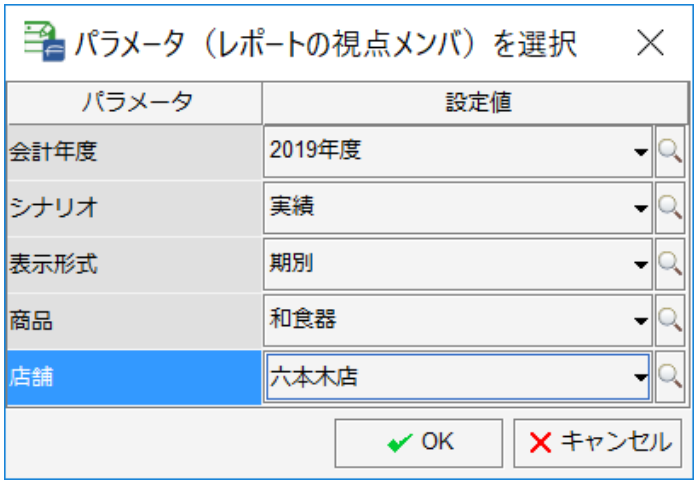
作成したフォームを確認します。



9.メニューから「ブラウザ」ボタンをクリック後、ログインし、アプリケーション「トレーニング用」を選択します。



10.「フォーム選択」画面で「期間別PL表」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



11.左の画面のとおり「設定値」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

演習2.フォーム
①フォーム作成（1）

12.左の画面のとおり、フォームが表示されていることを確認します。

※「簡易版」では、データが無い場合、 最初の表示時は、行が非表示になります。
　1行目の選択欄をクリックすると、ドロップダウンリストからメンバを選択でき、行を表示できます。
「フル機能版」では、データが無い場合でも、最初の表示時から行を表示させることも可能。

演習2.フォーム
②データ入力

1. 左の画面のとおり、「六本木店」の「和食器」のデータを入力します。入力後「保存」ボタンをクリックしてください。

2. パラメータを切り替えて、右表のとおり、他店および他商品のデータも入力します。

※同梱のBasicTraining_貼り付け用.xlsx > 演習2.② のデータをコピー＆ペーストすることもできます。

		4月	5月	6月
六本木店	和食器	1,000	1,500	2,000
	洋食器	500	600	400
	ガラス食器	300	350	250
代官山店	和食器	400	500	600
	洋食器	200	150	300
	ガラス食器	100	125	150
横浜店	和食器	460	400	350
	洋食器	870	600	900
	ガラス食器	900	1,100	1,200

演習2.フォーム
③フォーム作成（2）

続いて、FORM2として、全店舗、全商品、全期間の売上高が一覧できるフォームを作成します。

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月
六本木店					
	和食器				
		売上高	1,000	1,500	2,000
	洋食器				
		売上高	500	600	400
	ガラス食器				
		売上高	300	350	250
代官山店					
	和食器				
		売上高	400	500	600
	洋食器				
		売上高	200	150	300
	ガラス食器				
		売上高	100	125	150
横浜店					
	和食器				
		売上高	460	400	350
	洋食器				
		売上高	870	600	900
	ガラス食器				
		売上高	900	1,100	1,200

■レイアウト

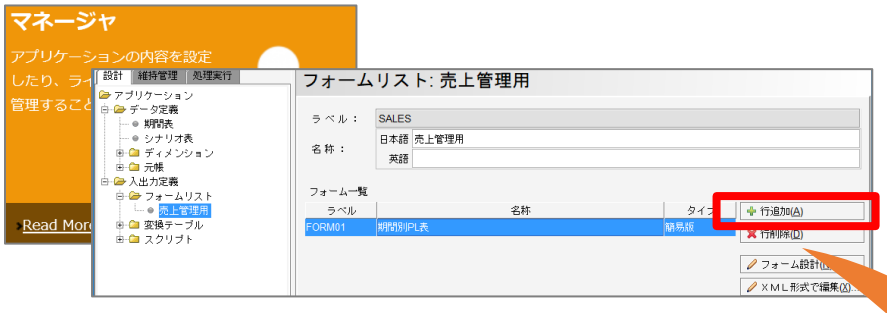
縦軸　　：店舗、商品、勘定科目、
横軸　　：期間
パラメータ　　：年度、シナリオ、期間単位
バックグラウンド：増減科目

■FORM1との比較

「店舗」および「商品」が、「パラメータ」から、「縦軸」に変わっています。

演習2.フォーム
③フォーム作成（2）

「マネージャ」に戻り、「設計」タブを選択し、下の画面のとおり、「フォームリスト」にて「売上管理用」を選択します。

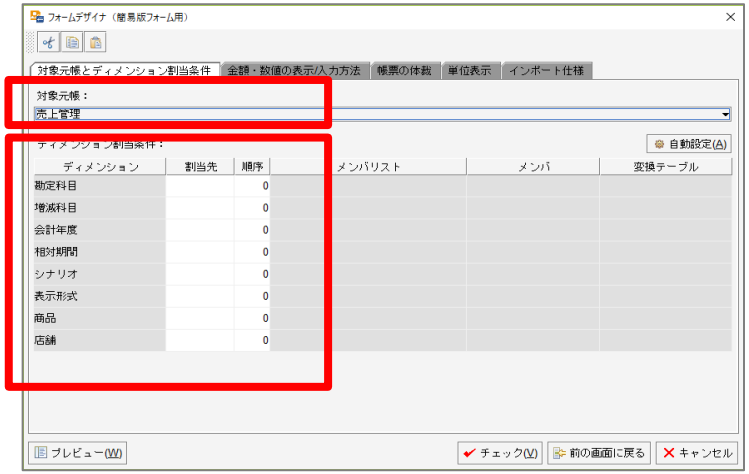


1.「行追加」ボタンをクリックし、表示されたフォーム一覧に以下の通り入力します。

・ラベル：FORM2

・名称：店舗別×商品別×期間別PL表

2.「フォーム設計」ボタンをクリックします。

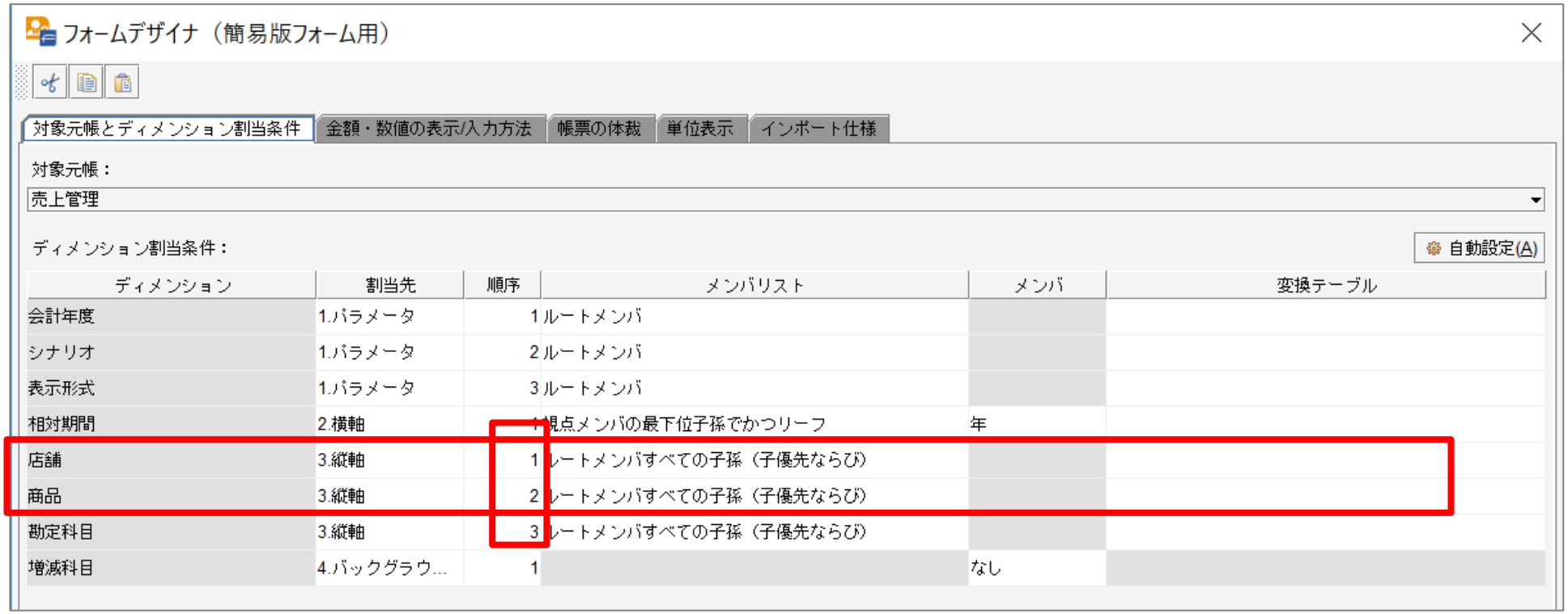


3.「対象元帳」欄で、「売上管理」を選択。

「ディメンション割当条件」欄に、元帳に定義されているディメンションが表示されます。

演習2.フォーム
③フォーム作成（2）

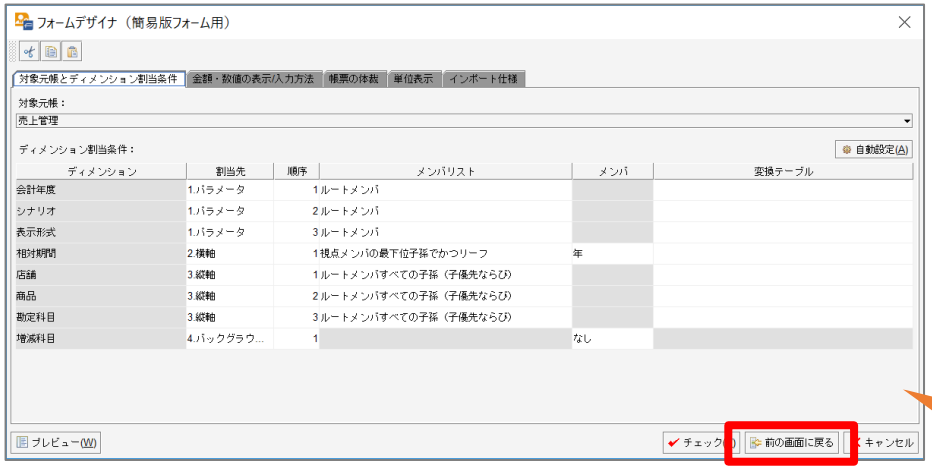
4.「自動設定」ボタンをクリックし、まず、既定の設定を表示させます。
次に、「店舗」・「商品」の割当先を、「3.縦軸」に変更します。「順序」の番号も変え、下の画面のとおりに設定します（ 枠部分が、変更の必要な箇所です）。



ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	ルートメンバ		
シナリオ	1.パラメータ	2	ルートメンバ		
表示形式	1.パラメータ	3	ルートメンバ		
相対期間	2.横軸	1	視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	年	
店舗	3.縦軸	1	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
商品	3.縦軸	2	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
勘定科目	3.縦軸	3	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
増減科目	4.バックグラウ...	1		なし	

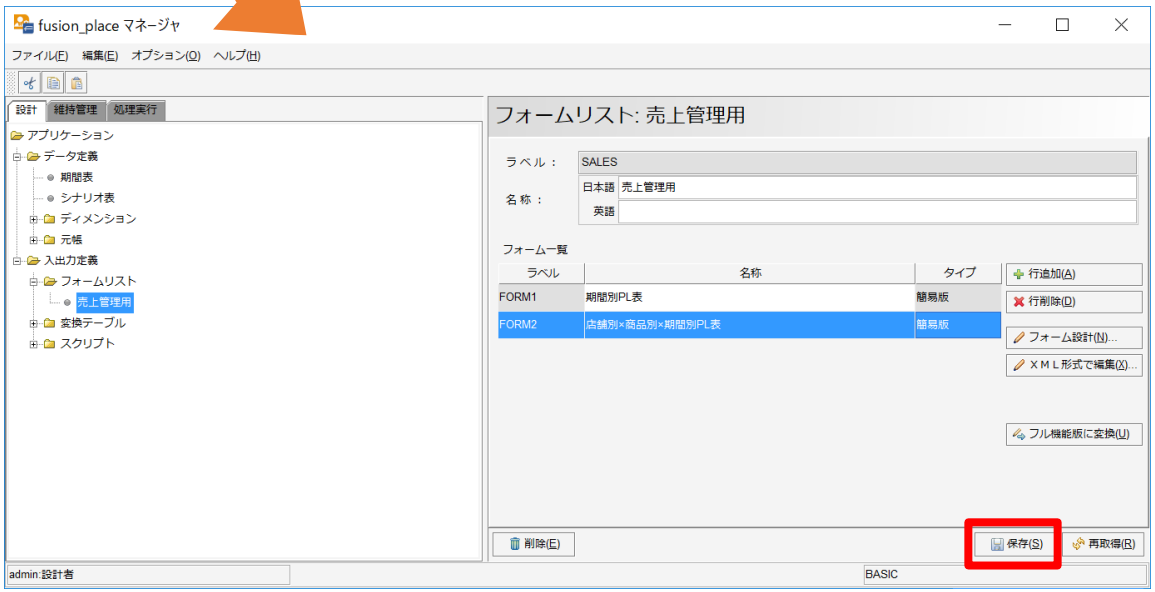
注）「順序」の番号は、フォームを表示する際の優先順位です。上図の場合、縦軸に３つのディメンションが並びますが、左から順番号が少ないディメンションから表示されます。

演習2.フォーム
③フォーム作成（2）



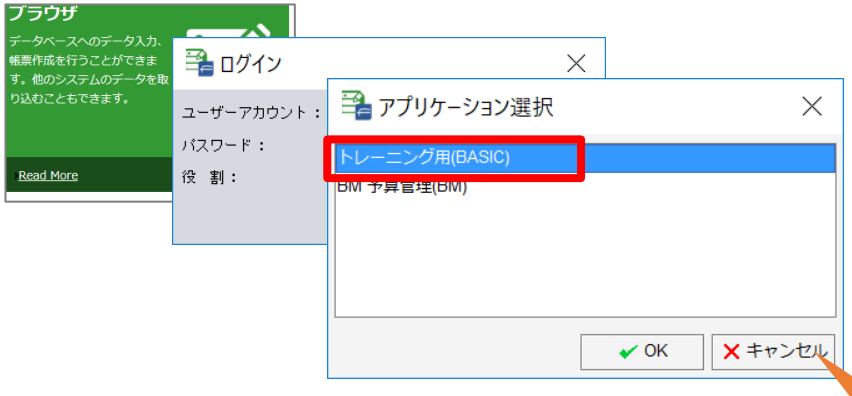
5.「前の画面に戻る」ボタンをクリックします。

6.「保存」ボタンをクリックします。



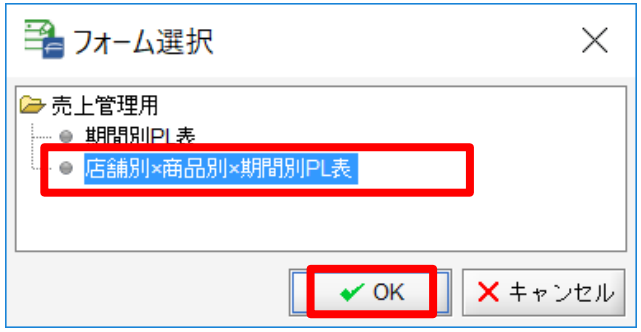
演習2.フォーム
④データ参照

「ブラウザ」で、 FORM2を表示し、データを確認します。



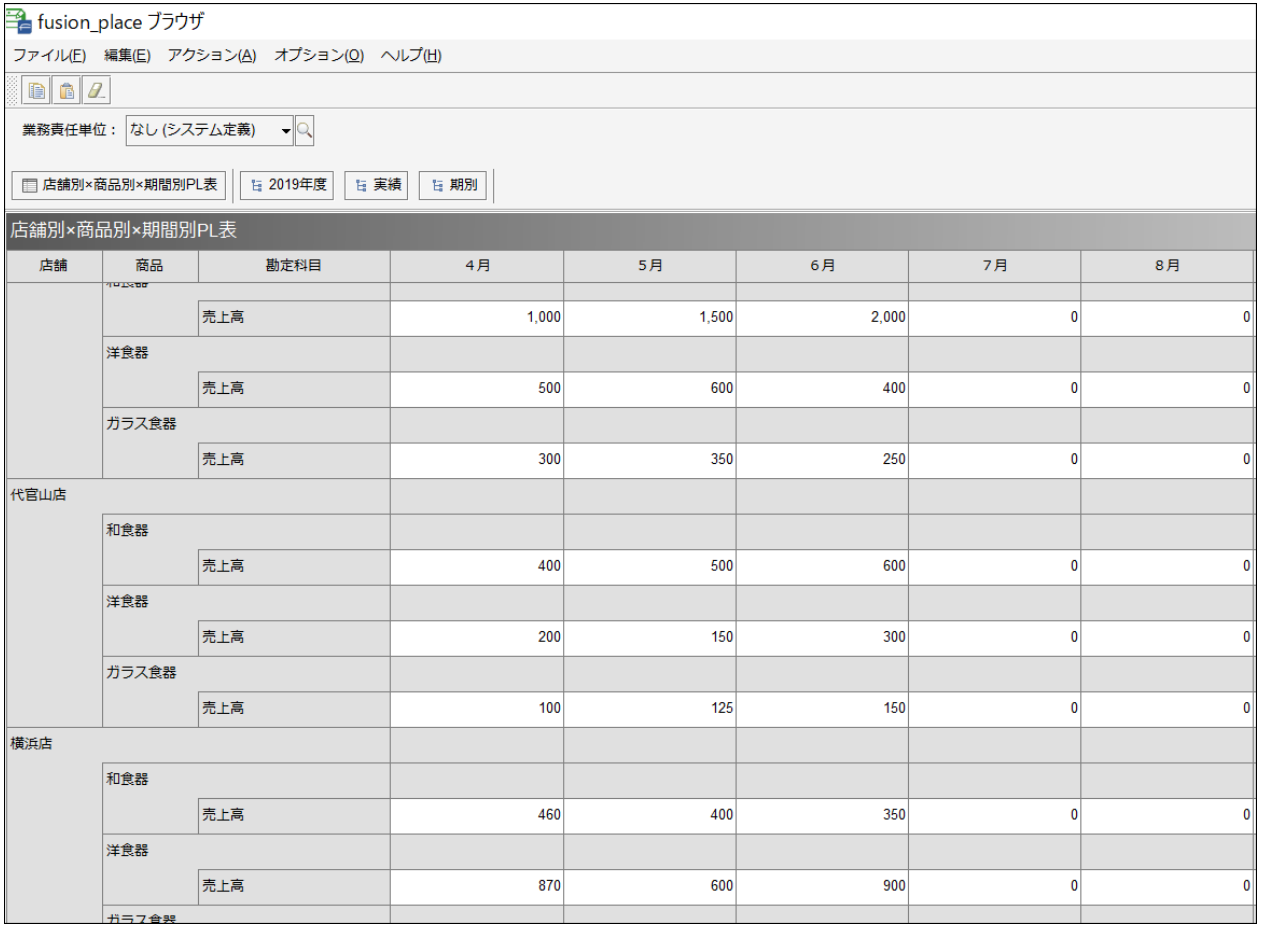
1.「ブラウザ」ボタンをクリック。
ログインし、アプリケーションを選択します。
（「ブラウザ」が、既に起動している場合には、「フォーム選択」ボタンをクリックします。）

2.「フォーム選択」画面で「店舗別×商品別×期間別PL表」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



演習2.フォーム
④データ参照

3.「店舗別×商品別×期間別PL表」フォームが
起動します。右下画面のとおり、フォームが
作成されていることを確認します。

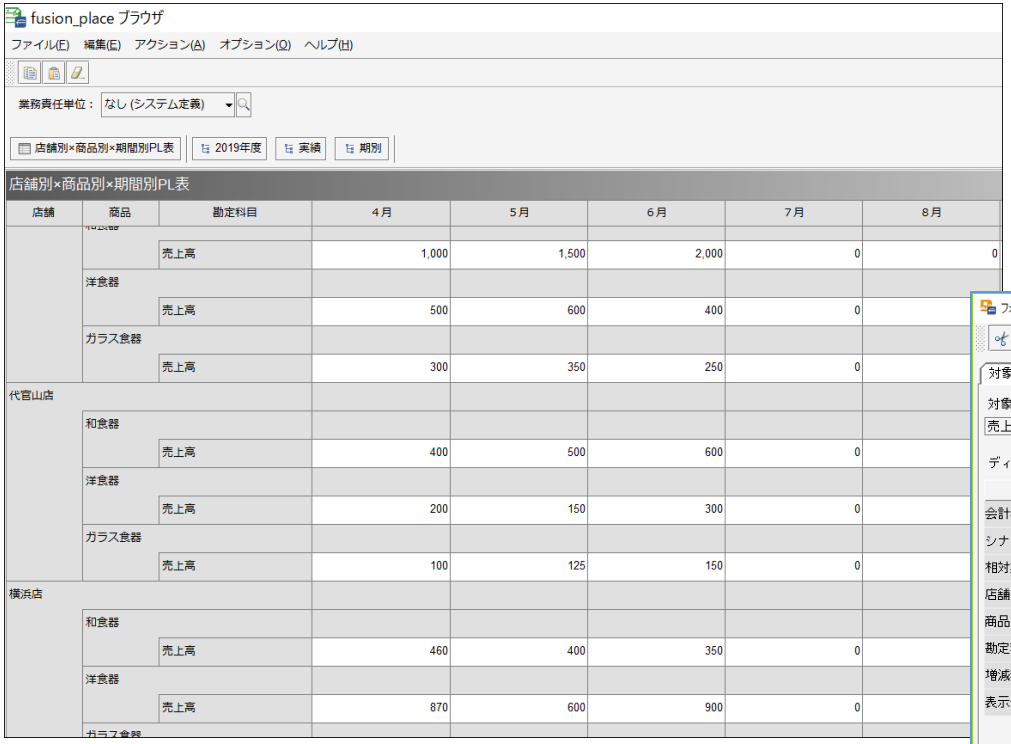


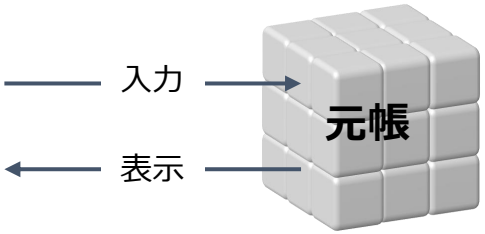
店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月
		売上高	1,000	1,500	2,000	0	0
	洋食器						
		売上高	500	600	400	0	0
	ガラス食器						
		売上高	300	350	250	0	0
代官山店							
	和食器						
		売上高	400	500	600	0	0
	洋食器						
		売上高	200	150	300	0	0
	ガラス食器						
		売上高	100	125	150	0	0
横浜店							
	和食器						
		売上高	460	400	350	0	0
	洋食器						
		売上高	870	600	900	0	0

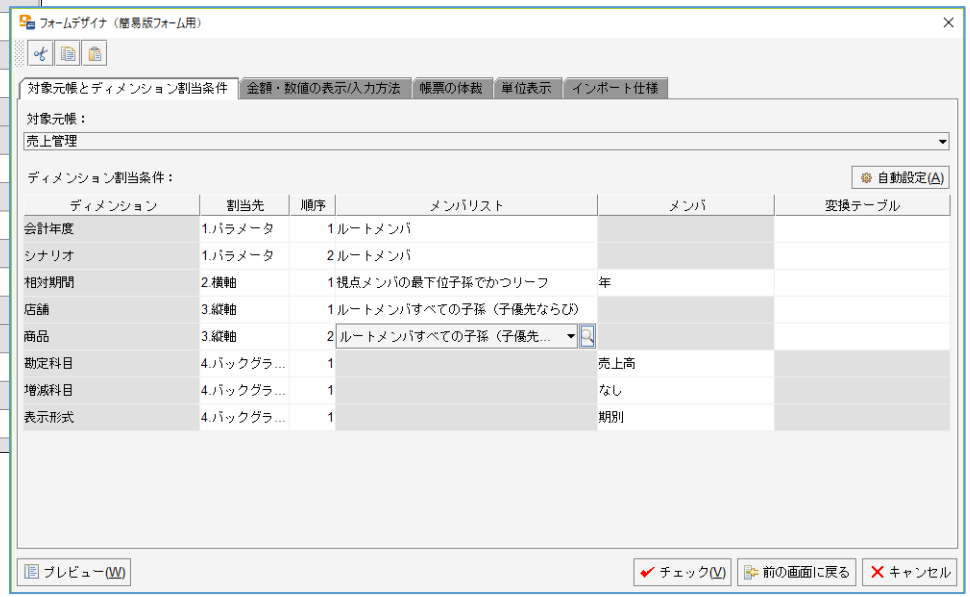
2.データ入出力①（フォーム）
おさらい

以上で、データ入出力概要は終了です。
元帳から、データを入出力するフォームの概念、およびその設定方法を、ご理解頂けたと思います。

フォーム







2.データ入出力①（フォーム）
（参考）フォームの機能

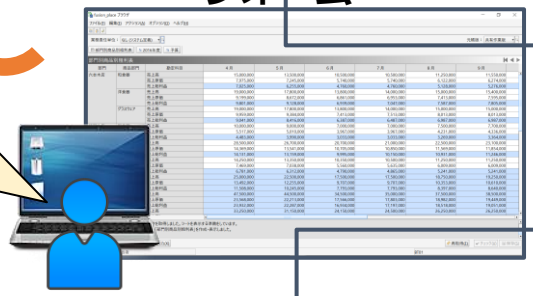
フォームには、元帳へデータを出し入れする以外にも、いくつか機能が備わっています。

1.データ入力
縦軸・横軸にディメンションを配置した画面からデータの入力ができます。

3.データインポート
CSVファイルからデータをインポートできます。

計算処理

フォーム



データインポート
データ入力
データ参照
データエクスポート

元帳

5.データコピー・計算処理(*)
フォーム上で計算処理を行い結果を元帳に書き込むことができます。
換算・配賦などの計算処理、データコピーが可能です。

2.データ参照
縦軸・横軸にディメンションを配置した画面でデータの参照ができます。

4.データエクスポート(*)
CSVファイルへデータをエクスポートできます。

(*) フォームトレーニングの研修内容となります。

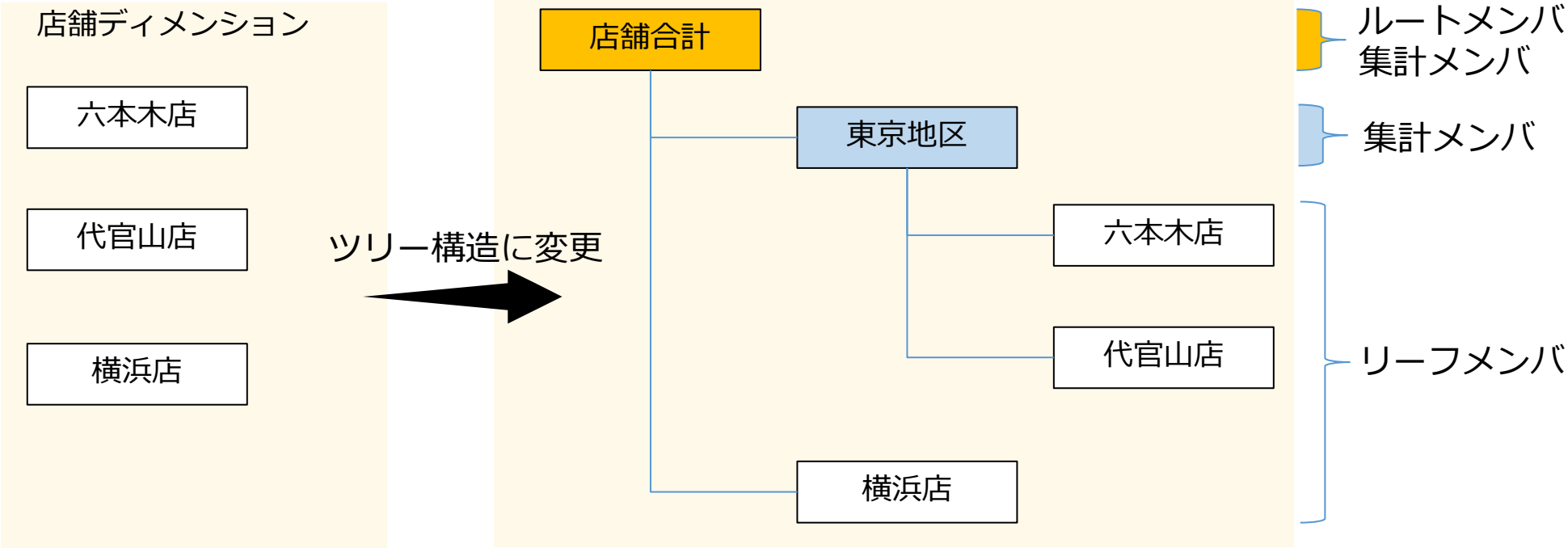
3.データ集計①（ツリー構造）

3-1.ツリー構造について

3-2.積み上げの考え方

3.データ集計①（ツリー構造）
3-1.ツリー構造について

1章で説明したディメンションは、ツリー構造に構成することができます。
店舗ディメンションをツリー構造にしてみましょう。

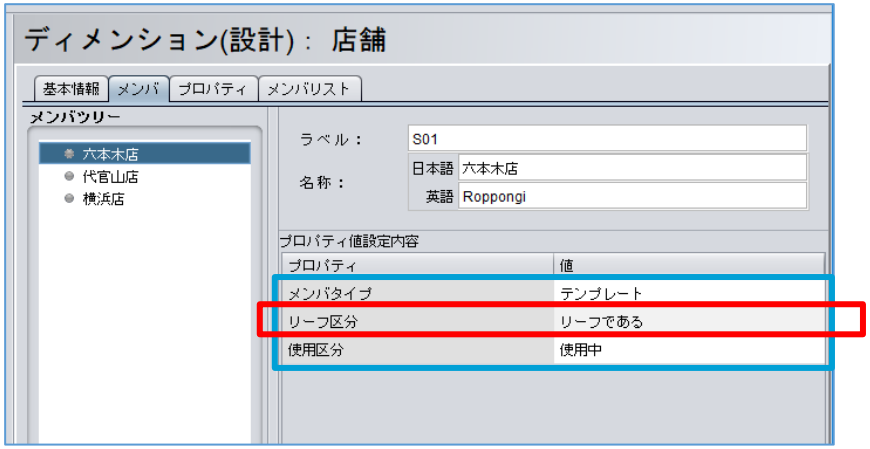


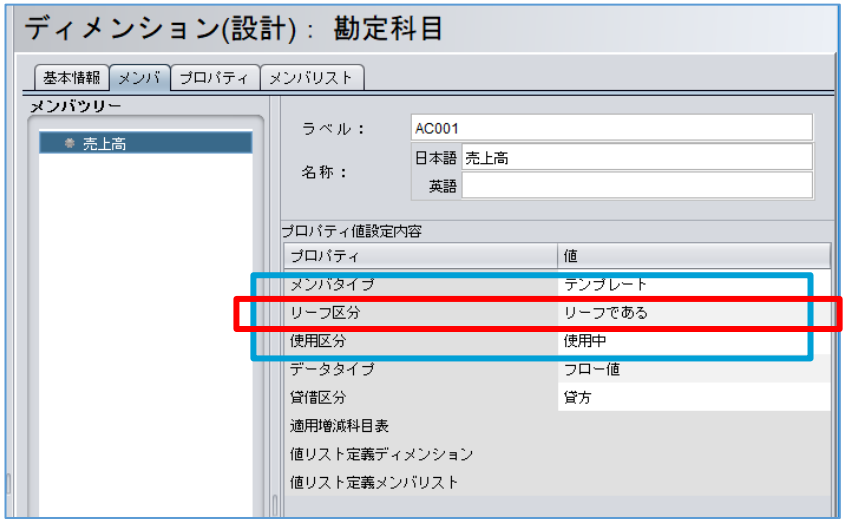
fusion_placeでツリー構造を構成する際には、メンバがリーフメンバか否かを定義します。
次頁にて、その定義のために必要な設定項目（プロパティ）について説明します。

※　「ルート」は「根」、「リーフ」は「葉」の意味であり、「ディメンション」「メンバ」同様、多次元データベースで一般的に用いられる用語です。

3.データ集計①（ツリー構造）
3-1.ツリー構造について

前頁のとおり、リーフメンバーか否かを定義する際には、「プロパティ」項目を利用します。
「プロパティ」とは、メンバに対して付加できる情報のことをいいます。
「プロパティ」は、対象メンバの絞り込み、条件判定に利用することも可能です。





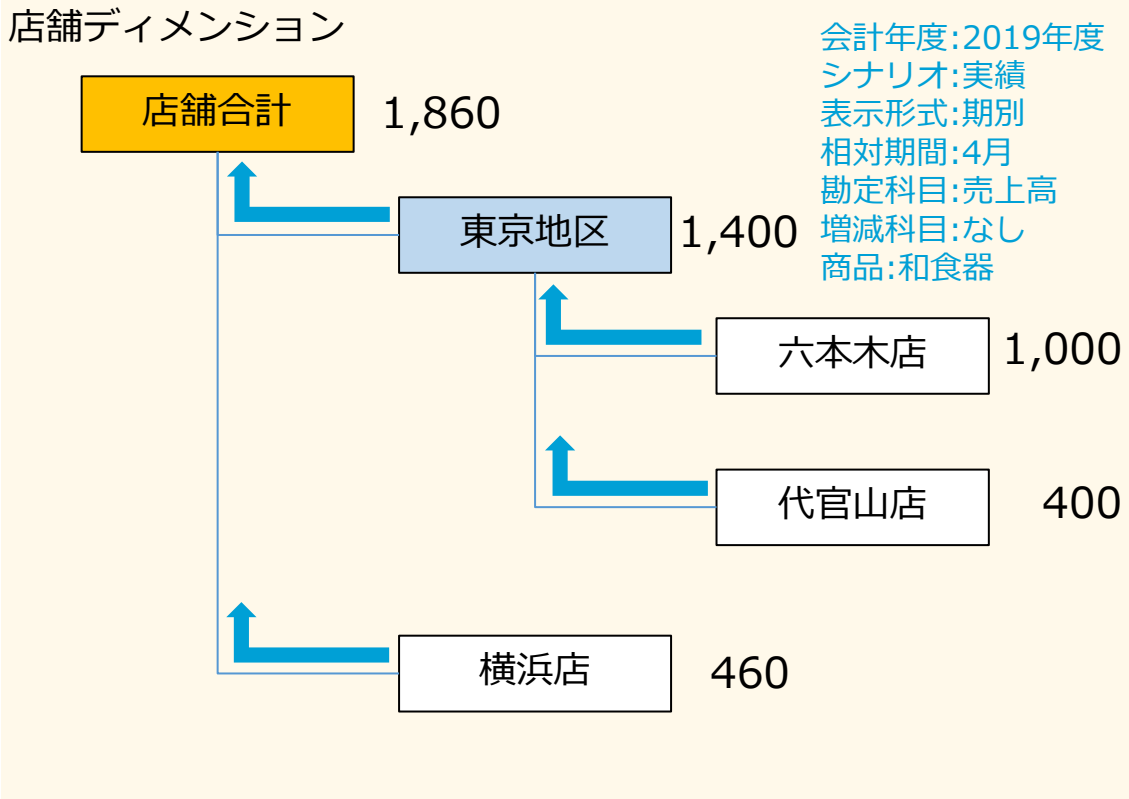
どのディメンションメンバにも、「メンバタイプ」・「リーフ区分」・「使用区分」のプロパティがあります。この「プロパティ」中の「リーフ区分」を使用して、リーフか否かの定義を行います。

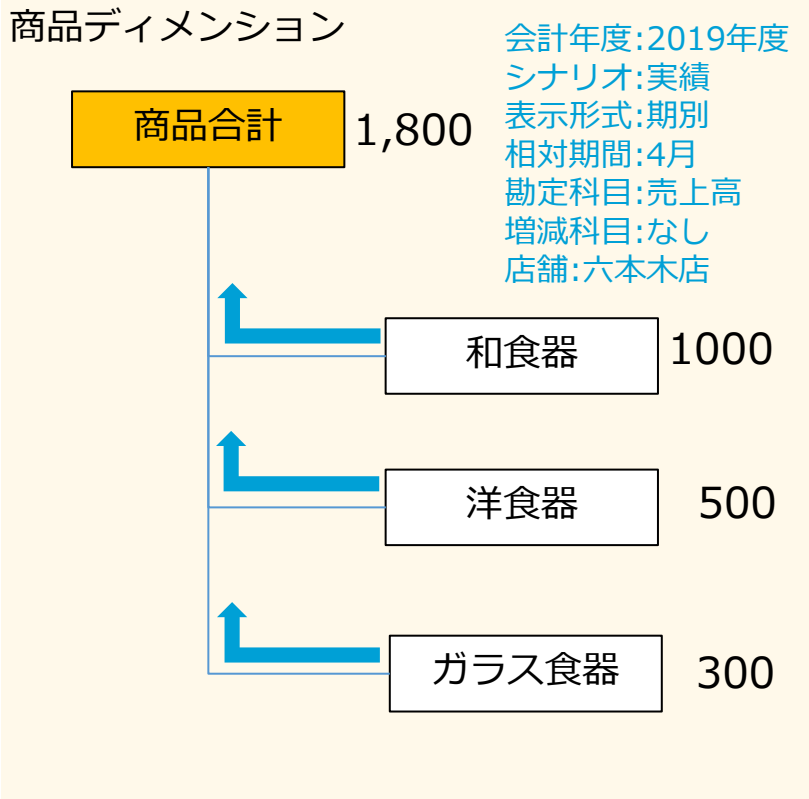
(注) 勘定科目など特定のディメンションでは、上記以外に固有のプロパティを保持しています。
　　勘定科目のプロパティについては4章で詳しく説明します。

3.データ集計①（ツリー構造）
3-2.積み上げの考え方

ツリー構造に構成したディメンションでは、そのツリー構造に従って、集計値が自動かつリアルタイムに計算されます。

自動かつリアルタイムに計算





3.データ集計①（ツリー構造）
3-2.積み上げの考え方

積み上げ計算は、すべてのディメンションで行われます。

会計年度 :2019年度
シナリオ :実績
表示形式 :期別
期間 :4月
勘定科目 :売上高
増減科目 :なし

商品ディメンションでの積み上げ

店舗ディメンションでの積み上げ

店舗 ＼ 商品	和食器	洋食器	ガラス食器	商品合計
六本木店	1,000	500	300	1,800
代官山店	400	200	100	700
東京地区	1,400	700	400	2,500
横浜店	460	870	900	2,230
店舗合計	1,860	1,570	1,300	4,730

それぞれのディメンションで自動かつリアルタイムに計算されます

複数のディメンションの組み合わせで集計可能です

3.データ集計①（ツリー構造）
デモ

実際にツリー構造に従って積み上げがされているか、実機を使って確認してみましょう。

積上結果確認用フォーム

店舗	和食器	洋食器	ガラス食器	商品合計
六本木店	1,000	500	300	1,800
代官山店	400	200	100	700
東京地区	1,400	700	400	2,500
横浜店	460	870	900	2,230
店舗合計	1,860	1,570	1,300	4,730

演習3.データ集計①（ツリー構造）

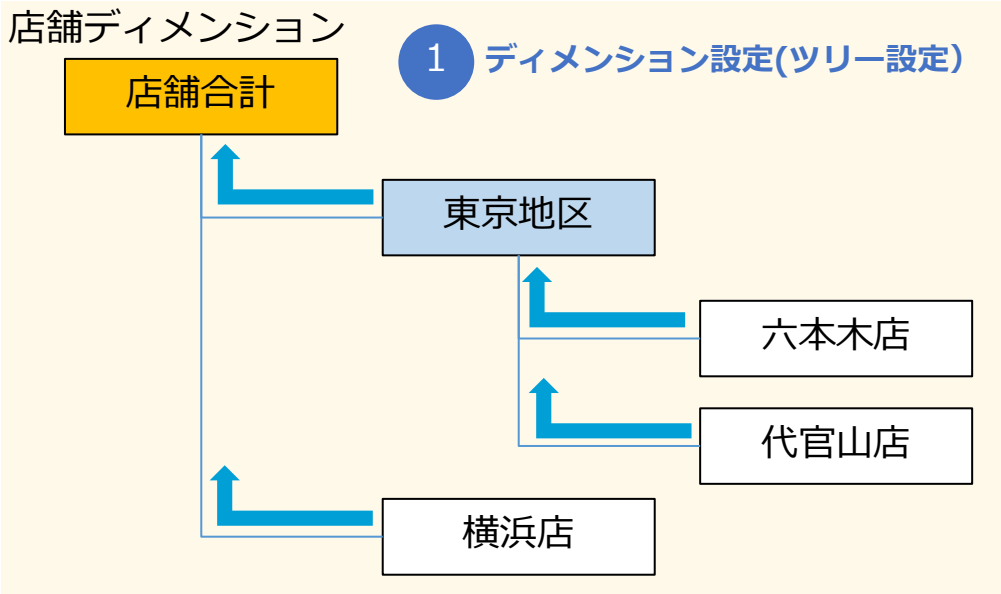
⓪演習の全体像

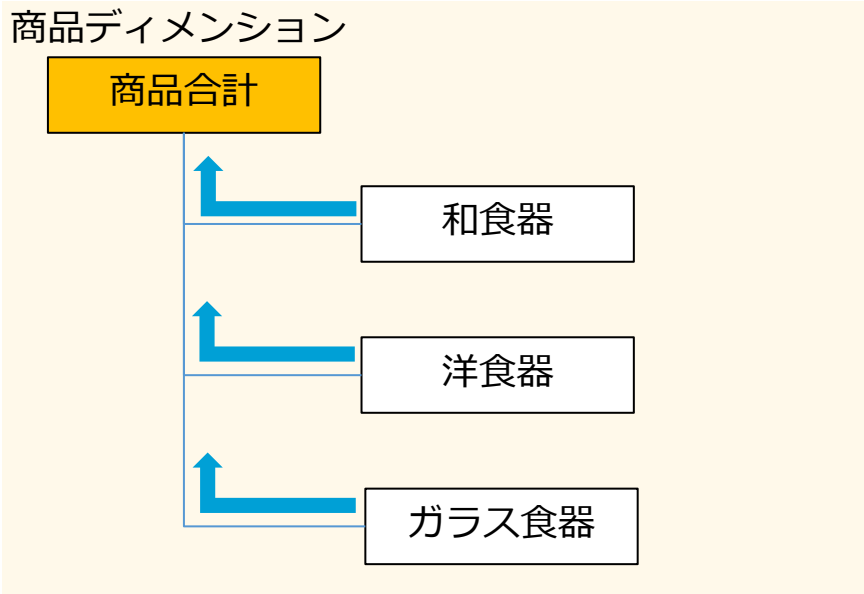
①ディメンション設定(ツリー設定)

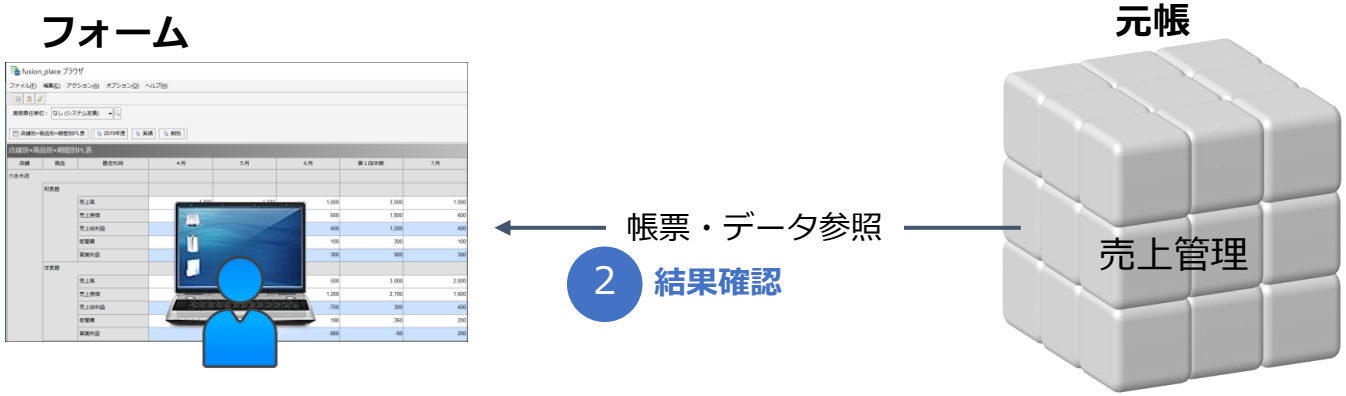
②データ積み上げ結果確認

演習3.データ集計①（ツリー構造）
⓪演習の全体像

ツリー構造の設定方法から実際のデータの積み上がり方を確認することで、ツリー構造、積み上げの概念を習得します。



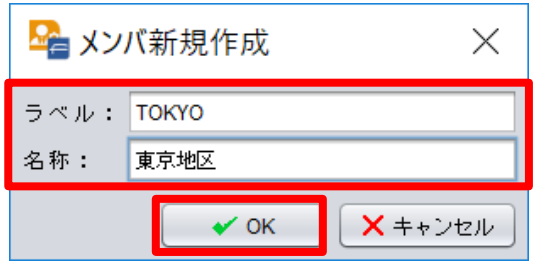




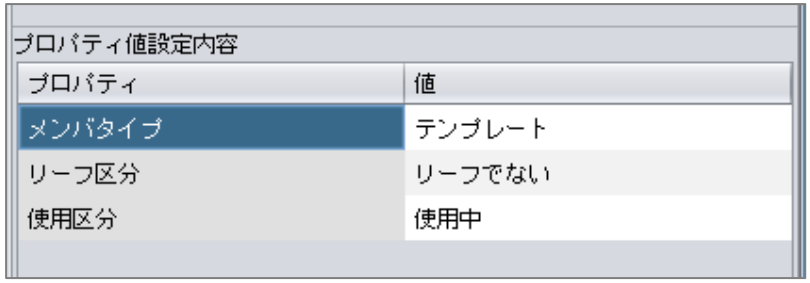
演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

「店舗」ディメンションに、ツリー構造を定義してみましょう。
まずは、上位階層となる「東京地区」「店舗合計」を作成します。

1.設計タブからディメンション:[店舗]を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[メンバを追加]→[ルートメンバ]をクリックします。



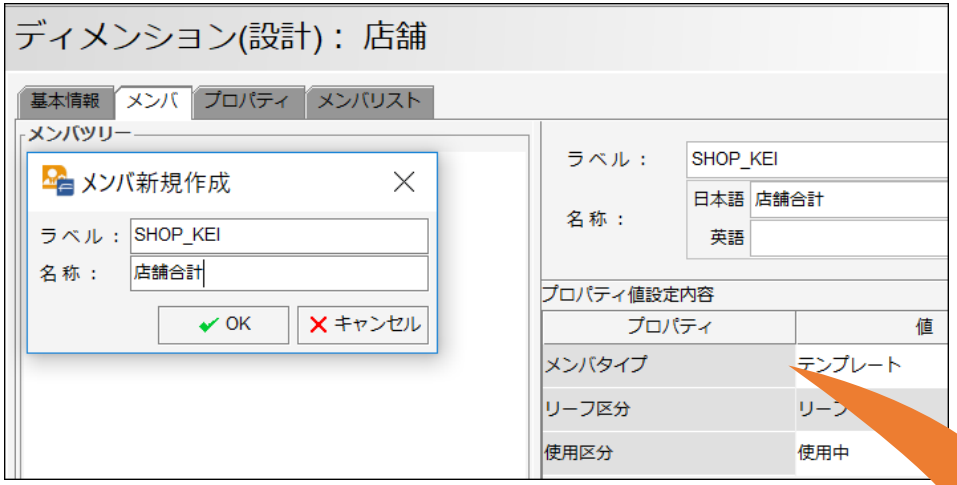
2.『メンバ新規作成』画面で、以下を入力。
・ラベル　　:TOKYO
・名称　　:東京地区
「OK」ボタンをクリックします。



3.プロパティ値設定内容フィールドにて
・メンバタイプ　：テンプレート
・リーフ区分　　：リーフでない
・使用区分　　：使用中
を選択し、「保存」ボタンをクリックします。

演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

まずは、上位階層となる「東京地区」「店舗合計」を作成します。



4.同様の手順で、店舗合計も作成しましょう。

- ラベル　　:SHOP_KEI
- 名称　　:店舗合計
- メンバタイプ　:テンプレート
- リーフ区分　　:リーフでない
- 使用区分　　:使用中

を選択し、「保存」ボタンをクリックします。

5.以下のイメージの通り上記階層の作成ができました。

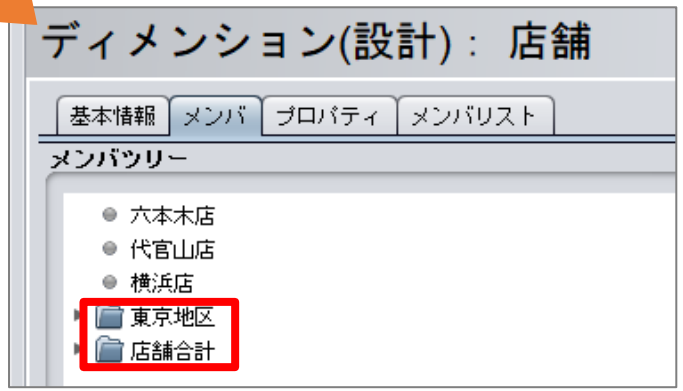
六本木店

代官山店

横浜店

東京地区

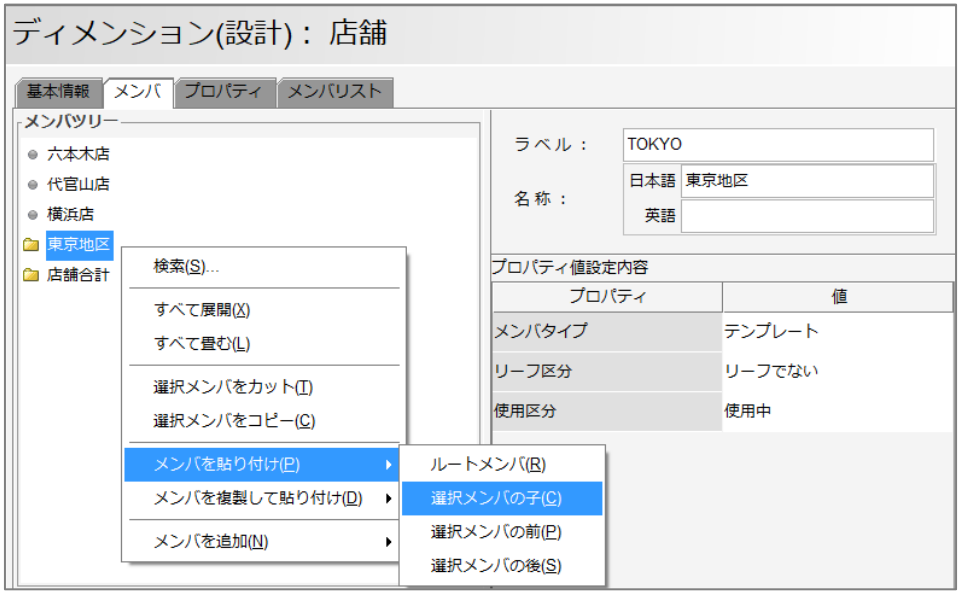
店舗合計



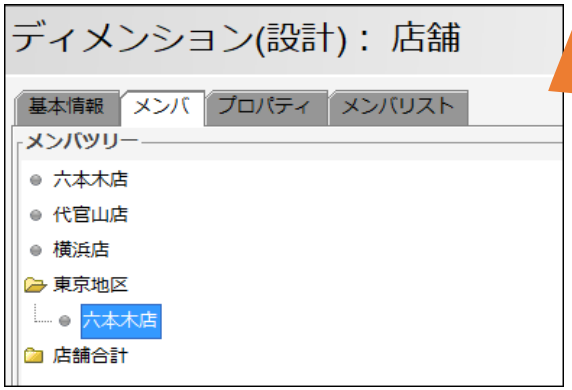
演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

次に、ツリー構造を作成します。

6.「六本木店」を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[選択メンバをカット] をクリックします。

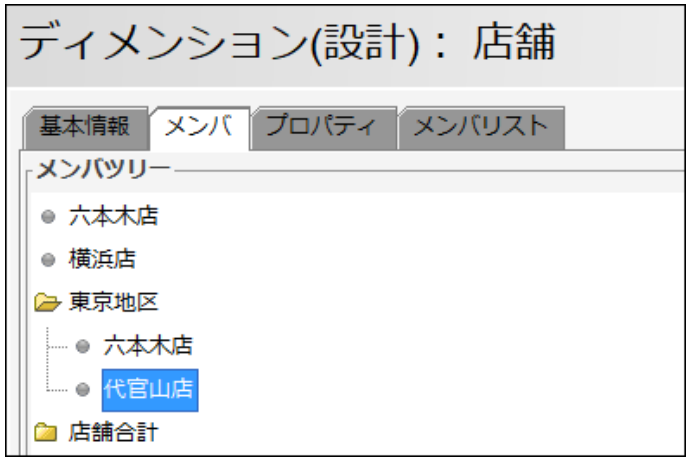


7.「東京地区」を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[メンバを貼り付け]→「選択メンバの子」 をクリックします。



8.「東京地区」に「六本木店」が追加されました。

演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

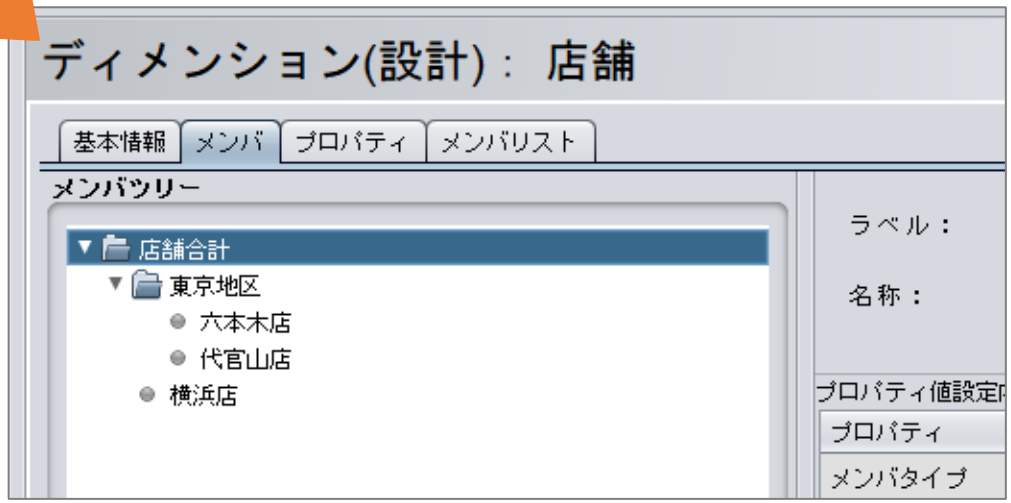


9.同様の手順で「代官山店」を「東京地区」の下に移動します。

10.さらに同様の手順で「東京地区」を「店舗合計」の下に、「横浜店」も「店舗合計」の下に移動します。

これで店舗ディメンションのツリー設定は終了です。

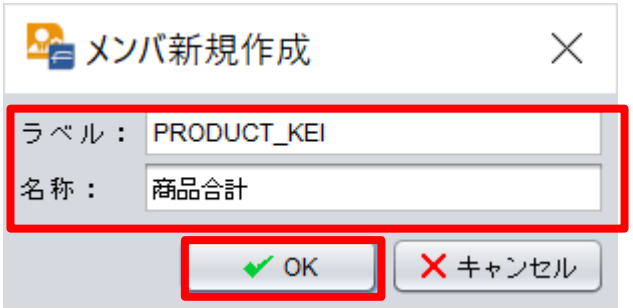
「保存」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。



演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

次に、商品ディメンションにツリー構造を定義してみましょう。まずは、上位階層となる「商品合計」を作成します。

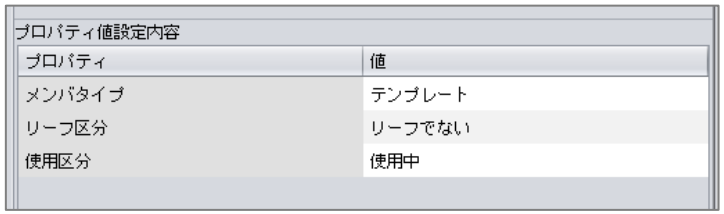
11.設計タブからディメンション:[商品]を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[メンバを追加]→[ルートメンバ]をクリックします。



12.『メンバ新規作成』画面で、以下の入力。

- ラベル　　:PRODUCT_KEI
- 名称　　:商品合計

「OK」ボタンをクリック　します。



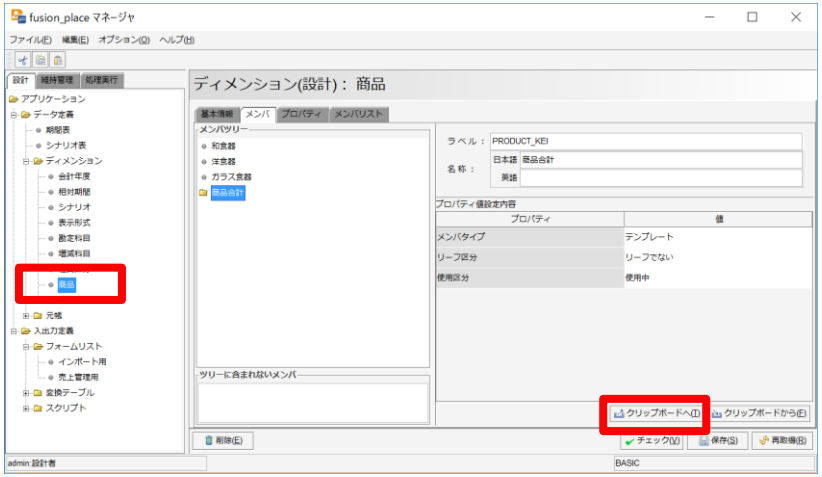
13.プロパティ値設定内容フィールドにて

- メンバタイプ　:テンプレート
- リーフ区分　　:リーフでない
- 使用区分　　:使用中

を選択し、「保存」ボタンをクリックします。

演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

次に、ツリー構造を作成します。Excel シートに登録されたデータをもとに、階層構造を一括して追加あるいは更新することができます。



14.「設計」タブからディメンション:[商品]を選択した状態で、「メンバ」パネルで、「クリップボードへ」ボタンをクリックします。

15.Excelシート上に貼り付け、下の段と同じになるように編集します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	HDR	LABEL	REMOVE_	NAME:en	NAME:ja	P:#MEMBER_TYPE	P:#LEAF	P:#ACTIV	PARENT	IS_ROOT
2	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT1	TRUE		和食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
3	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT2	TRUE		洋食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
4	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT3	TRUE		ガラス食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE		TRUE
5	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT_KEI	TRUE		商品合計	TEMPLATE	FALSE	TRUE		TRUE

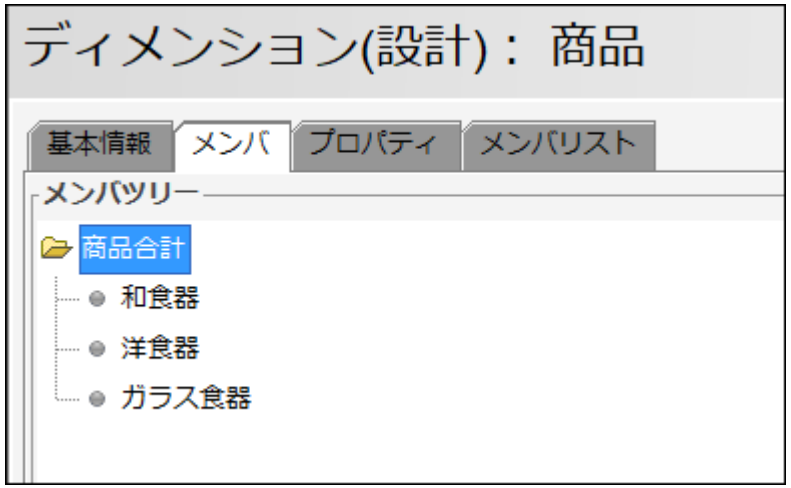
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	HDR	LABEL	REMOVE	NAME:en	NAME:ja	P:#MEMBER	P:#LEAF	P:#ACTIV	PARENT	IS_ROOT
2	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT_KEI	TRUE		商品合計	TEMPLATE	FALSE	TRUE		TRUE
3	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT2	TRUE		洋食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE	PRODUCT_KEI	FALSE
4	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT1	TRUE		和食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE	PRODUCT_KEI	FALSE
5	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT3	TRUE		ガラス食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE	PRODUCT_KEI	FALSE

©2020 fusions corporation

演習3.データ集計①（ツリー構造）
①ディメンション設定(ツリー設定)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	HDR	LABEL	REMOVE_	NAME:en	NAME:ja	P:#MEMBER_	P:#LEAF	P:#ACTIV	PARENT	IS_ROOT
2	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT_KEI	TRUE		商品合計	TEMPLATE	FALSE	TRUE		TRUE
3	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT2	TRUE		洋食器	TEMPLATE	TRUE	TRUE	PRODUCT_KEI	FALSE
4	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT1	TRUE		和食器	TEMPLA	TRUE	TRUE	PRODUCT_KEI	FALSE
5	ADD_OR_UPDATE_MEMBER	DTL	PRODUCT3	TRUE		ガラス食器	TEMPLATE		TRUE	PRODUCT_KEI	FALSE

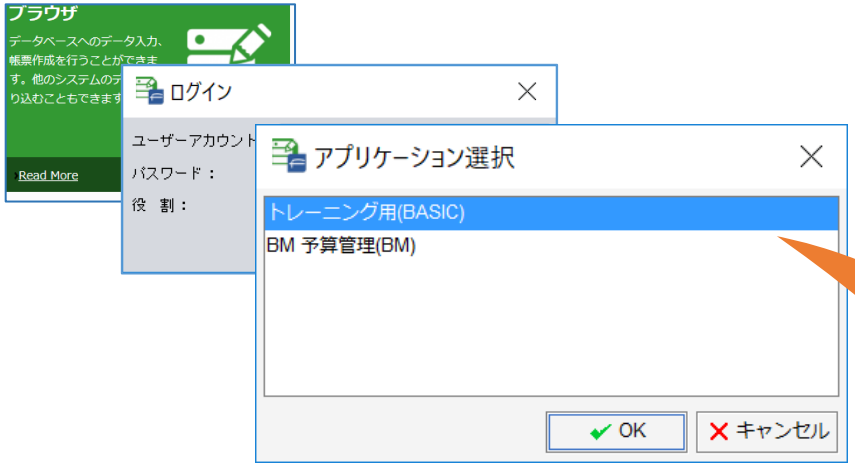
16.ツリー構造を編集したExcelシート上の範囲を選択し、コピーします。



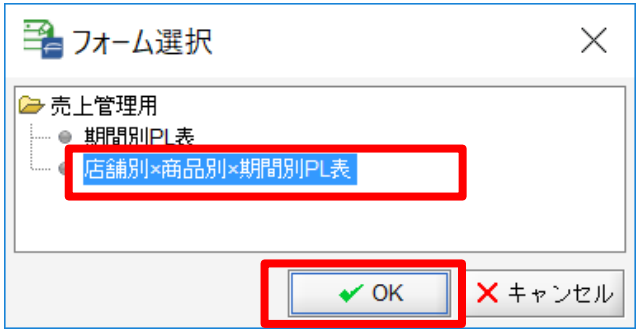
18.「商品合計」の下に商品メンバが移動します。「保存」ボタンをクリックします。
これで商品ディメンションのツリー設定は終了です。

演習3.データ集計①（ツリー構造）
②データ積み上げ結果確認

2章で作成したフォームを使用して、積み上げ計算の結果を確認してみましょう。



1.「ブラウザ」ボタンをクリック後、ログインし、アプリケーションを選択します。



2.「フォーム選択」画面で「FORM2：店舗別×商品別×期間別PL表」を選択し、「OK」をクリック。

演習3.データ集計①（ツリー構造）
②データ積み上げ結果確認

3. 各店舗および各商品の合計値が自動計算されていることを確認します。

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	4月
六本木店			
	和食器		
		売上高	1,000
	洋食器		
		売上高	500
	ガラス食器		
		売上高	300
	商品合計		
		売上高	1,800
代官山店			
	和食器		
		売上高	400
	洋食器		
		売上高	200
	ガラス食器		
		売上高	100
	商品合計		
		売上高	700

東京地区			
	和食器		
		売上高	1,400
	洋食器		
		売上高	700
	ガラス食器		
		売上高	400
	商品合計		
		売上高	2,500

横浜店			
	和食器		
		売上高	460
	洋食器		
		売上高	870
	ガラス食器		
		売上高	900
	商品合計		
		売上高	2,230
店舗合計			
	和食器		
		売上高	1,860
	洋食器		
		売上高	1,570
	ガラス食器		
		売上高	1,300
	商品合計		
		売上高	4,730

演習3.データ集計①（ツリー構造）
②データ積み上げ結果確認

想定どおりに、正しく積み上げ計算が行われたことを確認します。

2019年度　実績　期別

店舗	商品	勘定科目	4月
六本木店			
	和食器		
		売上高	1,000
	洋食器		
		売上高	500
	ガラス食器		
		売上高	300
	商品合計		
		売上高	1,800
代官山店			
	和食器		
		売上高	400
	・・・		

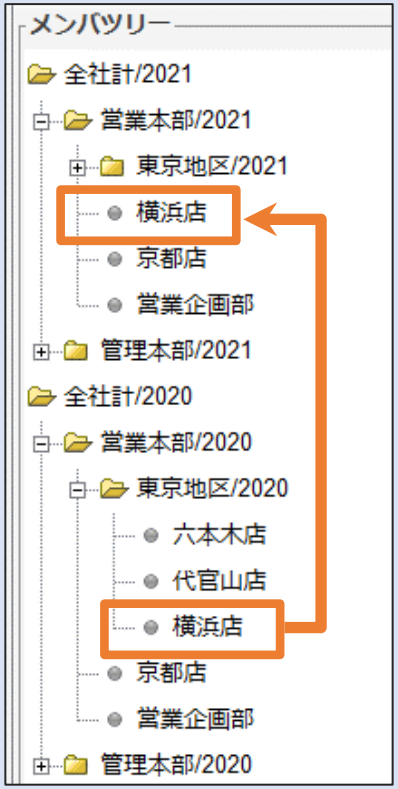
	・・・		
	商品合計		
		売上高	
店舗合計			
	和食器		
		売上高	1,860
	洋食器		
		売上高	1,570
	ガラス食器		
		売上高	1,300
	商品合計		
		売上高	4,730

注）「ブラウザ」の画面上、自動で積み上げ計算されるセルは、水色で表示されます。

3.データ集計①（ツリー構造）
（参考）様々なツリー構造

各ディメンションでは、複数のツリー構造を登録し、様々なタイプの集計をすることができます。
例えば、店舗（組織）で、年度毎、店舗形態毎など、異なった組織階層を保持して、様々な集計ができます。

年度毎のツリー例



設定例
横浜支店は、2020年では東京地区管轄、2021年には営業本部直轄

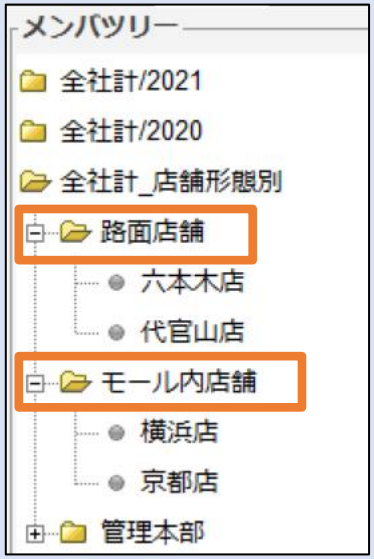
2021年度組織階層

2020年度の横浜店と、2021年度の横浜店は同じ組織です。
データを二重入力する必要はなく、一度入力すれば2021年度と2020年度の双方の階層に積み上がります。

2020年度組織階層

・過年度数値を、現状組織体系で参照可能
・来年度予算は、当年度と異なる組織体系で作成可能

店舗形態毎のツリー例



設定例
路面店舗、
モール内店舗など、
店舗形態ごとに集計する場合

事業セグメント別等、業種業態により、様々な集計用のツリー構造を登録可能

3.データ集計①（ツリー構造）

3-3.メンバリスト

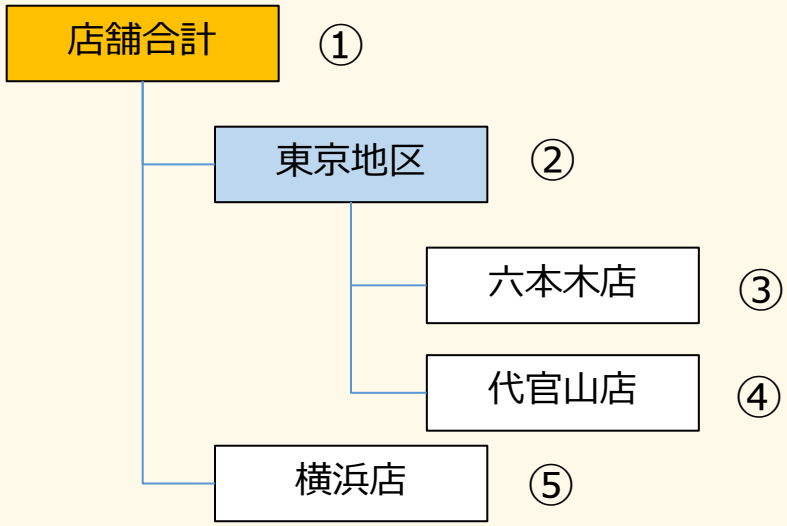
3.データ集計①（ツリー構造）
3-3.メンバリスト

メンバリストは、フォームを作成する際、フォームの縦軸・横軸にメンバを配置するために使います。また、パラメータで選択可能なメンバを決めるためにも使われます。

メンバリストは、一つのディメンションにツリー構造に登録されているメンバの中から、どのメンバを選択するか、また選択されたメンバをどのように並べるか、を決定します。

メンバリストはよく使うものが予め登録されています。ユーザが独自に作ることもできます。

店舗ディメンション



・ルートメンバ　→　①

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
店舗合計	1,570	1,860	1,300	4,730

・ルートメンバのすべての子孫（子優先ならび）
→③④②⑤①

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
六本木店	500	1,000	300	1,800
代官山店	200	400	100	700
東京地区	700	1,400	400	2,500
横浜店	870	460	900	2,230
店舗合計	1,570	1,860	1,300	4,730

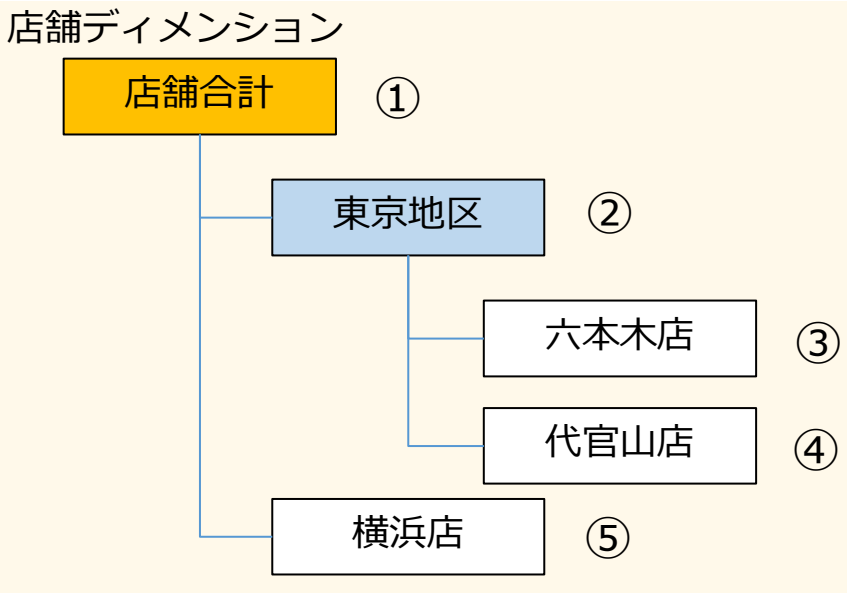
・ルートメンバのすべての子孫（親優先ならび）
→①②③④⑤

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
店舗合計	1,570	1,860	1,300	4,730
東京地区	700	1,400	400	2,500
六本木店	500	1,000	300	1,800
代官山店	200	400	100	700
横浜店	870	460	900	2,230

©2020 fusions corporation

3.データ集計①（ツリー構造）
3-3.メンバリスト



・視点メンバの子（直下のメンバ）
＜視点メンバ＞店舗合計→ ②⑤

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
東京地区	700	1,400	400	2,500
横浜店	870	460	900	2,230

・視点メンバの子孫（子優先ならび）
＜視点メンバ＞東京地区→ ③④②

積上結果確認用フォーム

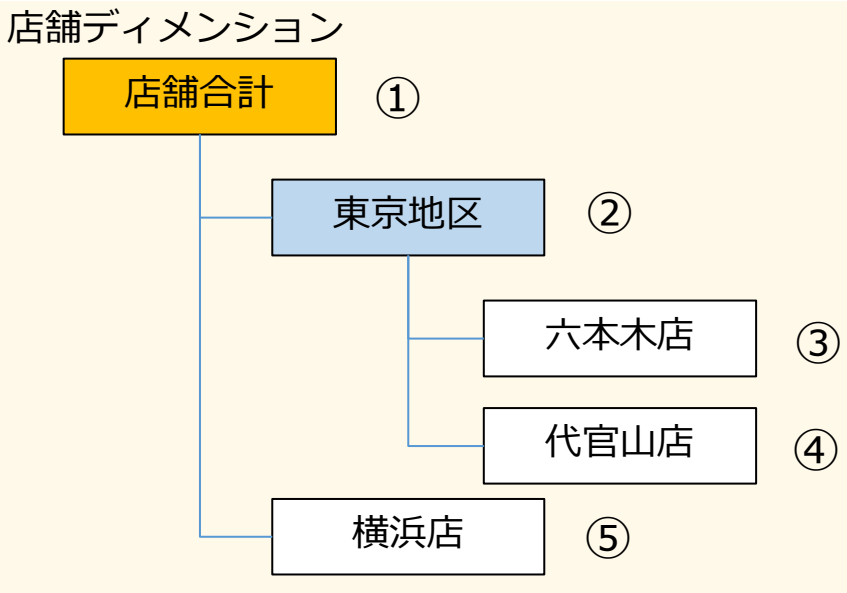
店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
六本木店	500	1,000	300	1,800
代官山店	200	400	100	700
東京地区	700	1,400	400	2,500

・視点メンバの子孫（親優先ならび）
＜視点メンバ＞東京地区→ ②③④

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
東京地区	700	1,400	400	2,500
六本木店	500	1,000	300	1,800
代官山店	200	400	100	700

3.データ集計①（ツリー構造）
3-3.メンバリスト



・視点メンバの最下位子孫
＜視点メンバ＞店舗合計→　③④⑤

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
六本木店	500	1,000	300	1,800
代官山店	200	400	100	700
横浜店	870	460	900	2,230

・視点メンバの最下位子孫でかつリーフ
＜視点メンバ＞店舗合計→　③④⑤

積上結果確認用フォーム

店舗	洋食器	和食器	グラスウェア	商品合計
六本木店	500	1,000	300	1,800
代官山店	200	400	100	700
横浜店	870	460	900	2,230

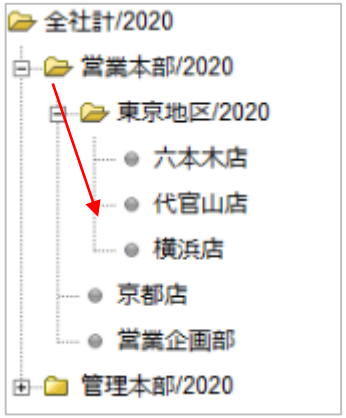
3.データ集計①（ツリー構造）
（参考）「視点メンバの子（直下のメンバ）」の便利な使い方～

フル機能版フォームでは、パラメータで選択したメンバを視点メンバとして、メンバリスト「**視点メンバの子（直下のメンバ）**」により展開することができます。
さらにドリルダウン機能を組み合わせることにより、ディメンションのツリー構造に沿って分析可能な帳票を作成できます。

①横軸にメンバリスト「**視点メンバの子（直下のメンバ）**」を設定することで、パラメータ（視点メンバ）で選択したメンバの直下のメンバを並べることができます。

②クリックしたメンバをパラメータとして遷移先の画面に引き渡すことができます。

<組織ツリー>



①、②の機能を組み合わせることで、メンバツリーに従ったドリルダウン帳票を作成することができます。

3.データ集計①（ツリー構造）
おさらい

積み上げ計算は、すべてのディメンションで行われます。

会計年度 :2019年度
シナリオ :実績
表示形式 :期別
期間 :4月
勘定科目 :売上高
増減科目 :なし

商品ディメンションでの積み上げ

店舗ディメンションでの積み上げ

店舗 ＼ 商品	和食器	洋食器	ガラス食器	商品合計
六本木店	1,000	500	300	1,800
代官山店	400	200	100	700
東京地区	1,400	700	400	2,500
横浜店	460	870	900	2,230
店舗合計	1,860	1,570	1,300	4,730

それぞれのディメンションで自動かつリアルタイムに計算されます

複数のディメンションの組み合わせで集計可能です

4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）

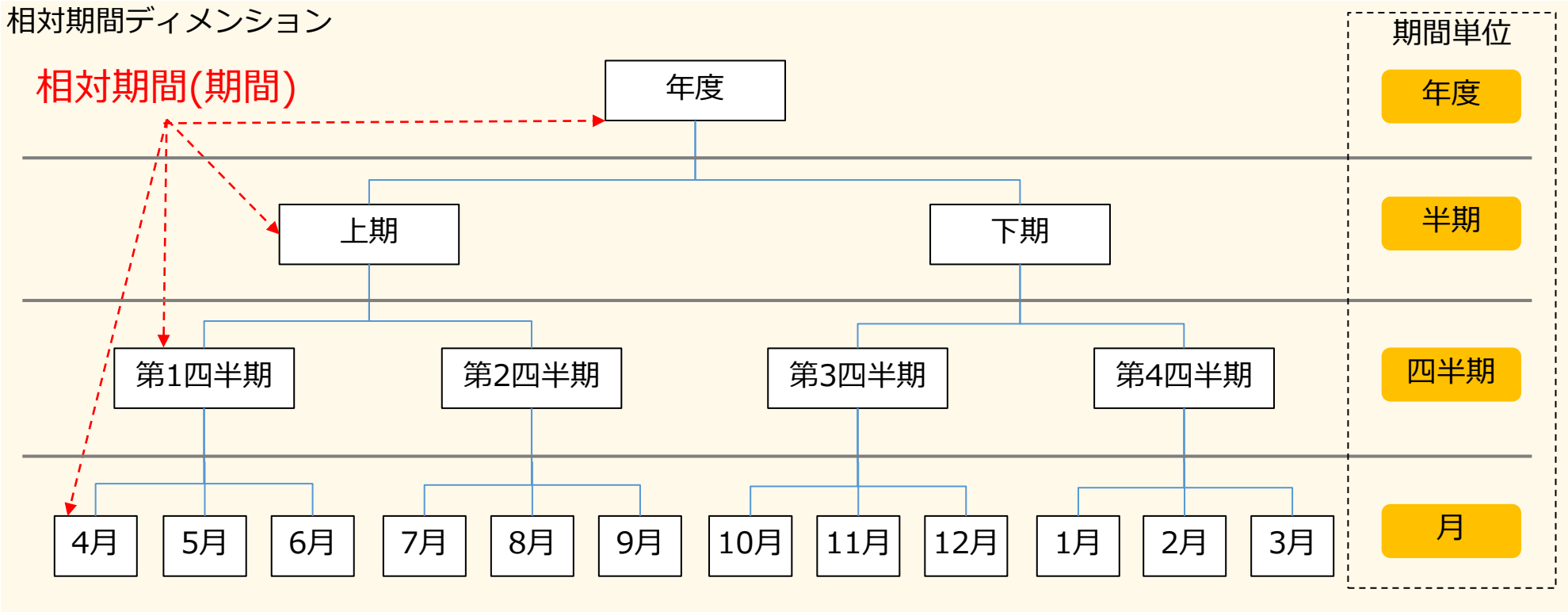
4-1.相対期間/表示形式ディメンション
4-2.勘定科目ディメンション
4-3.貸借区分による積み上げの考え方

4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）
4-1.相対期間/表示形式ディメンション

■相対期間とは・・・

一年度内の期間の構成を定義するディメンションです。会計年度ディメンションとの組み合わせで暦年の期間が指定されることになります。

相対期間を単に期間と呼ぶこともあります。



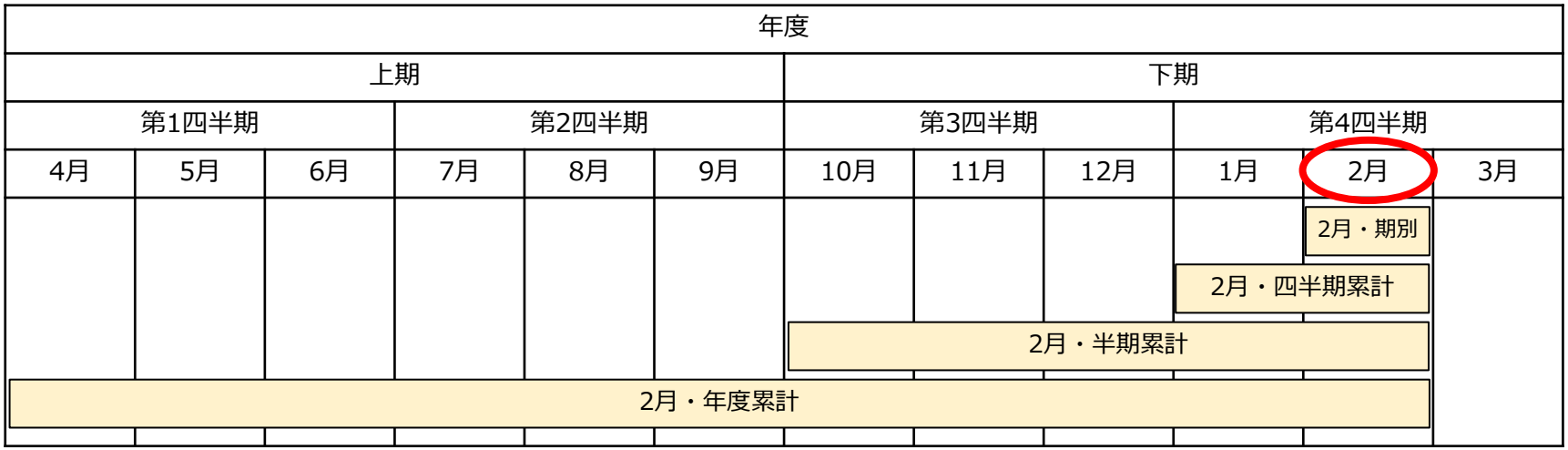
4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）
4-1.相対期間/表示形式ディメンション

■「表示形式」は、期間の集計範囲および集計方式を指定するために用いるディメンションです。以下の４種のメンバから構成されます。このメンバは、予め、標準でセットされています。

ディメンション	メンバ	メンバのラベル	メンバの説明
表示形式	期別	PER(Periodical)	該当期間の発生額
	四半期累計	QTD(Quarter-to-date)	四半期期首から該当期間までの累計額
	半期累計	HTD(Half-to-date)	半期期首から該当期間までの累計額
	年度累計	YTD(Year-to-date)	年度期首から該当期間までの累計額

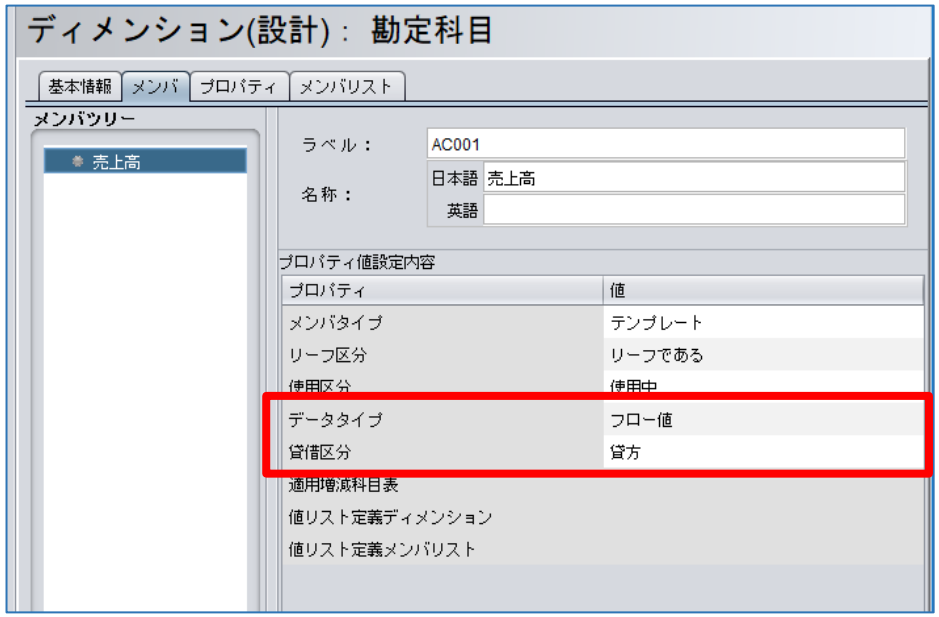
■ディメンション「相対期間」と「表示形式」の組み合わせで、表示したい数値を指定します。

例）2月期の場合、「相対期間」は「2月」を指定。「表示形式」で、「期別」、「四半期累計」、「半期累計」、「年度累計」のいずれかを指定します。それぞれ表示される値は、下図のようになります。



4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）
4-2.勘定科目ディメンション

勘定科目ディメンションのメンバのみ設定可能なプロパティ「データタイプ」「貸借区分」について説明します。



■データタイプ

元帳の各セルの保持するデータの種類を指定します。

データタイプ	内容
なし	値を保持しないことを意味するデータタイプ
フロー値	「相対期間」で指定される期間内に発生した額、と扱われます。「表示形式」を累計と指定すると、累計されます。
バランス値	「相対期間」で指定される期間の期末時点の残高、と扱われます。「表示形式」の期別、累計指定によらず同じ値です。
文字列値	文字列データ
論理値	「はい」「いいえ」の二つの値のみ許されるデータタイプ
列挙値	あらかじめ決めておいた値リストからいずれかひとつの値を選んで保持できるデータタイプ

■貸借区分

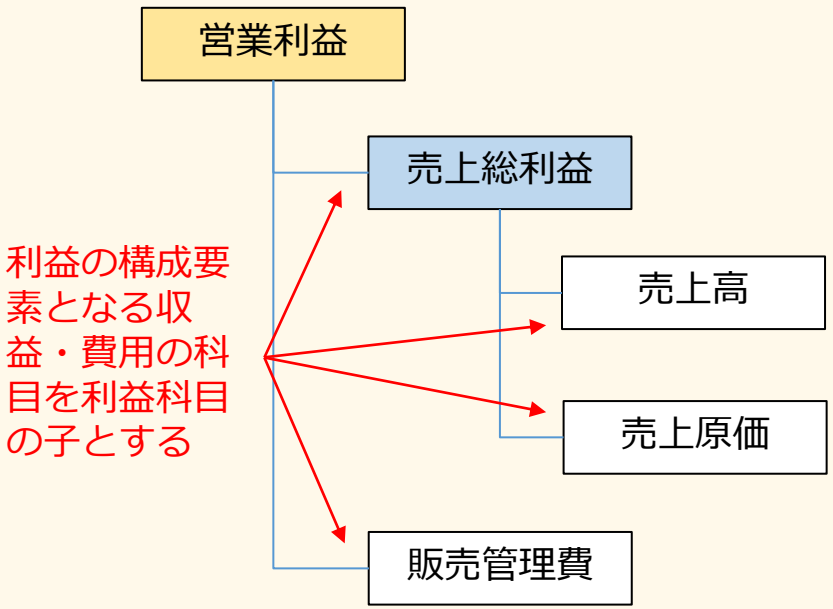
データタイプが、バランス値またはフロー値の場合のみ使用。勘定科目が借方属性、貸方属性を指定。

4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）
4-3.貸借区分による積み上げの考え方

勘定科目ディメンションにもツリー構造を設けて積上げ計算を行うことができます。
他のディメンションと異なる点は、貸借区分の設定により、差引計算ができることです。

以下に例を示します。

「勘定科目」ディメンション



貸借区分を設定

貸借区分	表示値	データベース上の値
貸方	150	ー
貸方	400	ー
貸方	900	-900
借方	500	500
借方	250	250

4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）デモ

「表示形式」の違いによる、データの違いを、実機を使って確認してみましょう。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F)　編集(E)　アクション(A)　オプション(O)　ヘルプ(H)

業務責任単位：　なし (システム定義)

表示形式確認用　売上高　2019年度　実績　和食器　六本木店

表示形式確認用

表示形式	４月	５月	６月	第１四半期	７月	８月	９月	第２四半期	上半期
期別	1,000	1,500	2,000	4,500	2,500	3,000	3,500	9,000	13,500
四半期累計	1,000	2,500	4,500	4,500	2,500	5,500	9,000	9,000	13,500
半期累計	1,000	2,500	4,500	4,500	7,000	10,000	13,500	13,500	13,500
年度累計	1,000	2,500	4,500	4,500	7,000	10,000	13,500	13,500	13,500

表示形式	１０月	１１月	１２月	第３四半期	１月	２月	３月	第４四半期	下半期	年
期別	4,000	4,500	5,000	13,500	5,500	6,000	6,500	18,000	31,500	45,000
四半期累計	4,000	8,500	13,500	13,500	5,500	11,500	18,000	18,000	31,500	45,000
半期累計	4,000	8,500	13,500	13,500	19,000	25,000	31,500	31,500	31,500	45,000
年度累計	17,500	22,000	27,000	27,000	32,500	38,500	45,000	45,000	45,000	45,000

4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）デモ

（続き）

【表示形式:期別】

表示形式・勘定科目積み上げ結果確認用フォーム

勘定科目	４月	５月	６月	第１四半期	７月	８月	９月	第２四半期	上半期	１０月	１１月	１２月	第３四半期	１月	２月	３月	第４四半期	下半期	年
売上高	1,000	1,500	2,000	4,500	2,500	3,000	3,500	9,000	13,500	4,000	4,500	5,000	13,500	5,500	6,000	6,500	18,000	31,500	45,000
売上原価	800	1,200	1,600	3,600	2,000	2,400	3,200	7,600	11,200	3,600	4,000	4,400	12,000	4,800	5,200	5,600	15,600	27,600	38,800
売上総利益	200	300	400	900	500	600	300	1,400	2,300	400	500	600	1,500	700	800	900	2,400	3,900	6,200
販管費	100	120	140	360	160	180	200	540	900	220	240	260	720	280	300	320	900	1,620	2,520
営業利益	100	180	260	540	340	420	100	860	1,400	180	260	340	780	420	500	580	1,500	2,280	3,680

【表示形式:年度累計】

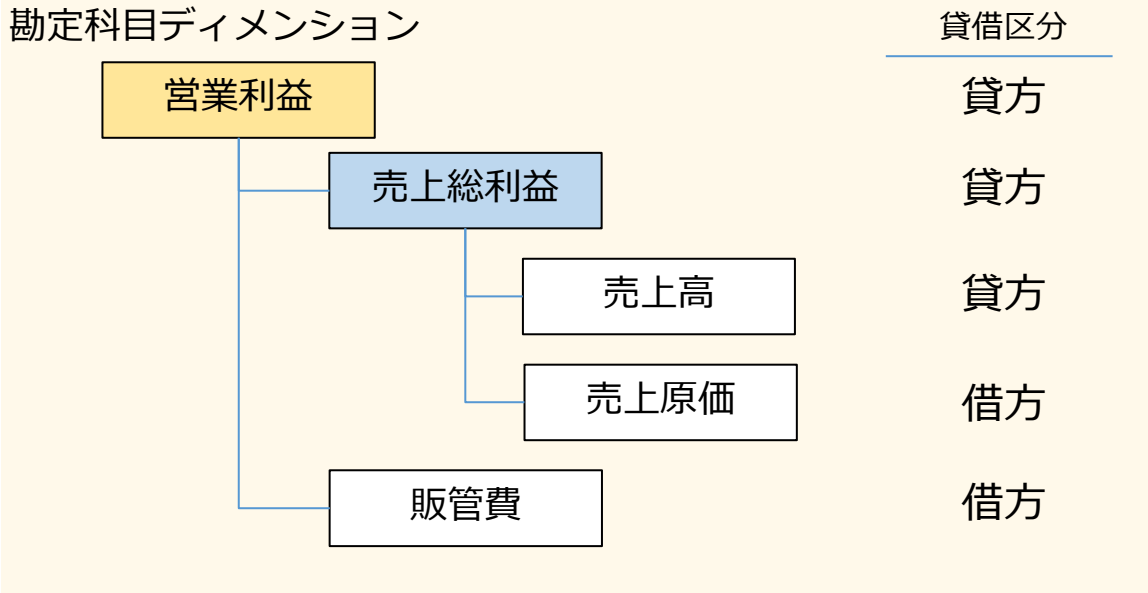
勘定科目	４月	５月	６月	第１四半期	７月	８月	９月	第２四半期	上半期	１０月	１１月	１２月	第３四半期	１月	２月	３月	第４四半期	下半期	年
売上高	1,000	2,500	4,500	4,500	7,000	10,000	13,500	13,500	13,[illegible]00	17,500	22,000	27,00	27,00	32,500	38,500	45,000	45,000	45,000	45,000
売上原価	800	2,000	3,600	3,600	5,600	8,000	11,200	11,200	11,[illegible]00	14,800	18,800	23,20	23,20	28,000	33,200	38,800	38,800	38,800	38,800
売上総利益	200	500	900	900	1,400	2,000	2,300	2,300	2,[illegible]00	2,700	3,200	3,80	3,80	4,500	5,300	6,200	6,200	6,200	6,200
販管費	100	220	360	360	520	700	900	900	[illegible]00	1,120	1,360	1,62	1,62	1,900	2,200	2,520	2,520	2,520	2,520
営業利益	100	280	540	540	880	1,300	1,400	1,400	1,[illegible]00	1,580	1,840	2,18	2,18	2,600	3,100	3,680	3,680	3,680	3,680

演習4.表示形式、勘定科目ディメンション

⓪演習の全体像
①ディメンション設定（ツリー設定）
②フォームでのデータ確認
③データ入力と結果確認
④応用編

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
⓪演習の全体像

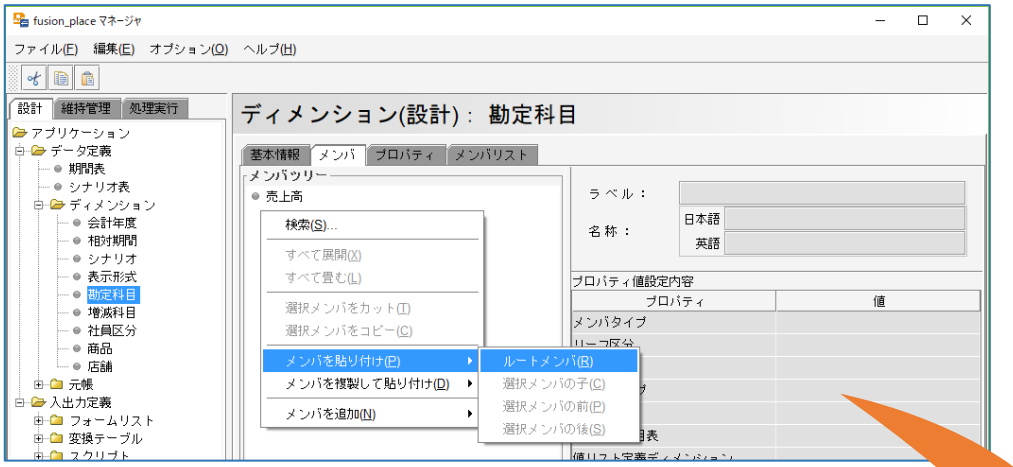
表示形式によるデータの見え方を確認したり、勘定科目のデータタイプ・貸借区分を設定することで、表示形式、勘定科目ディメンションの概念を習得します。



1 ディメンション設定(ツリー設定)

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
①ディメンション設定(ツリー設定)

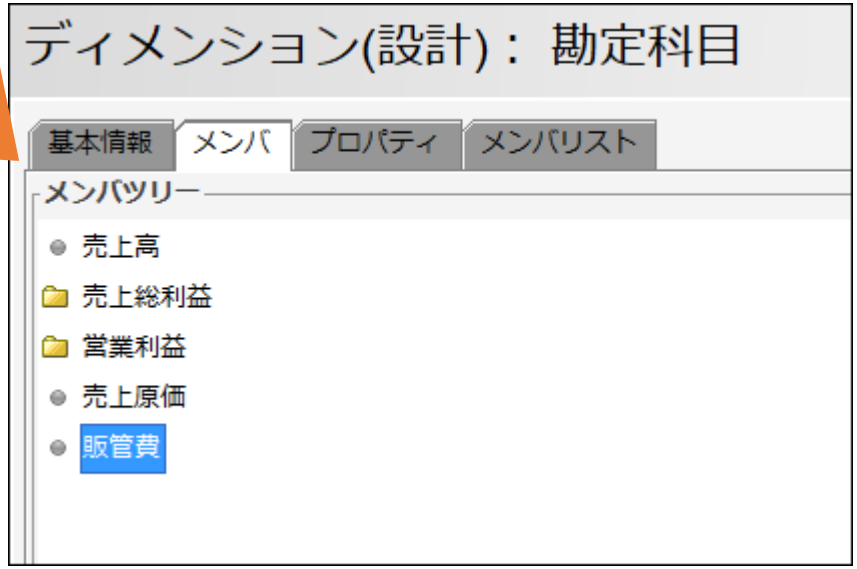
それでは、「勘定科目」ディメンションにツリー構造を定義してみましょう。
まずは各メンバを作成します。



1.設計タブからディメンション:[勘定]を選択した状態で、メンバーツリーフィールドで右クリックし、[メンバを追加]→[ルートメンバ]をクリックします。

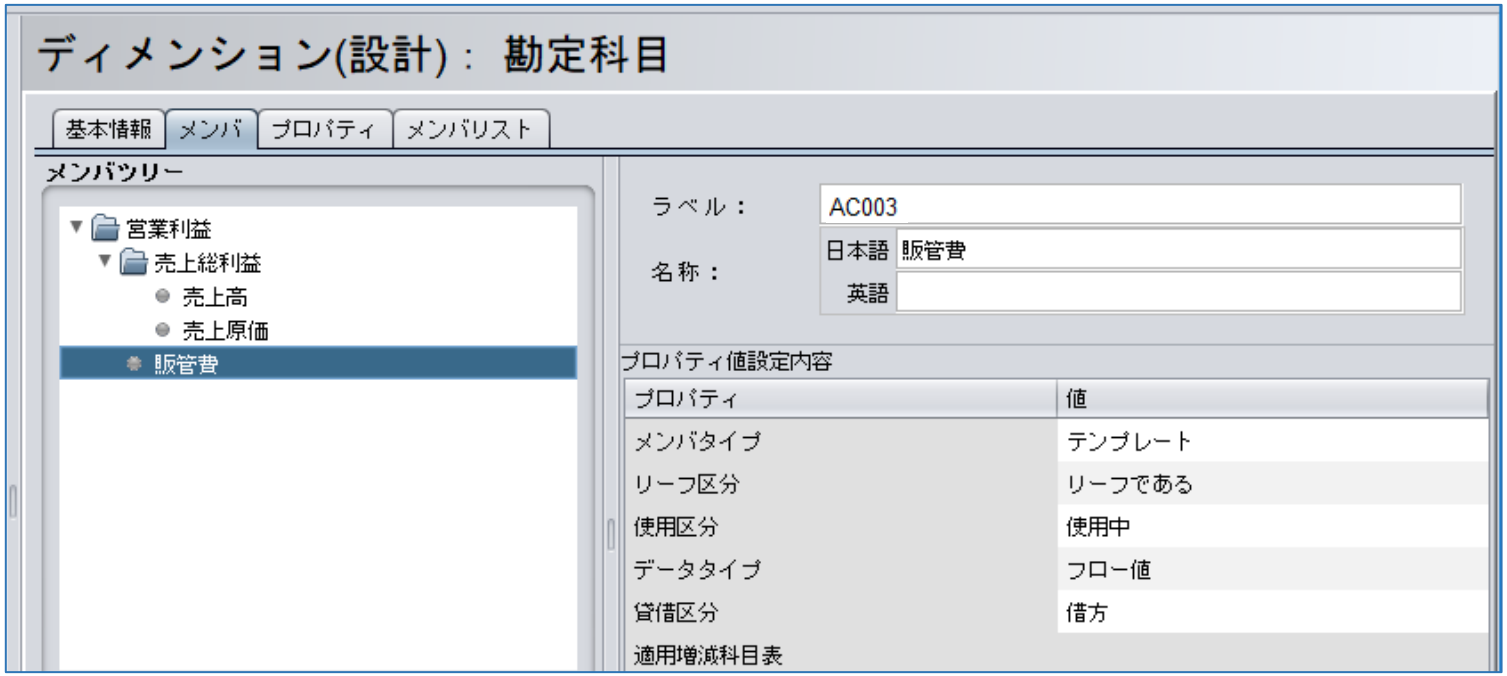
2.ラベル、名称、プロパティを以下の通り登録してください。下記以外はデフォルトのままでOKです。

ラベル	名称	リーフ区分	データタイプ	貸借区分
OPRO	営業利益	リーフでない	フロー値	貸方
GPRO	売上総利益	リーフでない	フロー値	貸方
AC002	売上原価	リーフである	フロー値	借方
AC003	販管費	リーフである	フロー値	借方



演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
①ディメンション設定(ツリー設定)

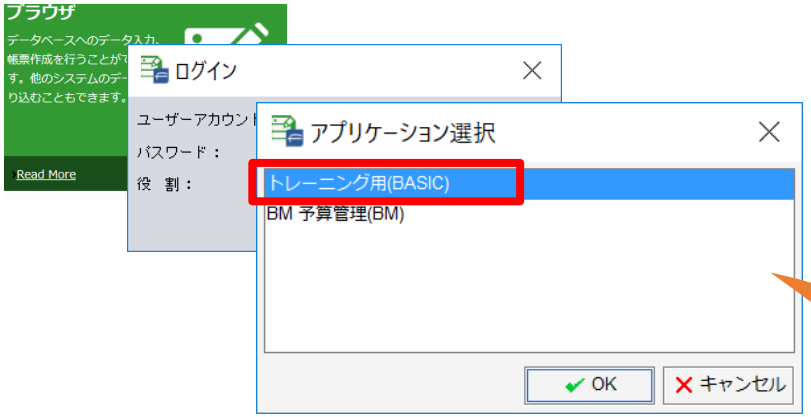
3. 「店舗」ディメンションと同様の手順で、下図のとおり、ツリー構造を作成してください。



※「商品」ディメンションと同様にクリップボード経由でツリー構造を作成することもできます。
同梱のBasicTraining_貼り付け用.xlsx > 演習4.①をお使いください

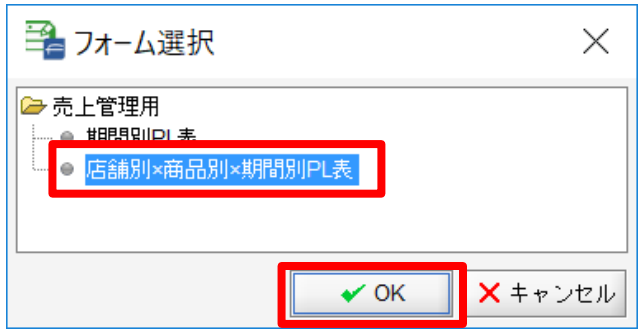
演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
②フォームでのデータ確認

追加した勘定科目を、２章で作成したフォームで確認しましょう。



1.「ブラウザ」ボタンをクリック後、ログインし、アプリケーションを選択します。

2.「フォーム選択」画面で「店舗別×商品別×期間別PL表」（FORM２，2章で作成）を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



店舗別×商品別×期間別PL表

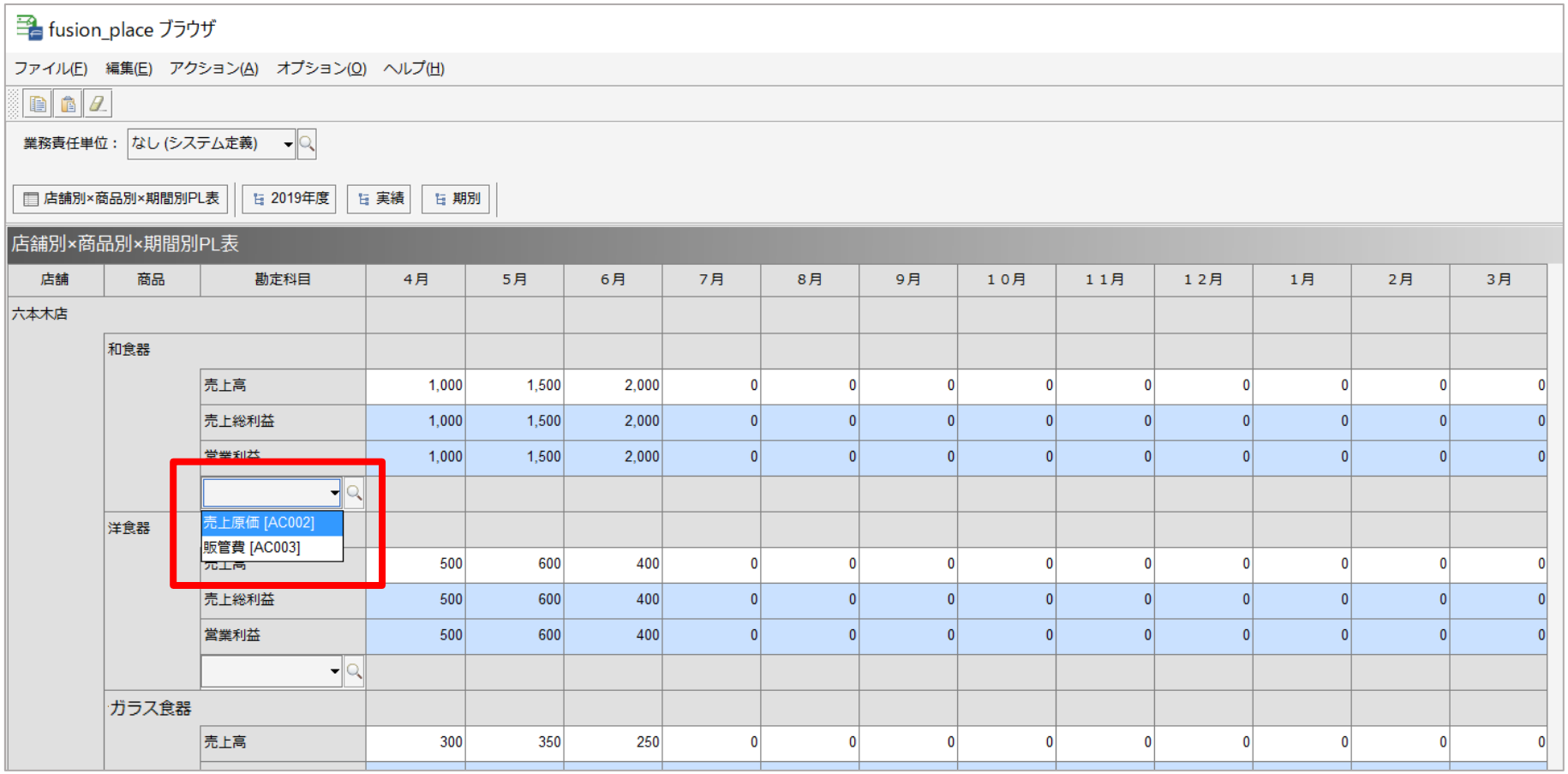
店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月
六本木店					
	和食器				
		売上高	1,000	1,500	2,000
		売上総利益	1,000	1,500	2,000
		営業利益	1,000	1,500	2,000

3.「店舗別×商品別×期間別PL表」が起動します。

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
②フォームでのデータ確認

4.追加した勘定科目が、フォーム上に、自動で反映されていることを確認します。

注：「売上原価」および「販管費」は、まだデータが無い為、この行は、デフォルトでは表示されていません。ドロップダウンリストから選択可能です。

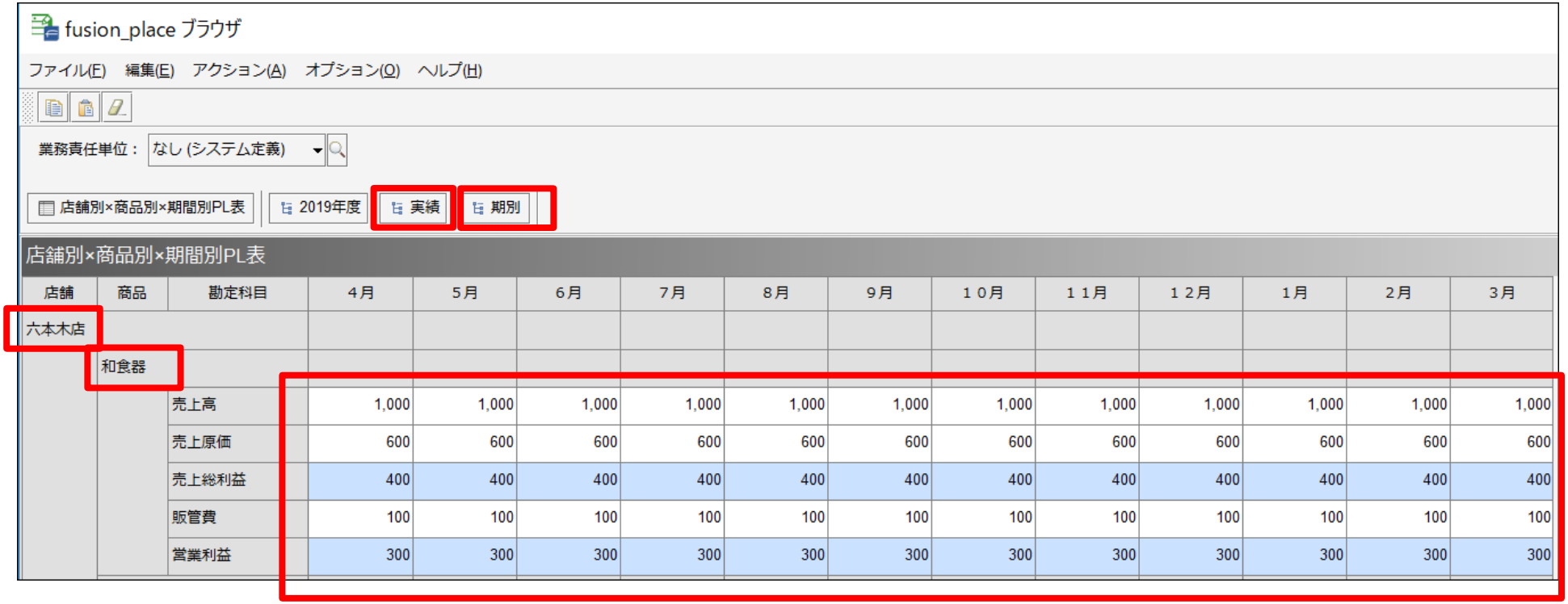


店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
六本木店														
	和食器													
		売上高	1,000	1,500	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		売上総利益	1,000	1,500	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		営業利益	1,000	1,500	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	洋食器													
		売上高	500	600	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		売上総利益	500	600	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		営業利益	500	600	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガラス食器													
		売上高	300	350	250	0	0	0	0	0	0	0	0	0

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
③データ入力と結果確認

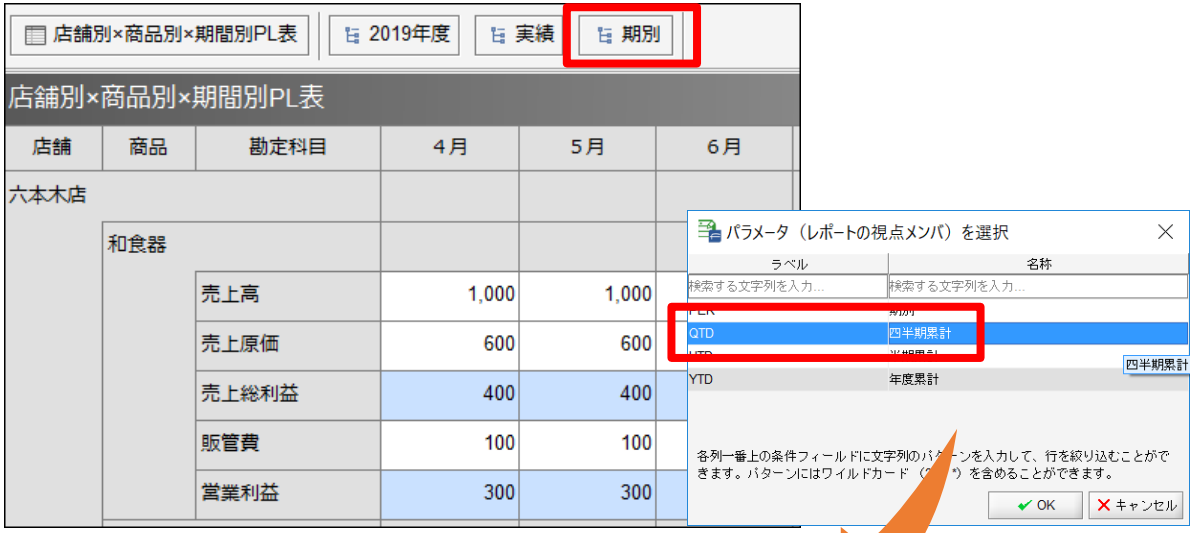
1.このフォームを利用して、4~3月までの売上高のデータを入力し、期間単位の指定による表示データの違いを確認します。

下図の通り、六本木店、和食器、実績、期別（単月）、 4月~3月の期間に、
「売上高」、「売上原価」、「販管費」のデータを入力し、「保存」ボタンをクリックしてください。



店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
六本木店														
	和食器													
		売上高	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		売上原価	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
		売上総利益	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
		販管費	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		営業利益	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
③データ入力と結果確認



2.「期間単位」ボタンをクリックし、「パラメータ（レポートの視点メンバ）の選択」画面にて、「QTD:四半期累計」に切り替えます。

3.四半期ごとの累計値が、表示されていることを確認します。

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
③データ入力と結果確認

4.同様の手順で、「半期累計」および「年度累計」の数値も、確認してください。

■「半期累計」

店舗別×商品別×期間別PL表 | 2019年度 | 実績 | 半期累計

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
六本木店														
	和食器													
		売上高	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000
		売上原価	600	1,200	1,800	2,400	3,000	3,600	600	1,200	1,800	2,400	3,000	3,600
		売上総利益	400	800	1,200	1,600	2,000	2,400	400	800	1,200	1,600	2,000	2,400
		販管費	100	200	300	400	500	600	100	200	300	400	500	600
		営業利益	300	600	900	1,200	1,500	1,800	300	600	900	1,200	1,500	1,800

■「年度累計」

店舗別×商品別×期間別PL表 | 2019年度 | 実績 | 年度累計

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
六本木店														
	和食器													
		売上高	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	12,000
		売上原価	600	1,200	1,800	2,400	3,000	3,600	4,200	4,800	5,400	6,000	6,600	7,200
		売上総利益	400	800	1,200	1,600	2,000	2,400	2,800	3,200	3,600	4,000	4,400	4,800
		販管費	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200
		営業利益	300	600	900	1,200	1,500	1,800	2,100	2,400	2,700	3,000	3,300	3,600

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
③データ入力と結果確認

（応用編）

フォームを、より見やすいレイアウトに変更します。前頁のフォームでは、期別値(単月値)しか表示されません。四半期・半期・年度での累計値(合計値)も表示するように、横軸の一部を変更します。

■変更前

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	7月
六本木店						
	和食器					
		売上高	1,000	1,00	1,000	1,000
		売上原価	600	60	600	600
		売上総利益	400	40	400	400
		販管費	100	10	100	100
		営業利益	300	30	300	300

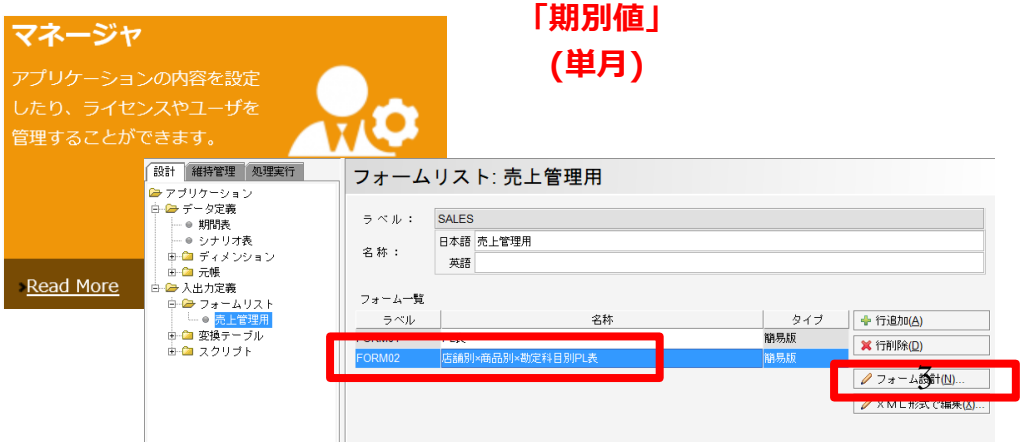
「期別値」
(単月)

■変更後

店舗別×商品別×期間別PL表

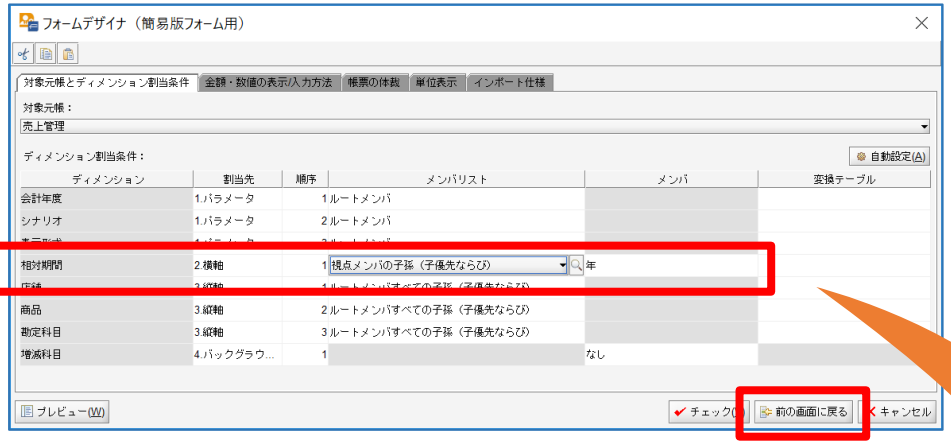
店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	第1四半期	7月
六本木店							
	和食器						
		売上	1,000	1,00	1,000	3,000	1,000
		売上原価	600	60	600	1,800	600
		売上総利益	400	40	400	1,200	400
		販管費	100	10	100	300	100
		営業利益	300	30	300	900	300

「期別値」「累計値」
(単月) (四半期合計)



1.「マネージャ」に入り、「FORM2：店舗別×商品別×勘定科目別PL表」を選択し、「フォーム設計」ボタンをクリックします。

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
③データ入力と結果確認



1.「ディメンション割当条件」欄の「相対期間」で、下図の通り、「視点メンバの子孫（子優先ならび）」に変更します。

「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、前に戻り、「保存」ボタンをクリックします。

2.「ブラウザ」を起動し、「店舗別×商品別×期間別PL表」を選択。右図の通り、「期別値(単月値)」の他、四半期・半期・年度の累計値（合計値）が表示されていることを確認します。

（「ブラウザ」が起動済の場合は、フォームの再選択のみで、新しい設定が反映されます。）

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	4月	5月	6月	第１四半期	7月	8月	9月	第２四半期
六本木店										
	和食器									
		売上高	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000
		売上原価	600	600	600	1,800	600	600	600	1,800
		売上総利益	400	400	400	1,200	400	400	400	1,200
		販管費	100	100	100	300	100	100	100	300
		営業利益	300	300	300	900	300	300	300	900

上半期	１０月	１１月	１２月	第３四半期	1月	2月	3月	第４四半期	下半期	年
6,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000	6,000	12,000
3,600	600	600	600	1,800	600	600	600	1,800	3,600	7,200
2,400	400	400	400	1,200	400	400	400	1,200	2,400	4,800
600	100	100	100	300	100	100	100	300	600	1,200
1,800	300	300	300	900	300	300	300	900	1,800	3,600

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
③データ入力と結果確認

3.「相対期間」は、他のディメンションとは異なり、初期状態で、集計メンバへの入力ができます。
集計メンバのデータを変更した場合、直下のメンバの一番下のメンバで、データが調整されます。
この機能は、予算編成時に、年度合計を入力したい場合等に便利です。

例）第1四半期のデータが「3,000」とします（下図※1）。このデータを、「2,500」に変更した場合（※2）、「6月」のデータが、「1,000」から「500」に変わります（※3）。

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	5月	6月	第1四半期
六本木店					
	和食器				
		売上高	1,000	1,000	3,000
		売上原価	600	600	1,800
		売上総利益	400	400	1,200
		販管費	100	100	300
		営業利益	300	300	900

※1

店舗別×商品別×期間別PL表

店舗	商品	勘定科目	5月	6月	第1四半期
六本木店					
	和食器				
		売上高	1,000	500	2,500
		売上原価	600	600	1,800
		売上総利益	400	-100	700
		販管費	100	100	300
		営業利益	300	-200	400

※3 ※2

演習4.相対期間/表示形式、勘定科目
（参考） 集計メンバでのデータ入力

「相対期間」以外のディメンションは、初期設定では集計メンバへの数値入力はできませんが、各シナリオでの「集約レベル数値編集」の設定により、数値入力が可能となります。

以下は、予算は広告宣伝費1本で入力し、実績では明細科目で入力する場合の例です。広告宣伝費の集約レベルで予実比較が可能です。

<勘定科目階層の例>

- 広告宣伝費
  - 広告宣伝費-WEB広告
  - 広告宣伝費-パンフ・チラシ作成
  - 広告宣伝費-テレビ・ラジオ
  - 広告宣伝費-その他

「集約レベル数値編集を許す」にチェック

	予算シナリオ	実績シナリオ
広告宣伝費	10,000	11,320
・web広告		5,500
・パンフ・チラシ		3,200
・テレビ・ラジオ		2,600
・その他	10.000	

①集計メンバにデータ入力

②データ集計

①リーフメンバにデータ入力

②直下のメンバの一番下で調整

<シナリオ設定画面>

シナリオごとに以下の設定が可能です。

集約レベル数値編集
- [x] 集約レベル数値編集を許す
- [ ] 従属レベル数値の変更時、集約レベル数値を維持する

- 集約レベル数値編集を許す
  ON にすると、そのシナリオにおいては、集計メンバであってもデータ入力・編集が許されるようになります。
- 従属レベル数値の変更時、集約レベル数値を維持する
  ON にすると、下位レベル（従属レベル）の数値を修正しても、集約レベルの数値は影響を受けなくなります。修正額は「調整メンバ」にて吸収されます。

4.データ集計②（相対期間/表示形式/勘定科目）おさらい

以上で、表示形式と勘定科目ディメンションの研修は終了です。相対科目／表示形式や勘定科目ディメンションの積み上げの考え方についてご理解いただけたかと思います。

<table>
<tr><td colspan="12">年度</td></tr>
<tr><td colspan="6">上期</td><td colspan="6">下期</td></tr>
<tr><td colspan="3">第1四半期</td><td colspan="3">第2四半期</td><td colspan="3">第3四半期</td><td colspan="3">第4四半期</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td colspan="12">2月・期別</td></tr>
<tr><td colspan="10"></td><td colspan="2">2月・四半期累計</td></tr>
<tr><td colspan="6"></td><td colspan="6">2月・半期累計</td></tr>
<tr><td colspan="12">2月・年度累計</td></tr>
</table>

勘定科目ディメンション

	貸借区分
営業利益	貸方
売上総利益	貸方
売上高	貸方
売上原価	借方
販管費	借方

5. データ入出力②（Excel-Link）

5-1.Excel-Link概要

5-2.リンク機能(データ取得)

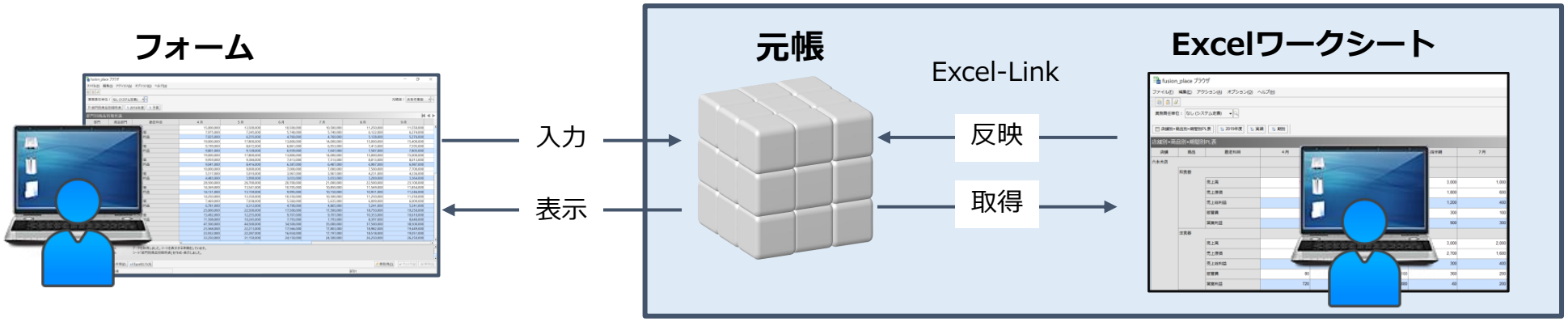
5-3.リンク機能(データ反映)

5.データ入出力②（Excel-Link）
5-1.Excel-Link概要

fusion_placeのもうひとつのデータ入出力機能であるExcel-Linkについて説明します。

■ Excel-Link

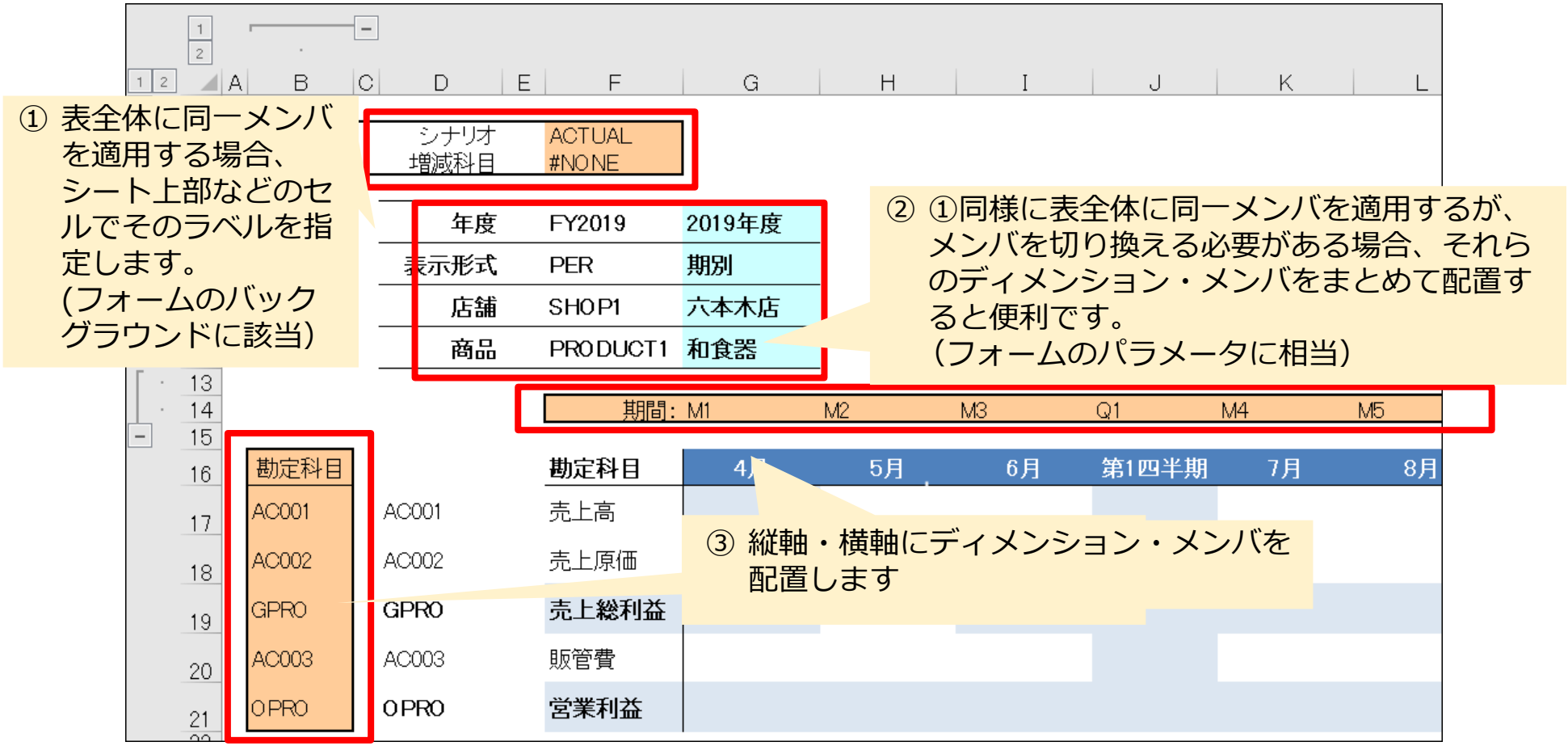
Microsoft Excel から fusion_place のデータにアクセスするためのツールです。
現在お使いのExcelワークシートを、そのまま入出力画面として利用することもできます。



5.データ入出力②（Excel-Link）
5-2.リンク機能(データ取得)

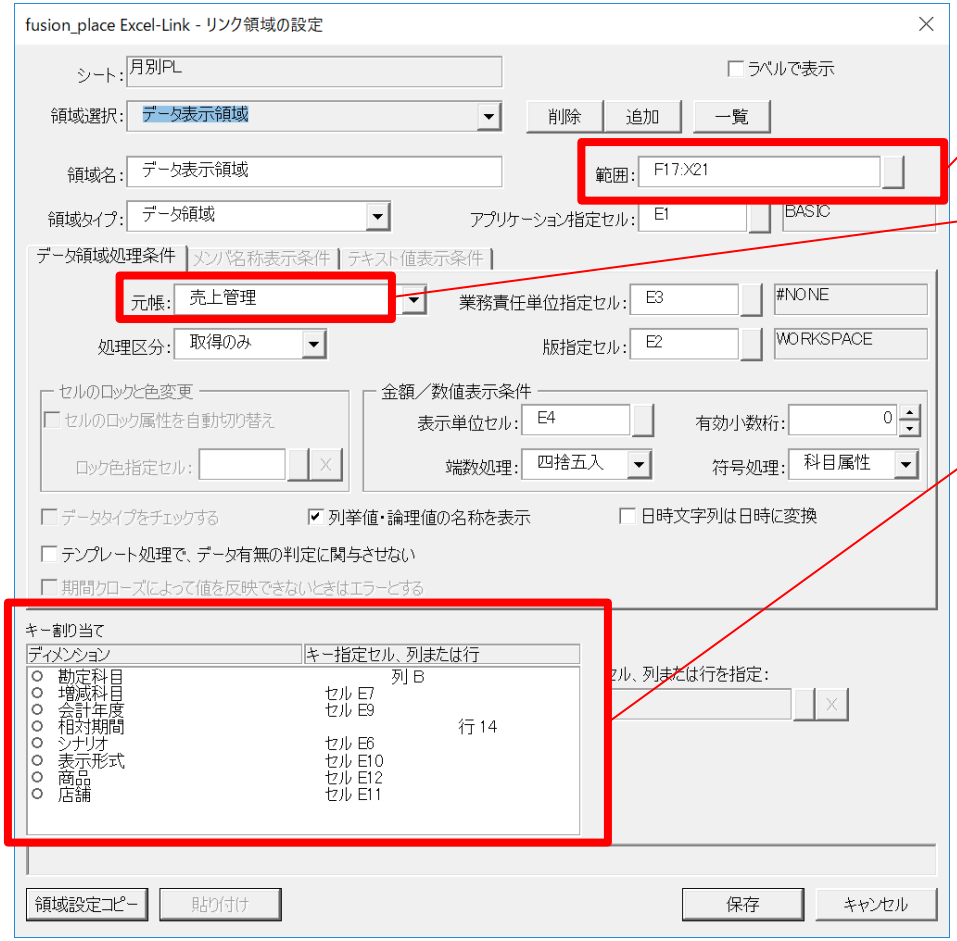
Excel-Linkでも、フォームと同様、ディメンションを縦軸・横軸他に配置することで、元帳データを入出力するレイアウトを作成します。

以下は、フォーム「FORM1：期間別PL表」を、Excel-Linkで実現する場合の設定内容です。



5.データ入出力②（Excel-Link）
5-2.リンク機能(データ取得)

fusion_place とExcelに配置したディメンション・メンバを紐づけるために設定が必要です。
「リンク領域設定」を使用します。



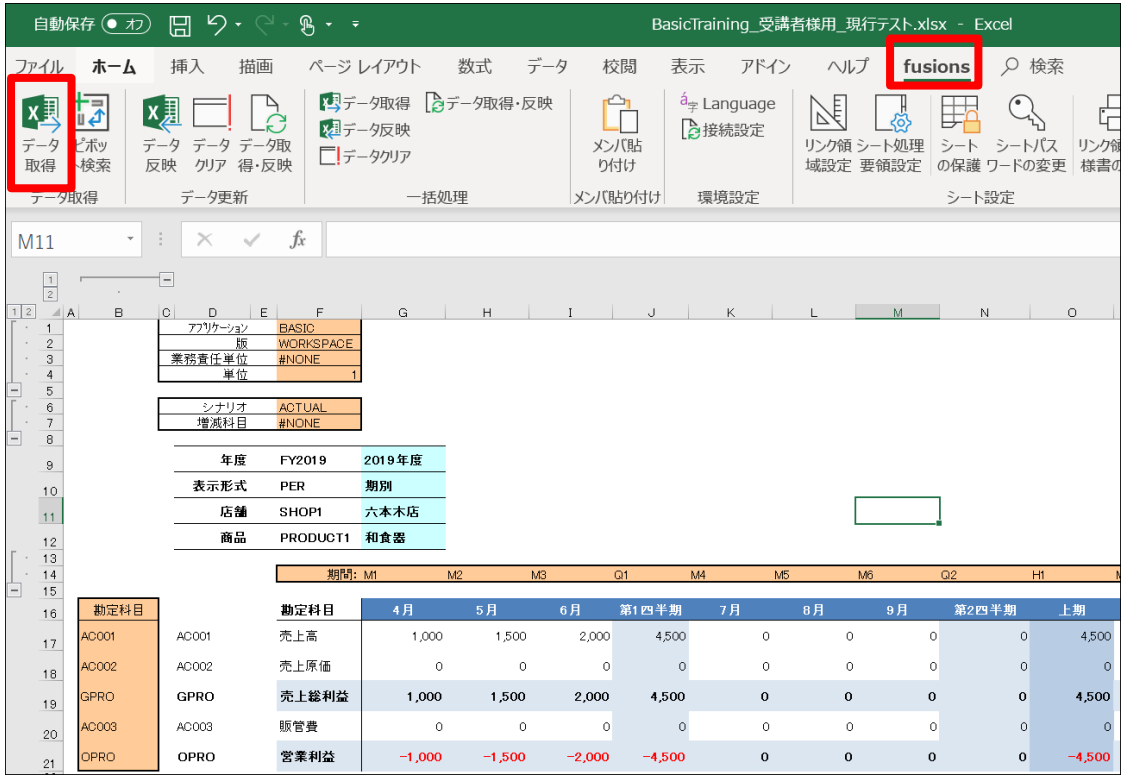
1 **ワークシート上でデータ入出力を行う表の範囲を指定します。**

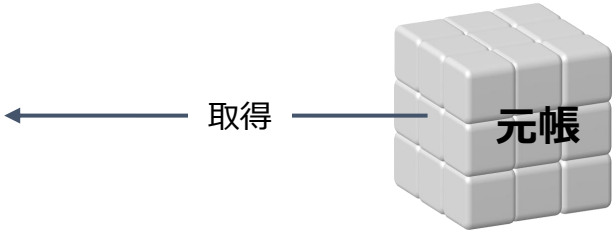
2 **データ入出力を行うfusion_placeの元帳を指定します。**

3 **元帳のディメンション・メンバが配置されているワークシートの範囲を指定します。**

5.データ入出力②（Excel-Link）
5-2.リンク機能(データ取得)

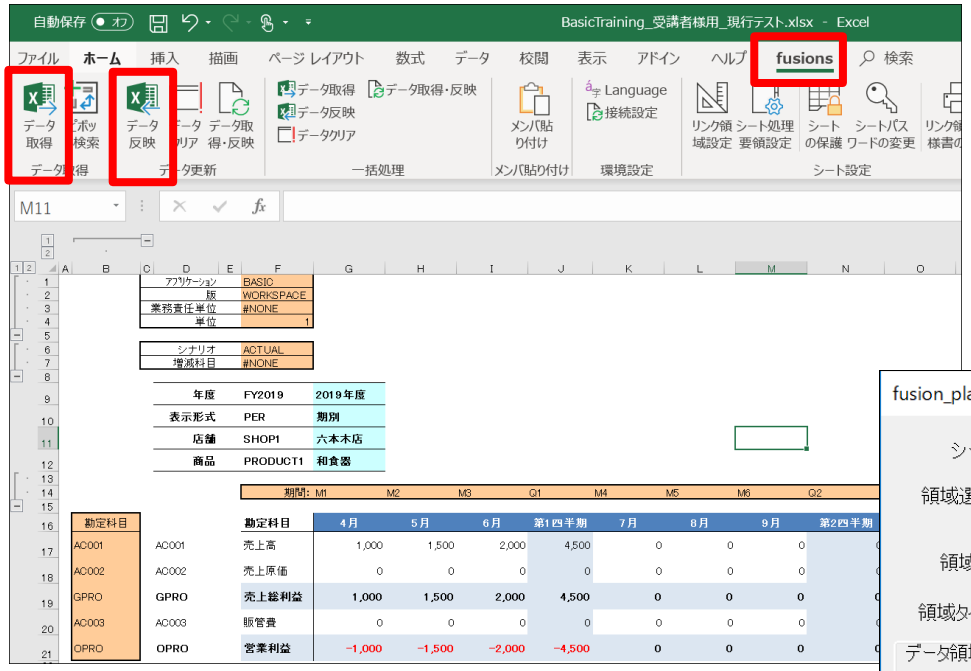
リンク領域を設定した上で、fusionsメニュー⇒データ取得をクリックすると、設定内容に基づいて、元帳からデータを取得し、「リンク領域」で設定した「範囲」に表示します。

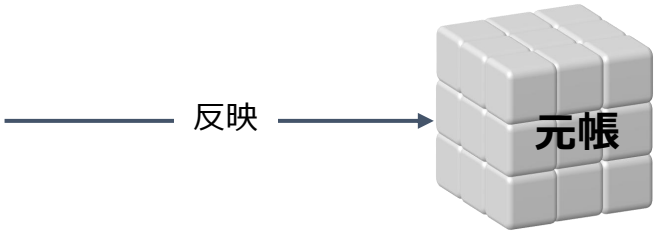




5.データ入出力②（Excel-Link）
5-3.リンク機能(データ反映)

リンク機能では元帳へデータを入力することもできます。
「リンク領域の設定」画面の中にある処理区分を「取得と反映」もしくは「反映のみ」にすることで、「範囲」の表に入力したデータを元帳に転送できます。





5.データ入出力②（Excel-Link）
デモ

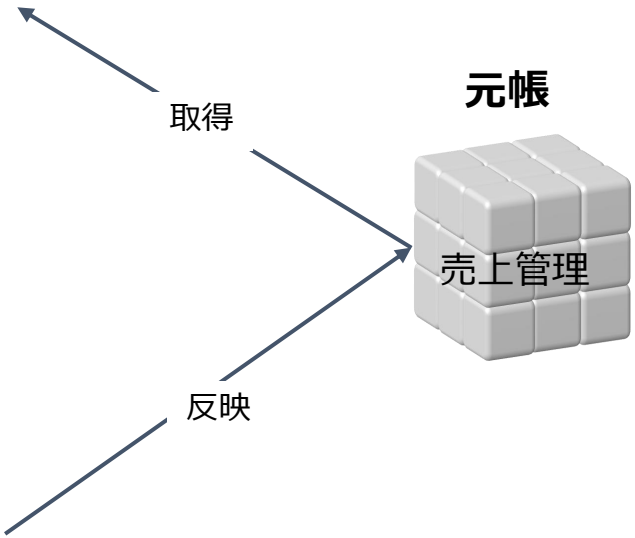
リンク機能を使ったデータの入出力について実機で確認しましょう。

【データ取得】

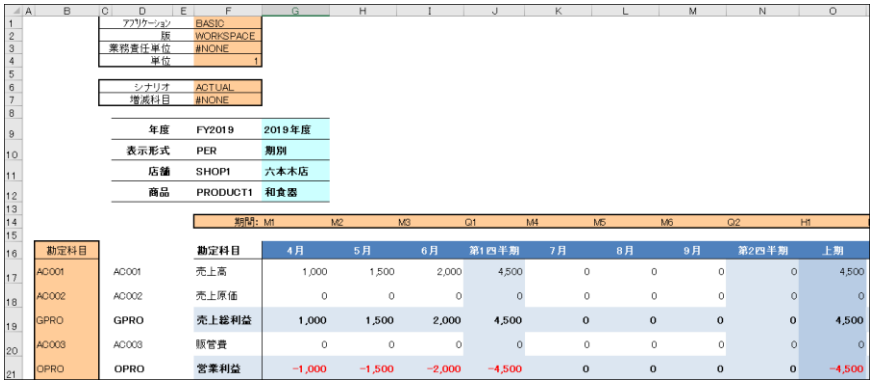
アプリケーション	BASIC
版	WORKSPACE
業務責任単位	#NONE
単位	1
シナリオ	ACTUAL
増減科目	#NONE
年度	FY2019 2019年度
表示形式	PER 期別
店舗	SHOP1 六本木店
商品	PRODUCT1 和食器

期間: M1 M2 M3 Q1 M4 M5 M6 Q2 H1

勘定科目		勘定科目	4月	5月	6月	第1四半期	7月	8月	9月	第2四半期	上期
AC001	AC001	売上高									
AC002	AC002	売上原価									
GPRO	GPRO	売上総利益									
AC003	AC003	販管費									
OPRO	OPRO	営業利益									



【データ反映】



アプリケーション	BASIC
版	WORKSPACE
業務責任単位	#NONE
単位	1
シナリオ	ACTUAL
増減科目	#NONE
年度	FY2019 2019年度
表示形式	PER 期別
店舗	SHOP1 六本木店
商品	PRODUCT1 和食器

期間: M1 M2 M3 Q1 M4 M5 M6 Q2 H1

勘定科目		勘定科目	4月	5月	6月	第1四半期	7月	8月	9月	第2四半期	上期
AC001	AC001	売上高	1,000	1,500	2,000	4,500	0	0	0	0	4,500
AC002	AC002	売上原価	0	0	0	0	0	0	0	0	0
GPRO	GPRO	売上総利益	1,000	1,500	2,000	4,500	0	0	0	0	4,500
AC003	AC003	販管費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
OPRO	OPRO	営業利益	-1,000	-1,500	-2,000	-4,500	0	0	0	0	-4,500

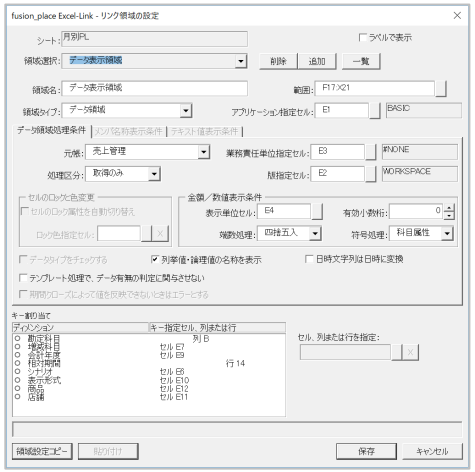
演習5.データ入出力②（Excel-Link）

⓪演習の全体像
①リンク領域の設定
②データの取得
③データの反映
④データの取得（複雑なレポートの確認）

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⓪演習の全体像

リンク領域の設定方法、データの入出力を確認することで、Excel-Linkの使い方を習得します。

1 リンク領域の設定



「月別PL」シート

2 データの取得

「月別PL」シート

3 データの反映(繰り返し登録)

元帳

4 データの取得(複雑なレポートの確認)

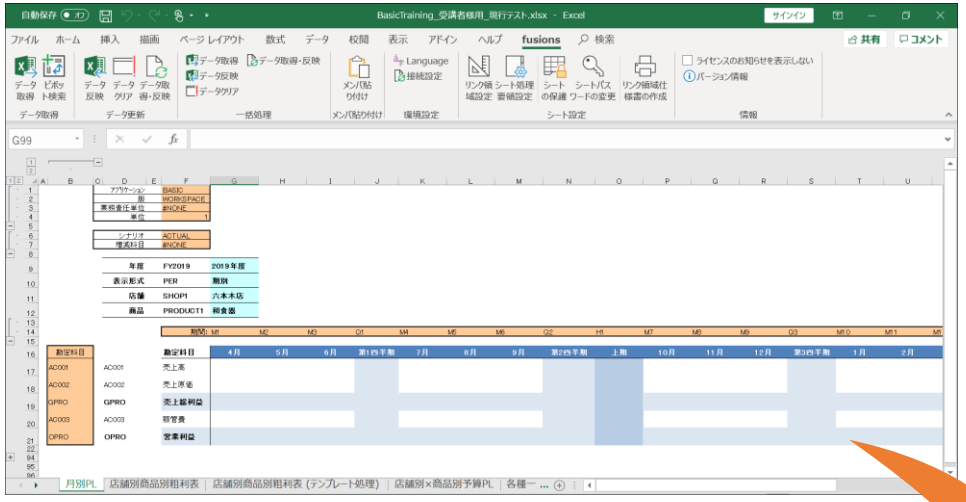
5 テンプレート処理

「店舗別商品別粗利表」シート

「店舗別商品別粗利表（テンプレート処理）」シート

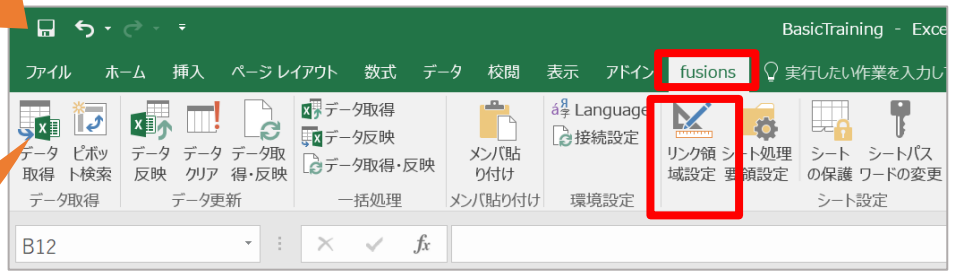
演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定

予めレイアウトが準備されているExcelブックを利用して、「リンク領域の設定」の演習をします。

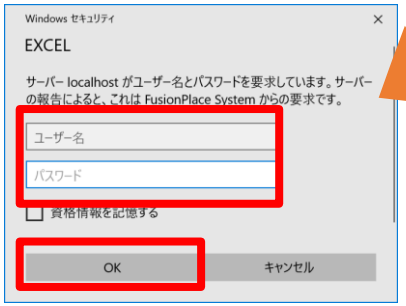


1. [BasicTraining_受講者様用.xlsx]のファイルを開き、[月別PL]シートを表示します

2. 非表示セルを、すべて、再表示してください（＋マークをクリック）。セル「E1」のアプリケーションラベルを、ご利用中のアプリケーションのラベル「BASICn」等に直して下さい。



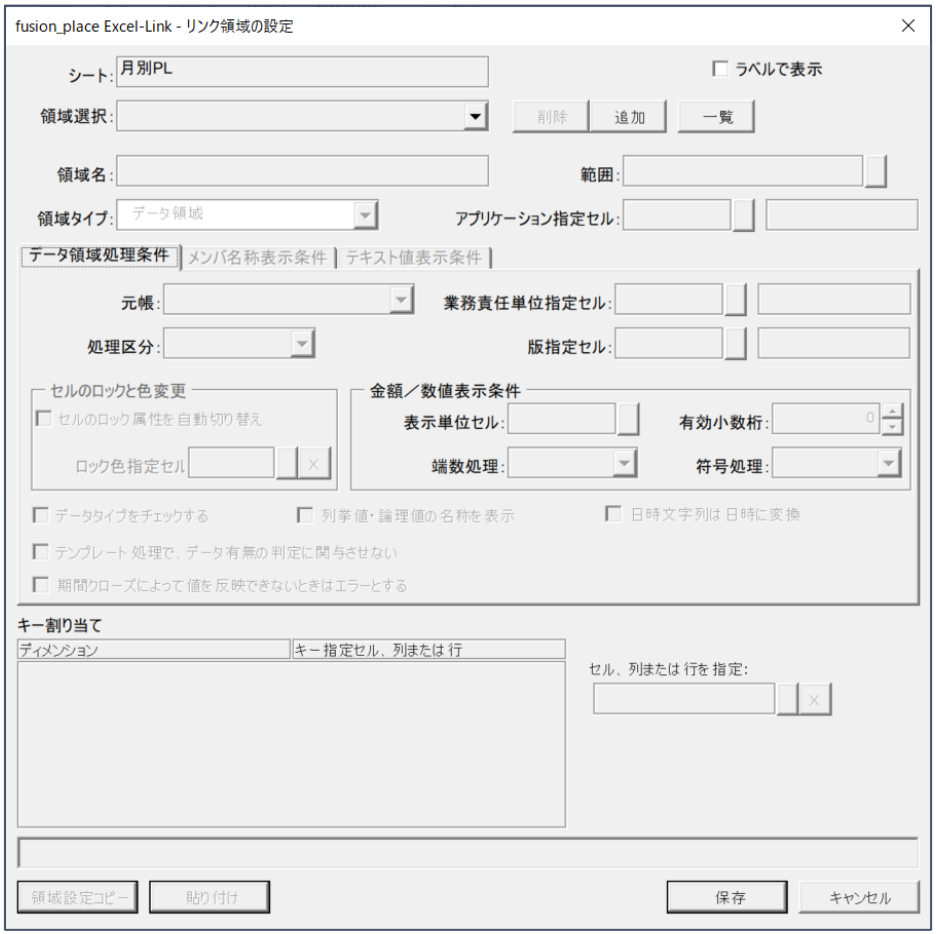
3. fusionsメニューから[リンク領域設定]をクリックします。



4.ユーザ名、パスワードを入力し「OK」ボタンをクリックします。

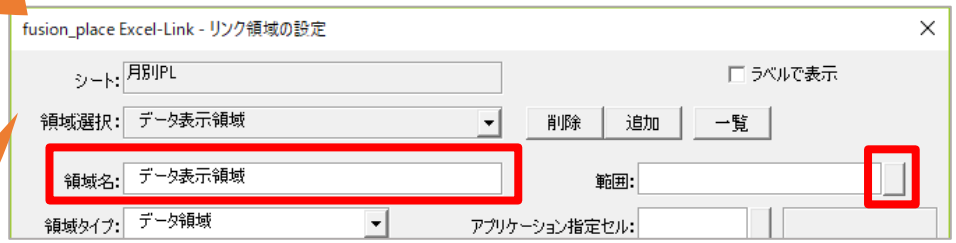
演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定

（続き）「リンク領域の設定」画面にて設定を行うことにより、Excelシートにデータを取得できます。次頁以降の作業手順に従い、設定してみましょう。

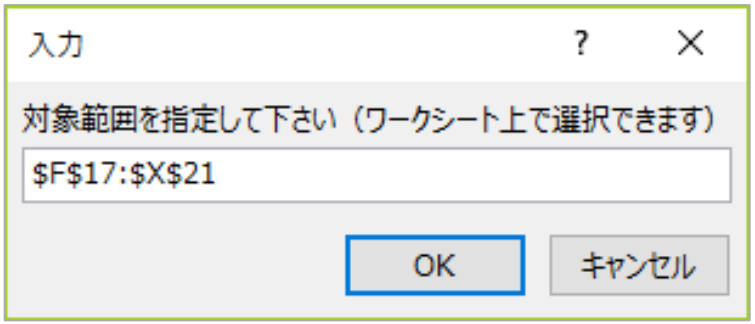


演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定

5. 「追加」ボタンをクリックしてリンク領域を追加します。



6.領域名欄に「Region 1」と初期表示されますが、「データ表示領域」と上書き入力します。



7.追加した「データ表示領域」の対象範囲を指定します。「範囲」欄の右にあるボタンをクリックします。

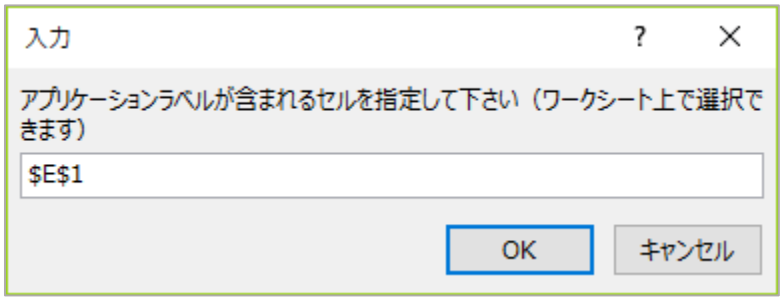
Excelワークシート上で、範囲F17:X21を指定します。(「入力」欄に、直接 「F17:X21」と入力することも可能)。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定

8.領域タイプは、「データ領域」のままとします。

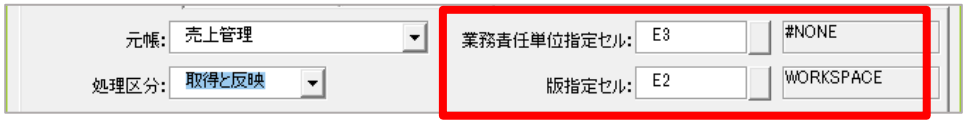
9.アプリケーション指定セルは、セル「E1」を指定します。

指定欄の右端にあるボタンをクリックすると、セル指定のための画面が表示されます。その画面を表示した状態でセル「E1」をクリックするか、あるいは、入力欄に直接「 E1」 と入力します。



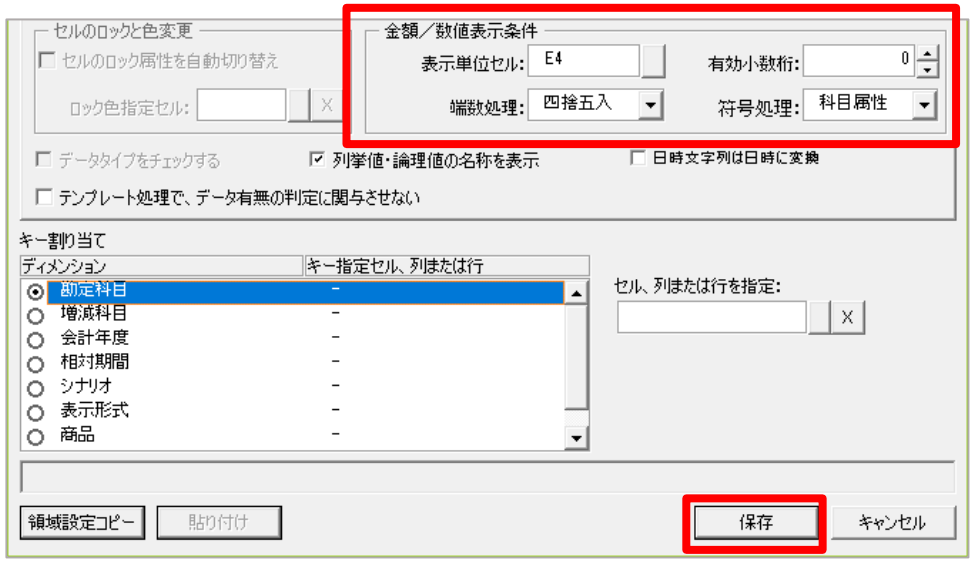
10. 元帳は「売上管理」、処理区分は「取得のみ」を選択します。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定



11.業務責任単位指定セルにはセル「E3」を、版指定セルにはセル「E2」を指定します。（セル指定の要領はアプリケーション指定セルと同じです。）

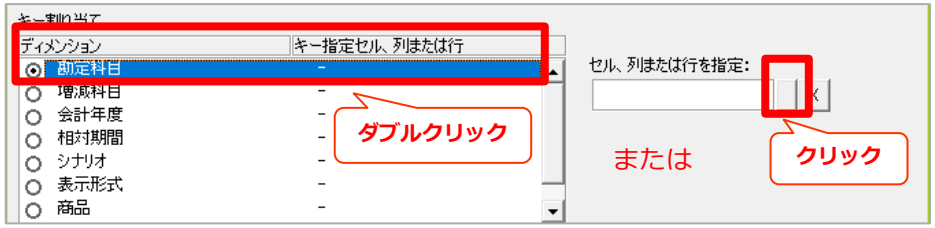
12.表示単位指定セルに、セル「 E4」 を指定します。（セル指定の要領はアプリケーション指定セルと同じです。）
金額/数値表示条件の他の項目は、初期提案値のままにします。



13.ここで、いったん「保存」ボタンをクリックします。

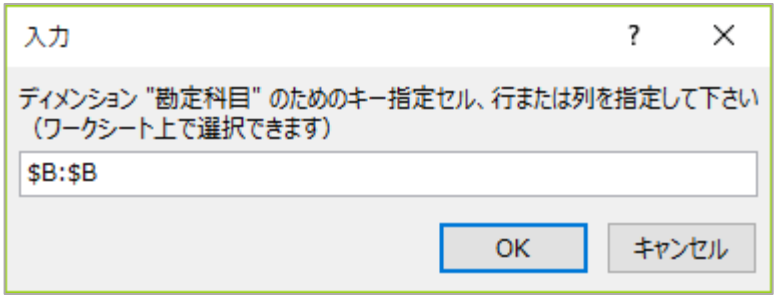
リンク領域設定画面がいったん閉じられますので、 再度、fusionsメニューから[リンク領域設定]をクリックし、設定画面を開きます。
設定した内容は、中途でも、このように保存できます。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定

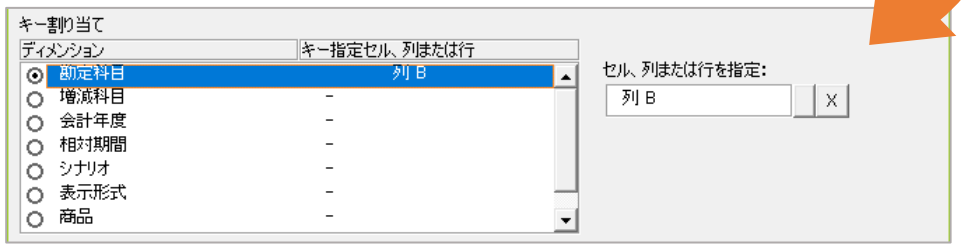


14.続いて、キー割り当てをします。

左の一覧で各ディメンションの行をダブルクリックするか、あるいは、左の一覧で行を選択（反転表示）した上で、「セル、列または行を指定」欄のすぐ右のボタン（無印のボタン）をクリックします。



15. Excelワークシート上のB列の一番上の列記号欄”B”をクリックすると、B列全体が選択されます。

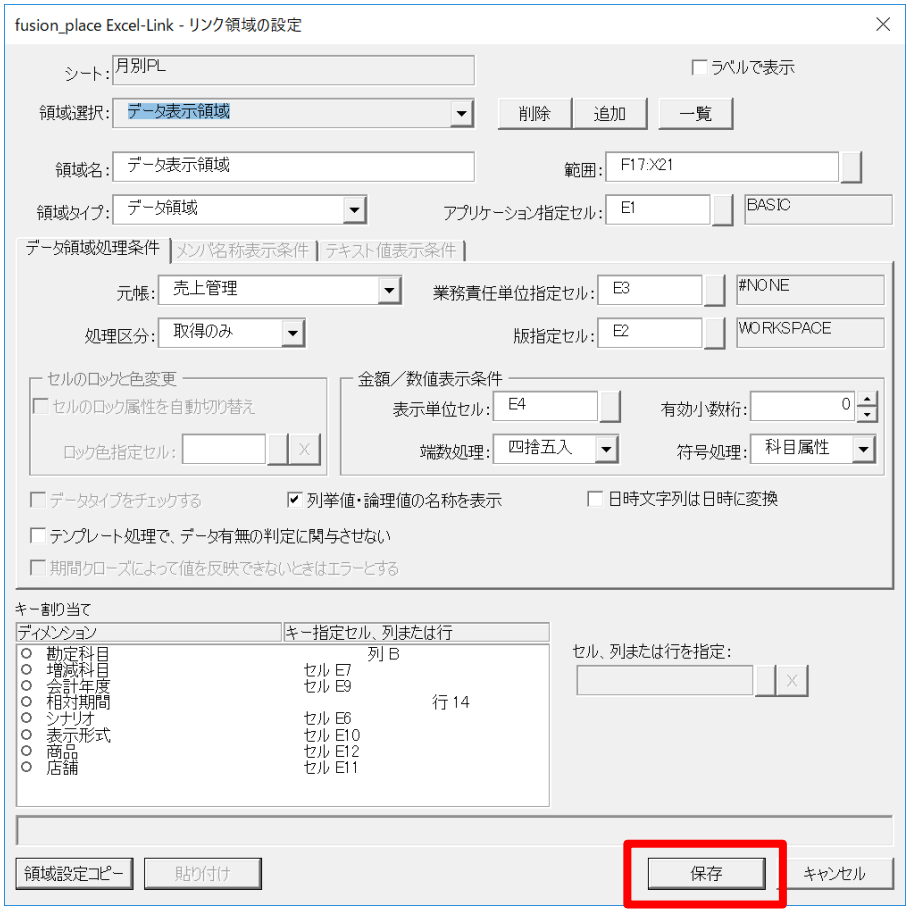


16.勘定科目ディメンションの列が指定されます。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
①リンク領域の設定

ディメンション	キー指定セル、列または行
勘定科目	列B
増減科目	セル　E7
会計年度	セル　E9
相対期間	行14
シナリオ	セルE6
表示形式	セルE10
商品	セルE12
店舗	セルE11

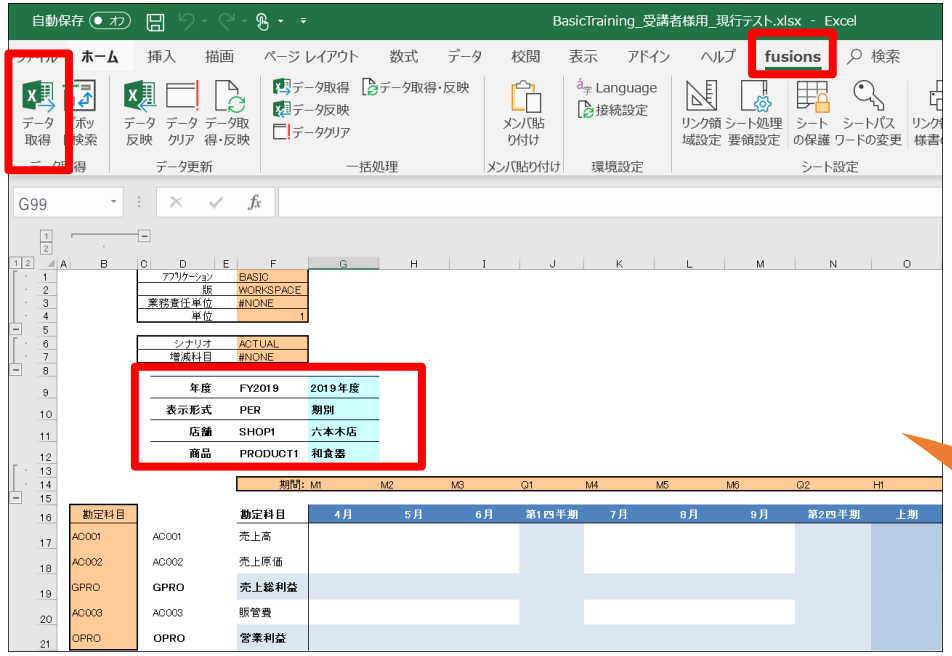
17.同様にして他のディメンションの単一セル、列または行を 指定します。



18.「保存」ボタンをクリックします。

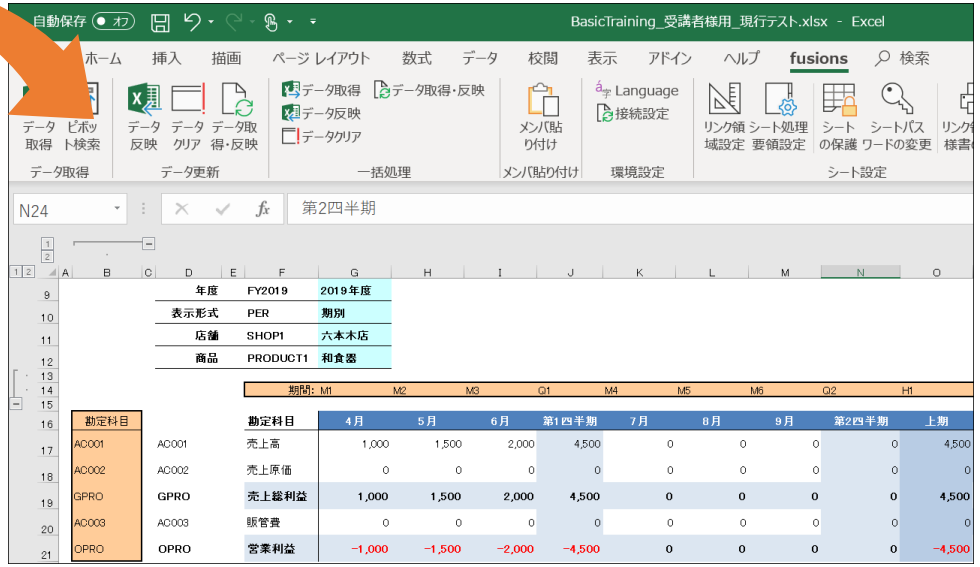
演習5.データ入出力②（Excel-Link）
②データの取得

データの取得をしましょう。



1. 年度、表示形式、店舗、商品を以下の通り選択し、fusionsメニューから「データ取得」をクリックします。

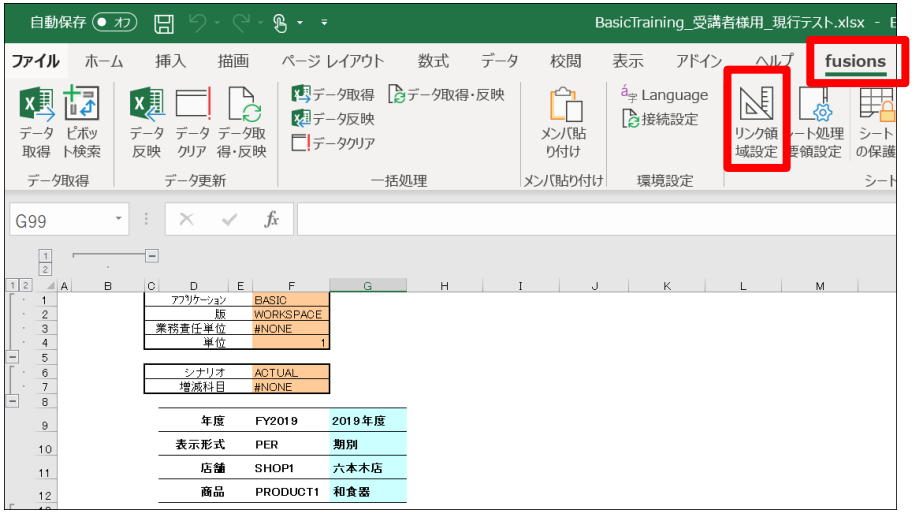
年度 FY2019	2019年度
表示形式 PER	期別
店舗 SHOP1	六本木店
商品 PRODUCT1	和食器



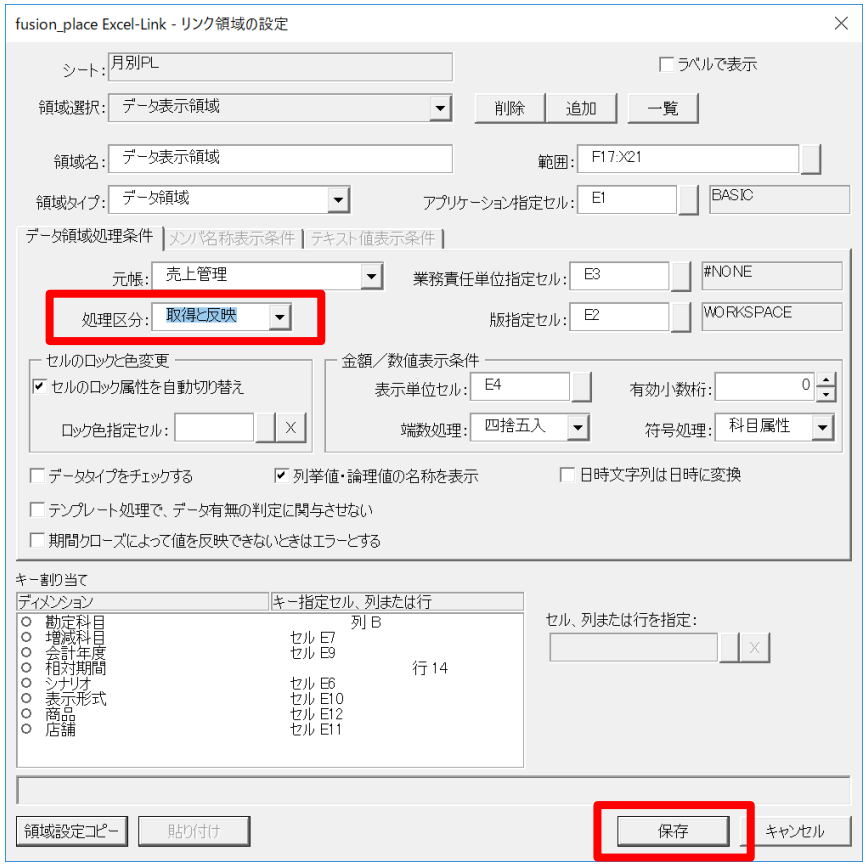
2. Excelワークシートにデータが取得されたことを確認します。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
③データの反映

次に同じシートを利用して、データの反映をしてみましょう。

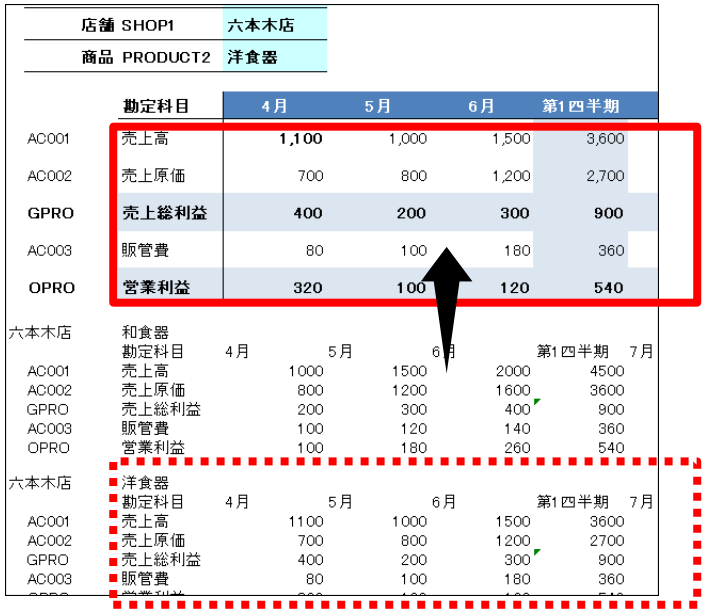


1. fusionsメニューから「リンク領域設定」をクリックします。



2. 「処理区分」を、「取得と反映」に変更し、「保存」ボタンをクリックします。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
③データの反映



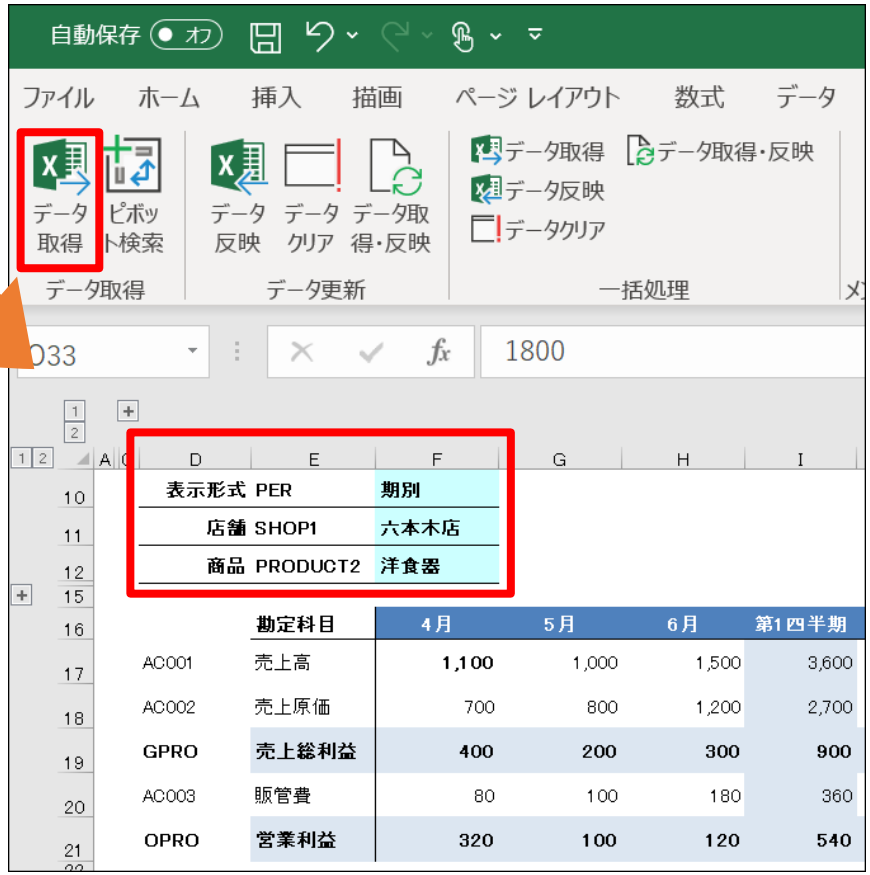
店舗 SHOP1	六本木店
商品 PRODUCT2	洋食器

	勘定科目	4月	5月	6月	第1四半期
AC001	売上高	1,100	1,000	1,500	3,600
AC002	売上原価	700	800	1,200	2,700
GPRO	売上総利益	400	200	300	900
AC003	販管費	80	100	180	360
OPRO	営業利益	320	100	120	540

	和食器					
	勘定科目	4月	5月	6月	第1四半期	7月
AC001	売上高	1000	1500	2000	4500	
AC002	売上原価	800	1200	1600	3600	
GPRO	売上総利益	200	300	400	900	
AC003	販管費	100	120	140	360	
OPRO	営業利益	100	180	260	540	

六本木店	洋食器					
	勘定科目	4月	5月	6月	第1四半期	7月
AC001	売上高	1100	1000	1500	3600	
AC002	売上原価	700	800	1200	2700	
GPRO	売上総利益	400	200	300	900	
AC003	販管費	80	100	180	360	

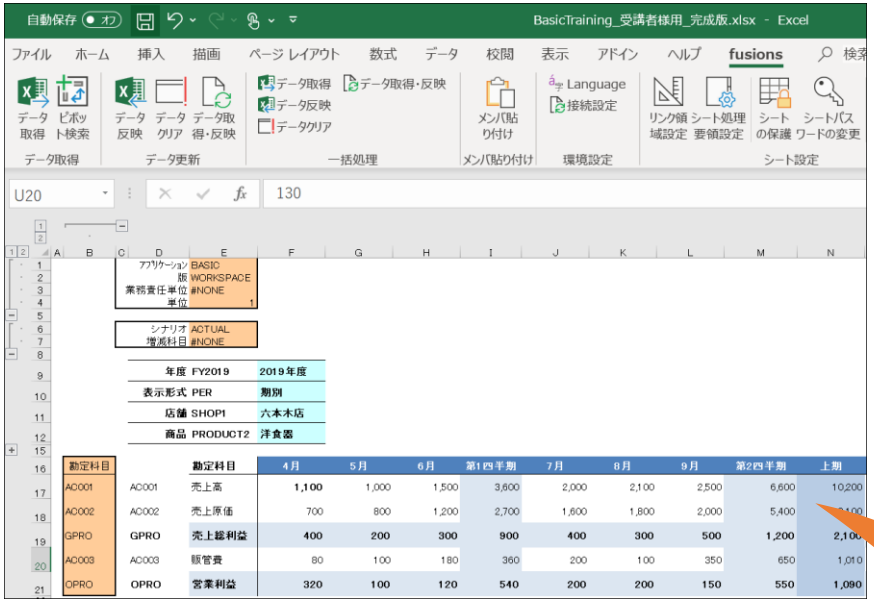
1. 23行目以降に店舗別商品別の登録用データを準備しています。まずは、六本木店　洋食器のデータ（F33:X37）を、「F17:X21」に貼り付けます（値のみ貼り付け）。



2. 年度、表示形式、店舗、商品を、下表の通り選択し、fusionsメニューから「データ反映」をクリックします。

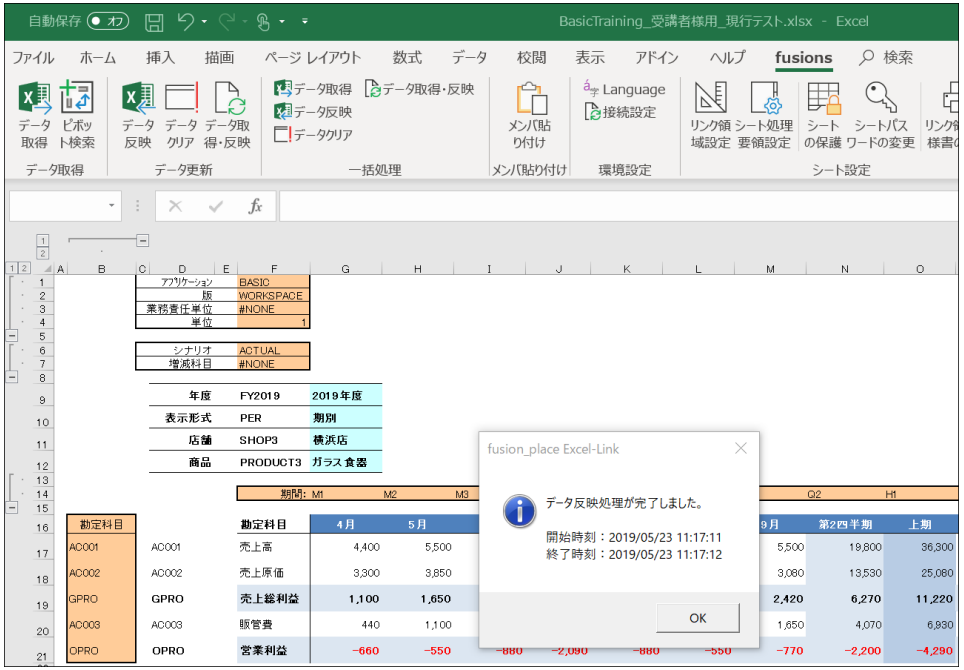
年度 FY2019	2019年度
表示形式 PER	期別
店舗 SHOP1	六本木店
商品 PRODUCT2	洋食器

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
③データの反映



3. データ反映処理が完了したことを確認します。

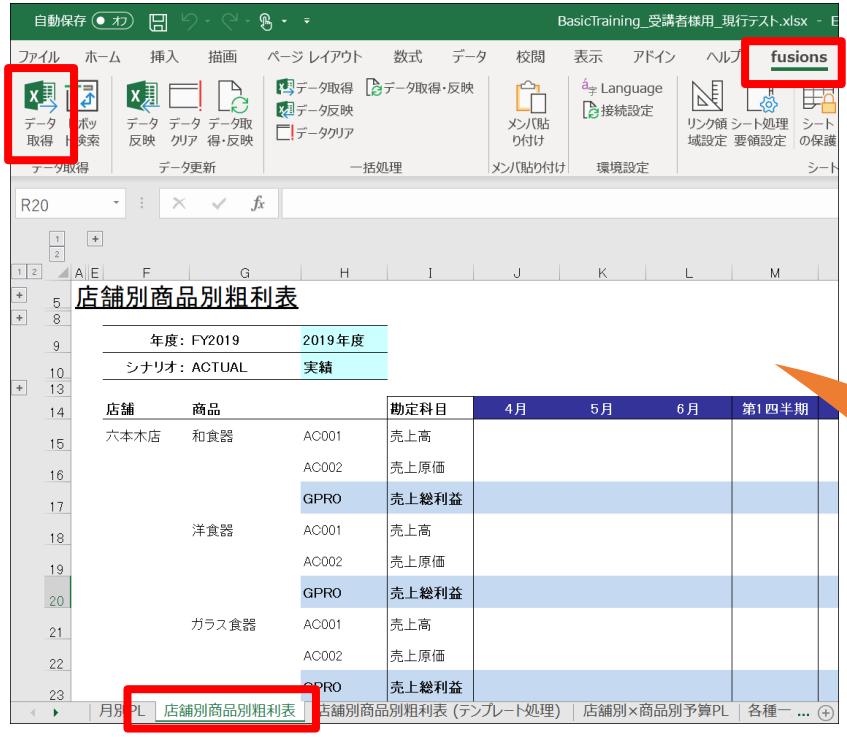
4. 他の店舗、商品について1-3の手順を繰り返し、登録してください。

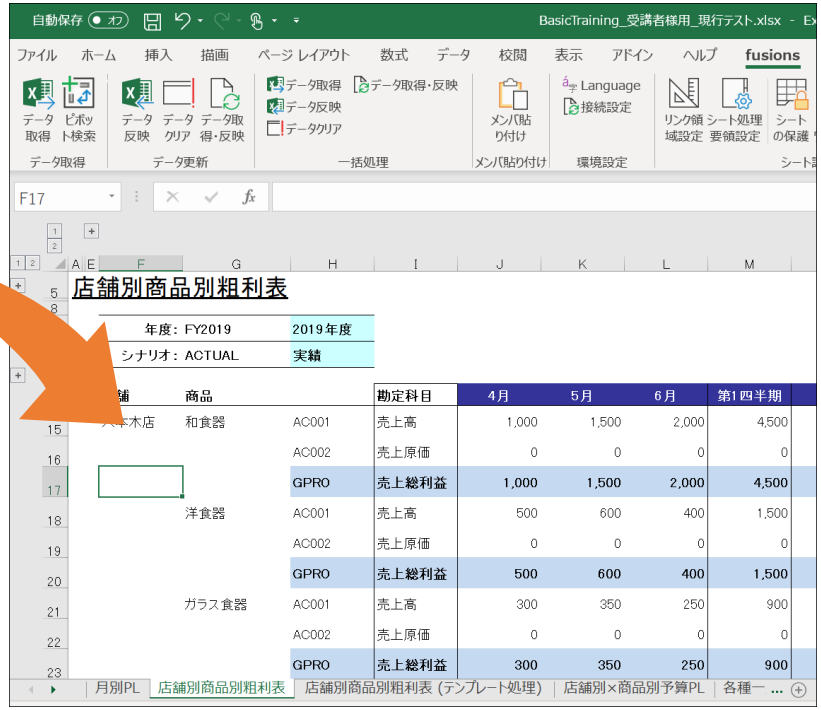


演習5.データ入出力②（Excel-Link）
④データの取得(複雑なレポートの確認)

前頁までの作業で、すべての店舗、商品のデータが入力されました。 [店舗別商品別粗利表]シートにうつり、当シートでも、「データ取得」を行い、データが表示されることを確認してください。

（Excel-Linkでは、フォームと異なり、ディメンション・メンバの配置の自由度が高いので、より表現力の高いレポートを作成できます。また、「リンク領域」を複数設定できるので、一つのワークシートに複数の表の設定もできます。）





5.データ入出力②（Excel-Link）

5-4.テンプレート処理

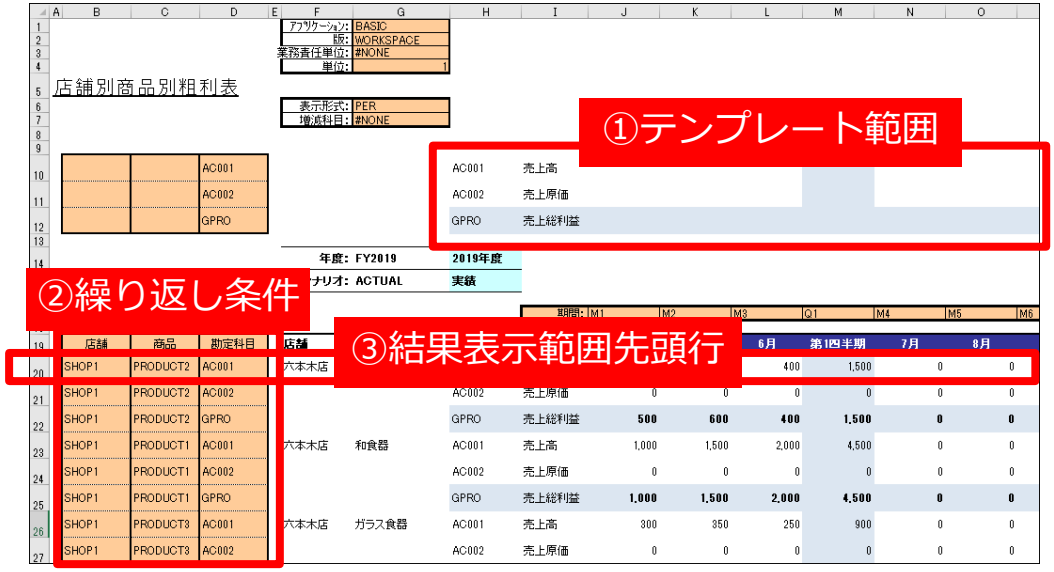
演習⑤テンプレート処理

5.データ入出力②（Excel-Link）
5-4.テンプレート処理

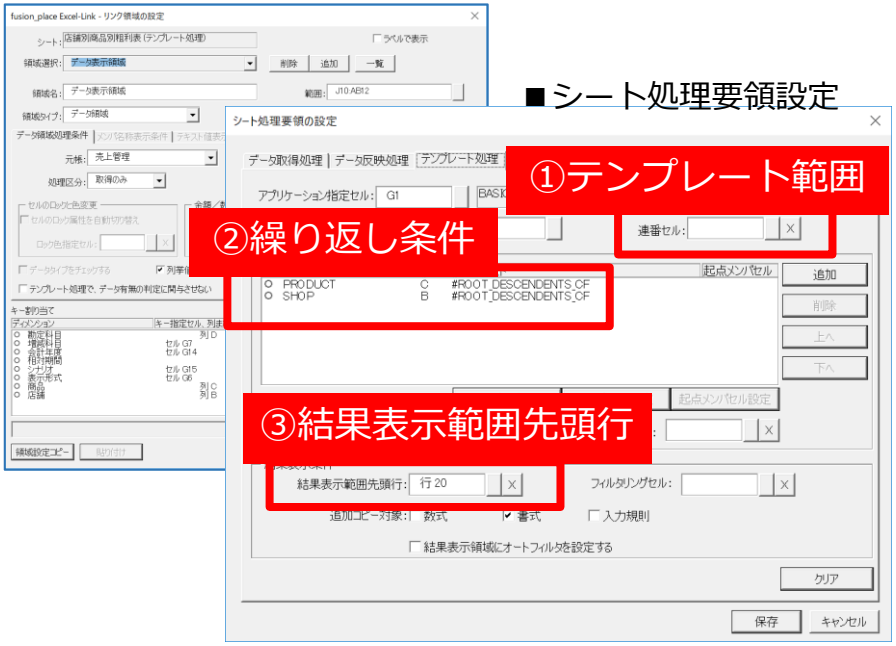
テンプレート処理は、ディメンションの登録内容をもとに複数のメンバについて、データ取得または反映処理を繰り返し、結果を表示します。メンバを一つ一つExcelに設定しないため、ディメンションの構造が変更されても、Excelのメンテナンスが不要になります。

下図の通り、「シート処理要領設定」画面で、「テンプレート範囲」および「繰り返し条件」を設定し、ひとつまたは複数の「リンク領域」を設定します。「テンプレート範囲」に含まれる各セルの式で構成された計算モデルを、「繰り返し条件」で指定された複数のメンバの組について実行します。

■Excelワークブック



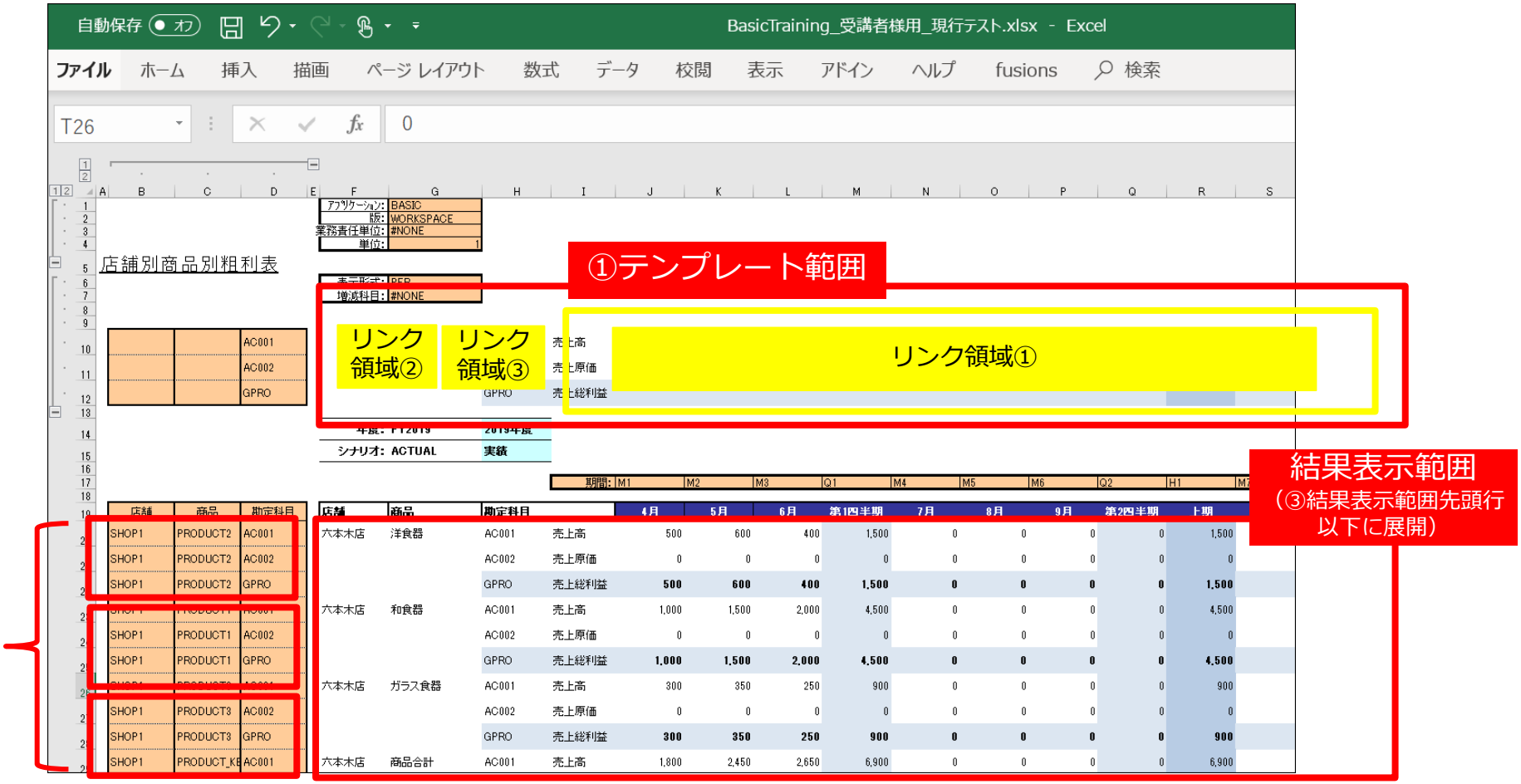
■リンク領域（設定方法は前項と同様）



■シート処理要領設定

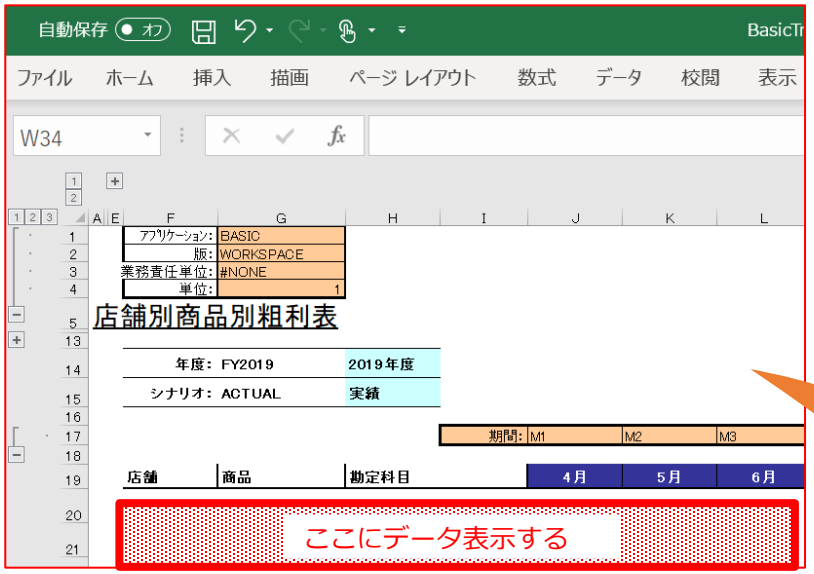
5.データ入出力②（Excel-Link）
5-4.テンプレート処理

「リンク領域①～③」を含む 「①テンプレート範囲」を指定します。リンク領域で指定されたデータ取得／反映処理が、「②繰り返し条件」で指定したメンバリストのメンバ（繰り返し行キー）に対して繰り返し実行され、結果が、「③結果表示範囲先頭行」以下に表示されます。



演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⑤テンプレート処理

「テンプレート処理」機能を使用して、「店舗別商品別粗利表」シートと同内容のシート作成してみましょう。

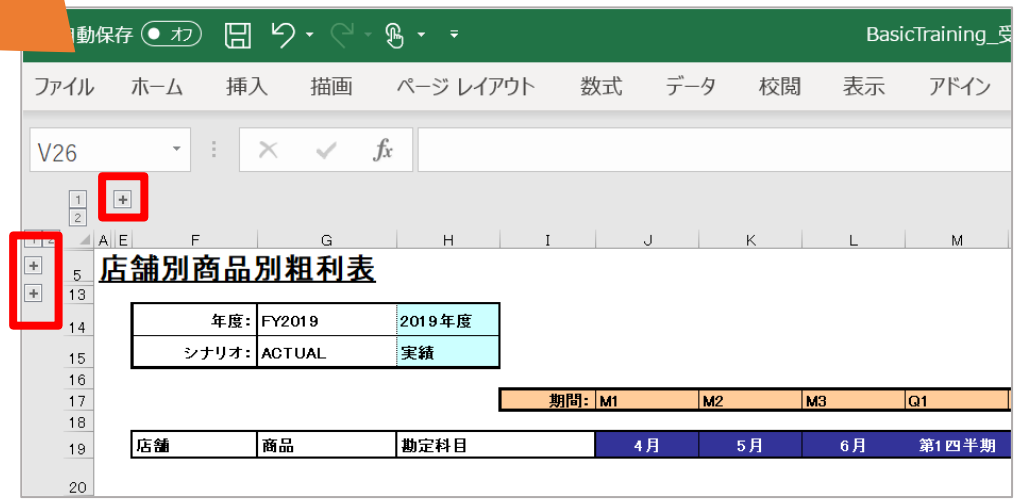


1. [BasicTraining_受講者用.xlsx]のファイルを開き、[店舗別商品別粗利表 (テンプレート処理)]シートを表示します。

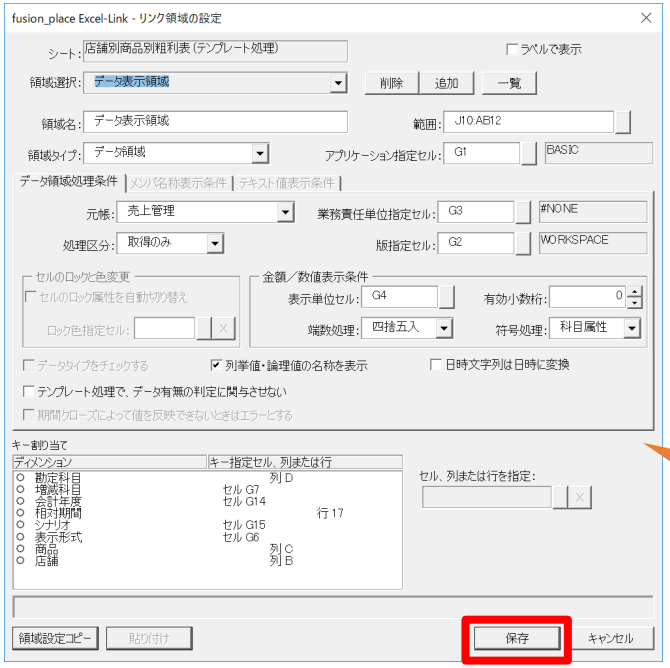
   このシートは、「店舗別商品別粗利表」シートと同じレイアウトで、「リンク領域」は設定済みです。本演習で、「テンプレート処理」の設定を追加して、20行目以降に、データが表示されるようにしてみましょう。

2. 「＋」マークをクリックし、非表示の行および列を表示します。

   「リンク領域」および「テンプレート処理」の設定に必要なセルが表示されます。



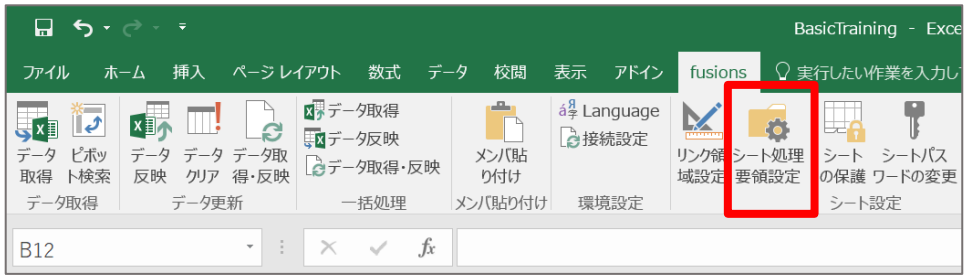
演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⑤テンプレート処理



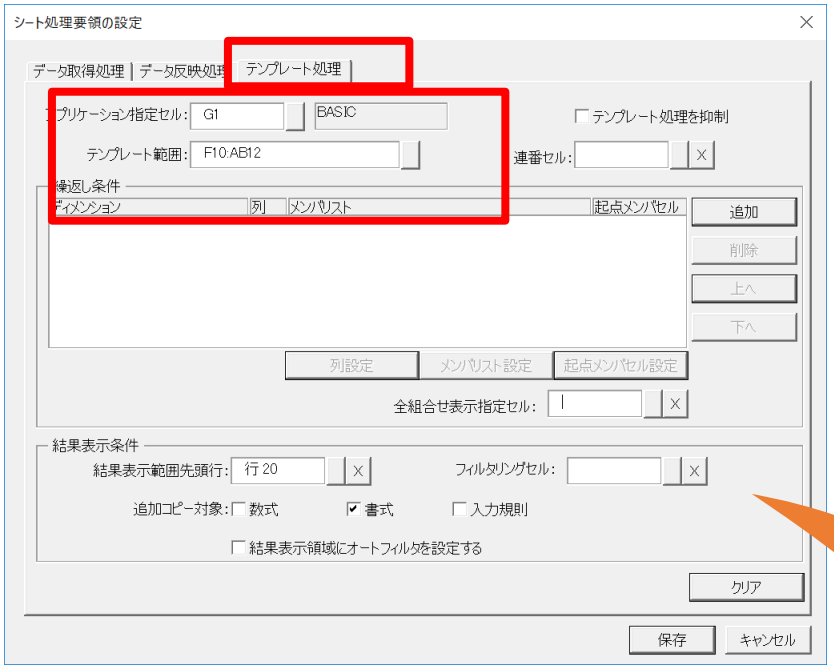
3. あらかじめ設定してある「リンク領域」を確認します。
   メニュー「fusions」→「リンク領域設定」を選択し、設定内容を確認します。
   （この設定方法は、前演習と同様です。）

4. 「キャンセル」ボタンをクリックし、画面を閉じます。

5. 「テンプレート処理」の設定を行います。
   メニュー「fusions」→「シート処理要領設定」を選択します。

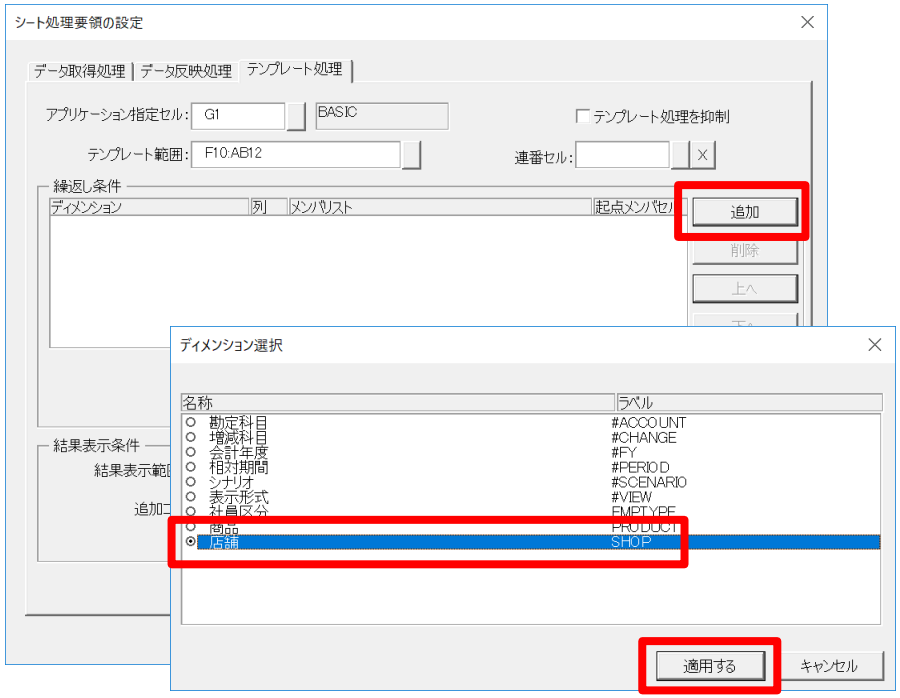


演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⑤テンプレート処理



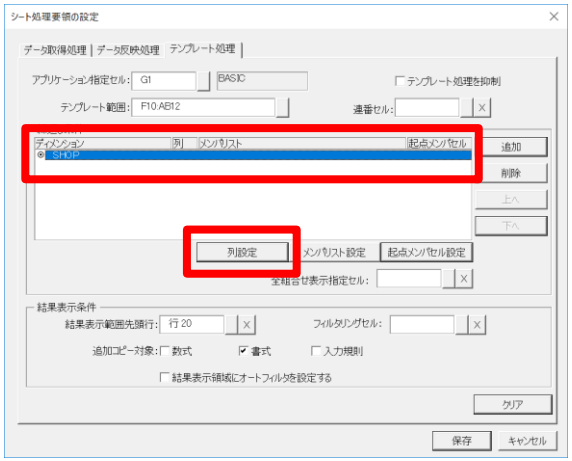
6.「テンプレート処理」タブを選択し、以下のとおり設定されていることを確認します。

アプリケーション指定セル　：G1
テンプレート範囲　　：F10：AB12



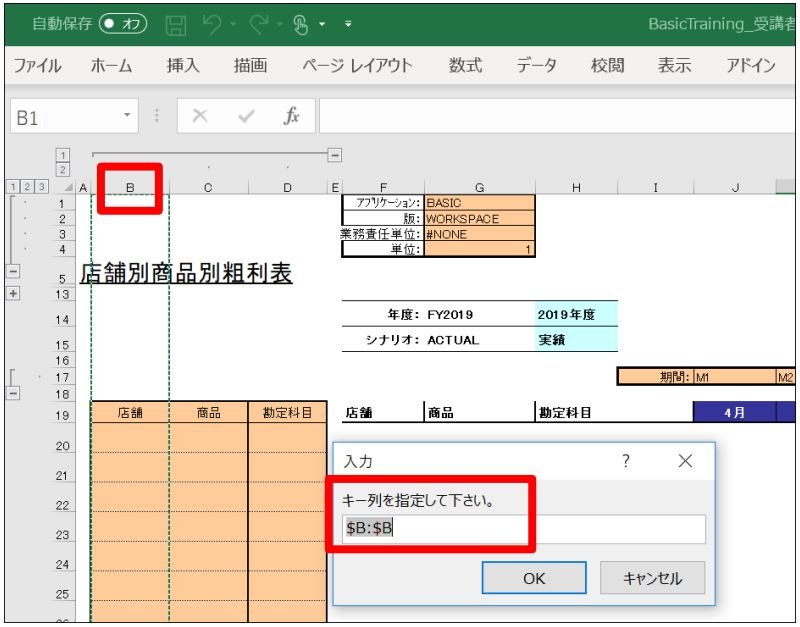
7.「繰返し条件」欄で、「追加」ボタンをクリックします。「ディメンション選択」画面で、「店舗：SHOP」を選択します。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⑤テンプレート処理

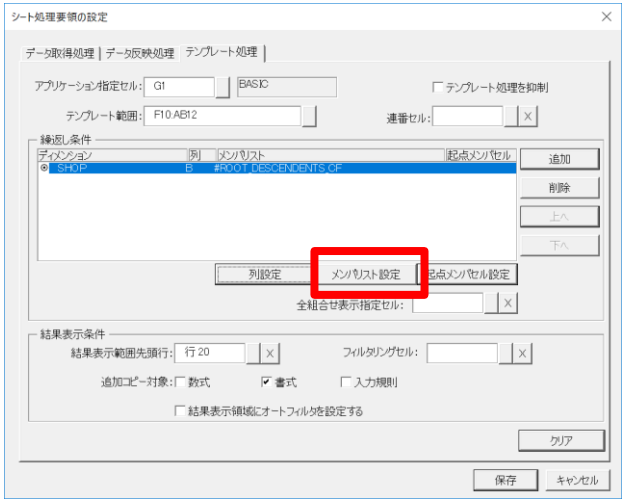


8.「SHOP」行が挿入されます。

9.「SHOP」行を選択し、「列設定」ボタンをクリックします。

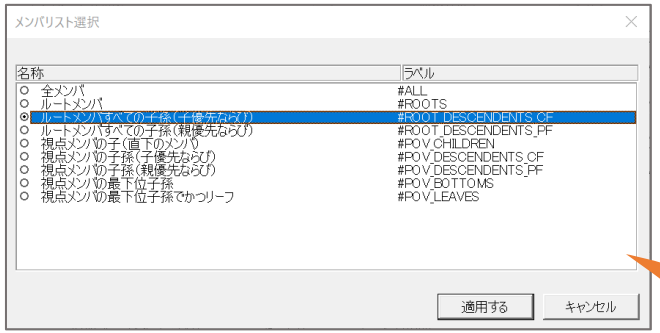


10.「入力」画面が表示されます。「B列」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



11.「シート処理要領」画面で、「メンバリスト設定」ボタンをクリックします。

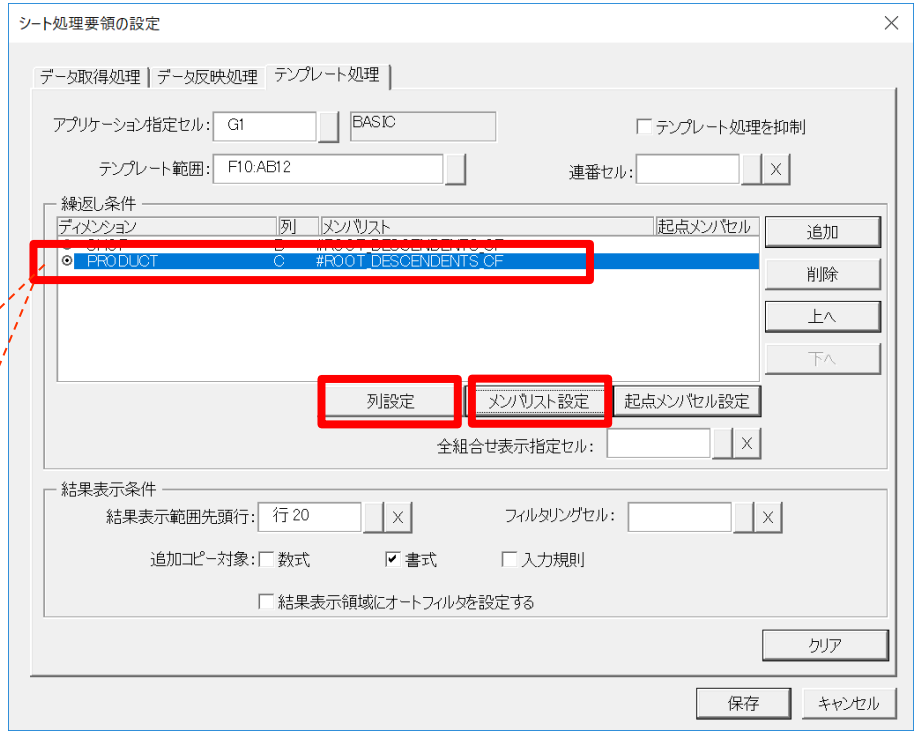
演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⑤テンプレート処理



12.「メンバリスト選択」画面で、「ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）」を選択し、「適用」ボタンをクリックします。

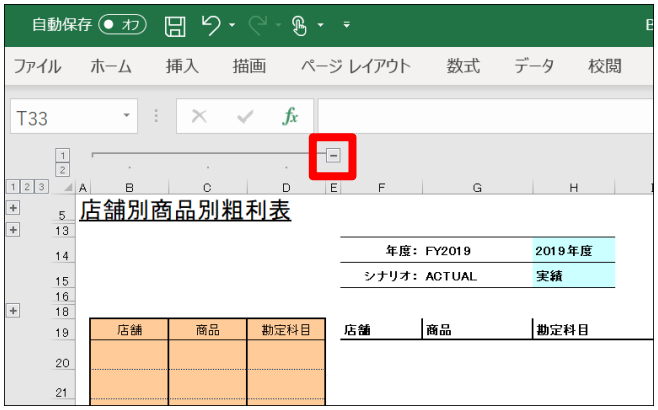
13. 同様の手順で、以下のとおり設定します。
- ディメンション：商品（PRODUCT）
- 列　　：C
- メンバリスト　：ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）」

ディメンション	列	メンバリスト
SHOP	B	#ROOT_DESCENDENTS_CF
PRODUCT	C	#ROOT_DESCENDENTS_CF



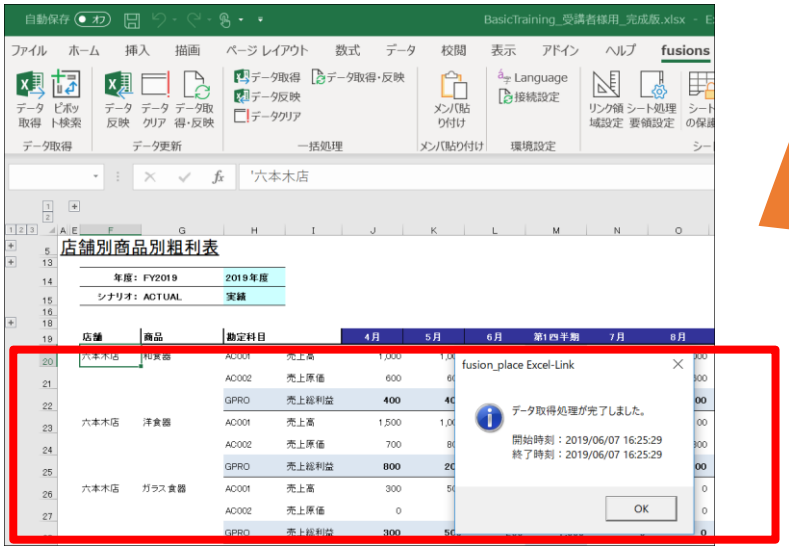
14.「保存」ボタンをクリックします。

演習5.データ入出力②（Excel-Link）
⑤テンプレート処理



15. 「-」マークをクリックし、設定用のセルを非表示に戻します。（実務では、この状態で使用します。）

16. メニュー「fusions」→「データ取得」を選択します。

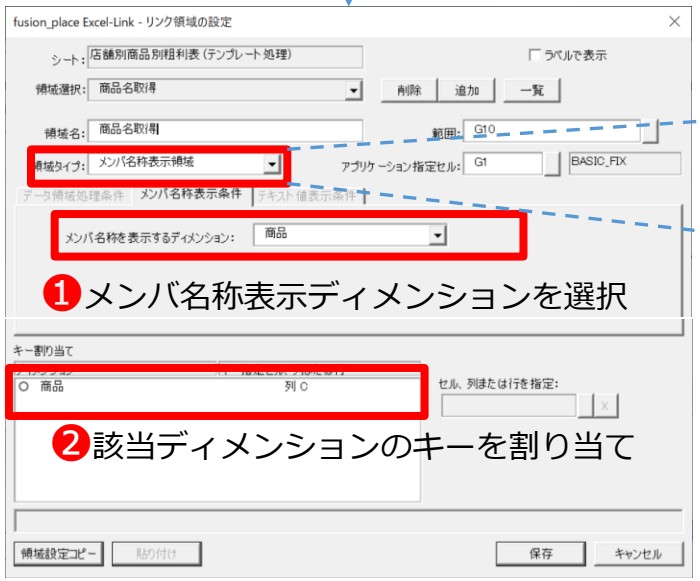


17. 20行目以降に、データが表示されます。

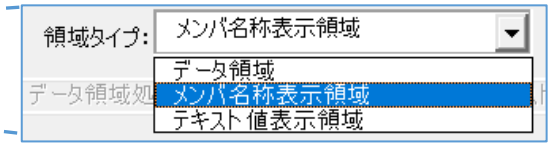
5.データ入出力②（Excel-Link）
Tips（リンク領域・領域タイプ）

Excel-linkのリンク領域は、**同一シート内に複数設定**できます。また、元帳からデータを取得するだけでなく、ディメンションメンバ名称を取得することも可能です。

設定方法・内容は、⑤テンプレート処理で使用した「店舗別商品別粗利表 (テンプレート処理)] のリンク領域設定で確認できます。



領域タイプ「メンバ名称表示領域」を指定すると元帳データではなく、ディメンションメンバの名称を取得可能です。

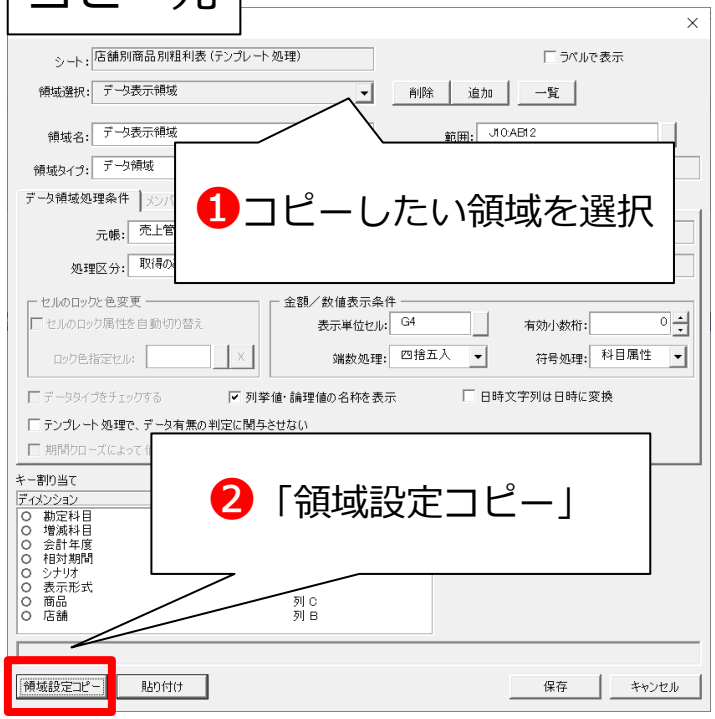


（参考）領域タイプにはこの他、「テキスト値表示領域」があります。
当領域タイプを指定すると、メンバの名称だけでなく、ラベルと名称、それにメンバプロパティ値などを用いて組み立てた文字列を表示する領域を設定する事ができます。文字列の組み立て方を指示するにはテキスト式を使用します。
（テキスト式はフォームトレーニングの研修内容となります）

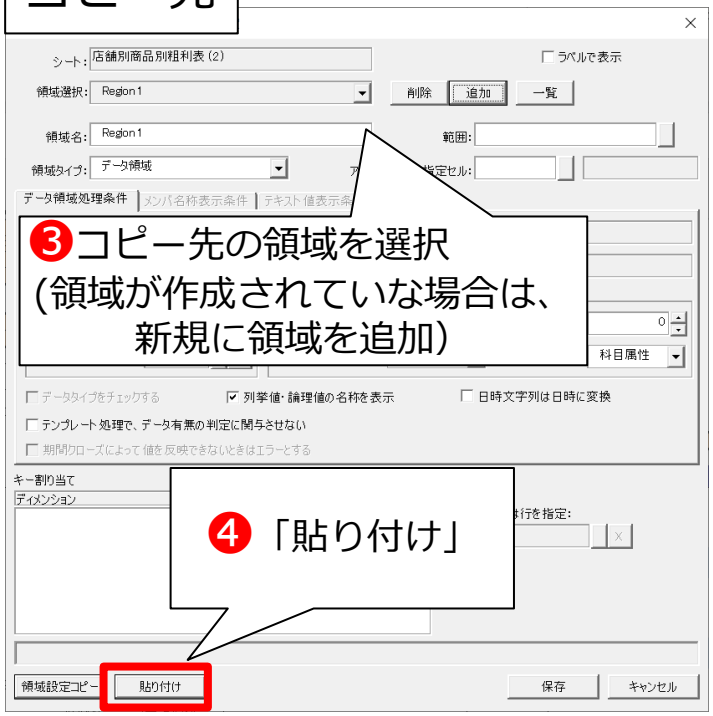
5.データ入出力②（Excel-Link）
Tips（領域設定コピー）

同じような内容のリンク領域をいくつも設定するのは煩雑です。このような場合のために、設定済のリンク領域の設定内容を、別のリンク領域にコピーすることができます。コピー先のリンク領域は同シート内だけでなく、別シート、別ブックにあっても、コピー内容を貼り付けする事ができます。

コピー元



コピー先



一度、「領域設定コピー」を実行すると、コピー元リンク領域の内容は記憶され、その後何回でも、「貼り付け」ることができます。

※Excelシートをコピーした場合はリンク領域も同時に複製されます

5.データ入出力②（Excel-Link）
Tips（データの繰り返し反映）

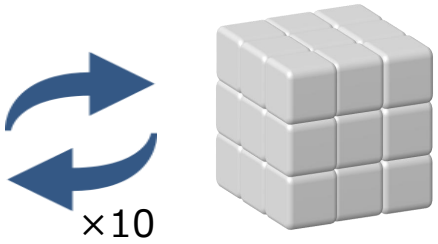
Excel-linkの取得と反映により、取得したデータを基にExcel上で計算した結果を元帳に反映することができます。

更に、反映処理と取得処理を任意の回数だけ交互に繰り返すことも可能です。
当機能により、全社共通費用を各部門に配賦し、配賦結果を基に更に配賦するといった階梯式配賦を自動で行うことができます。

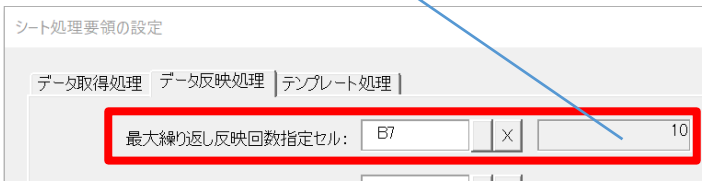
配賦元部門	(コード)	配賦先部門	(コード)	配賦割合	4月 配賦元金額 (発生費計)	(配賦受入)	計	配賦額	配賦元 払出額合計	配賦先 受入額合計
人事部	910	六本木店	101	20.00%	1,971	0	1,971	394	1,971	3,394
人事部	910	代官山店	102	20.00%	1,971	0	1,971	394	1,971	3,091
人事部	910	横浜店	103	15.00%	1,971	0	1,971	296	1,971	2,226
人事部	910	京都店				0	1,971	296	1,971	1,577
人事部	910	営業企画部				0	1,971	197	1,971	657
人事部	910	総務部					1,971	197	1,971	197
人事部	910	経理部				0	1,971	197	1,971	343
				100.00%			0	0		
総務部	920	六本木店	101	35.00%	2,717	197	2,914	1,020	2,914	3,394
総務部	920	代官山店	102	30.00%	2,717	197	2,914	874	2,914	3,091
総務部	920	横浜店	103	15.00%	2,717	197	2,914	437	2,914	2,226
総務部	920	京都店	104	10.00%	2,717	197	2,914	291	2,914	1,577
総務部	920	営業企画部	191	5.00%	2,717	197	2,914	146	2,914	657
総務部	920	経理部	930	5.00%	2,717	197	2,914	146	2,914	343
				100.00%			0	0		
経理部	930	六本木店	101	30.00%	2,801	343	3,144	943	3,144	3,394
経理部	930	代官山店	102	25.00%	2,801	343	3,144	786	3,144	3,091
経理部	930	横浜店	103	20.00%	2,801	343	3,144	629	3,144	2,226
経理部	930	京都店	104	15.00%	2,801	343	3,144	472	3,144	1,577
経理部	930	営業企画部	191	10.00%	2,801	343	3,144	314	3,144	657
				100.00%				0		
営業企画部	191	六本木店	101	30.00%	2,800					

①人事部の費用を各部門に配賦

②人事部から受け入れた配賦額を含む総務部費用を経理部に配賦



Excel-linkメニュー>シート処理要領設定>
データ反映処理で最大繰り返し反映回数を指定

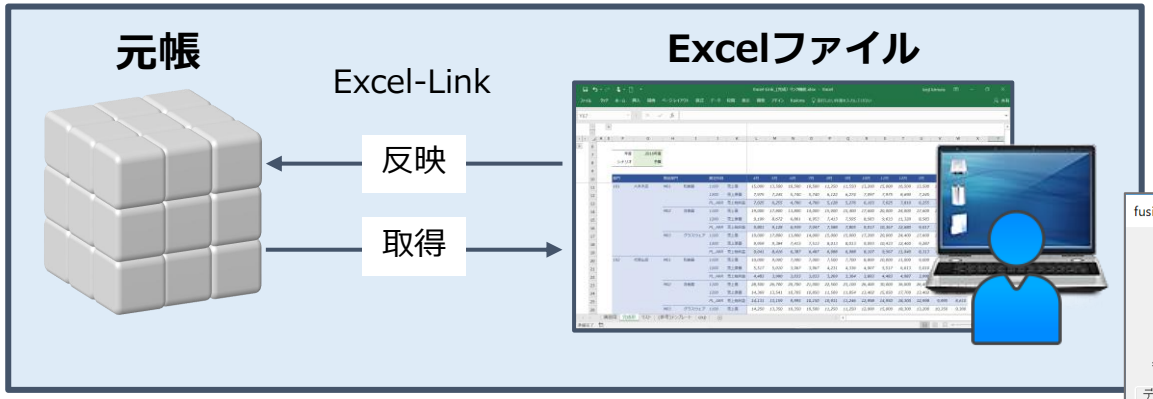


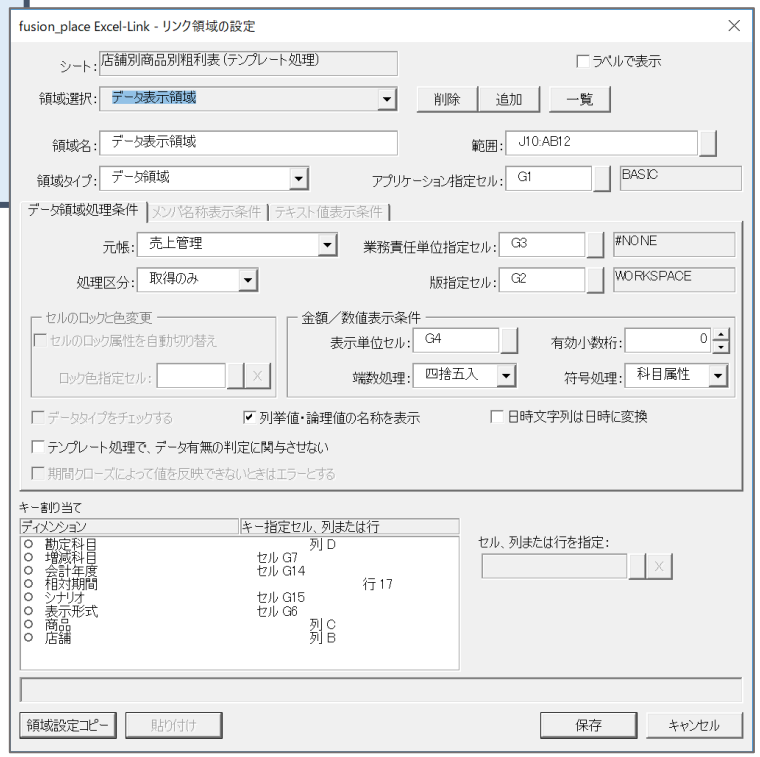
5.データ入出力②（Excel-Link）
（参考）フォームとExcel-Linkの特長

フォーム（ブラウザ）	Excel-link
■ 簡易版は数分で作成可能 （データ検証時に即時作成なども可） ■ 様々なCSVファイルのインポート・エクスポートに対応 ・前回取込データの自動消去機能 ・複雑なコード変換機能 ・レコード間の演算機能 ■ ディメンションのツリー変更が自動的に反映される「メンテナンスフリー」の画面・帳票の作成 ■ ドリルダウン機能により明細や異種データに遡って確認できるに画面・帳票の作成 ■ バリデーションのための機能を標準装備	■ はじめて利用の場合でも習熟が簡単 ■ 既存のExcelシートの活用可能 ■ 自由度が高く、報告書作成等にも適当 ・フォントや罫線等の変更 ・表、グラフ、様々な計算式が使用可能 ■ テンプレート処理機能の活用等により、メンテナンスフリー実現可能 ■ １つのシート内で、複数のfusion_placeアプリケーションと接続可 ■ ピボット検索機能使用可能

5.データ入出力②（Excel-Link）
おさらい

以上で、Excel-Linkのデータ入出力は終了です。Excel-Linkを利用したレイアウトの方法、リンク領域設定についてご理解頂けたかと思います。





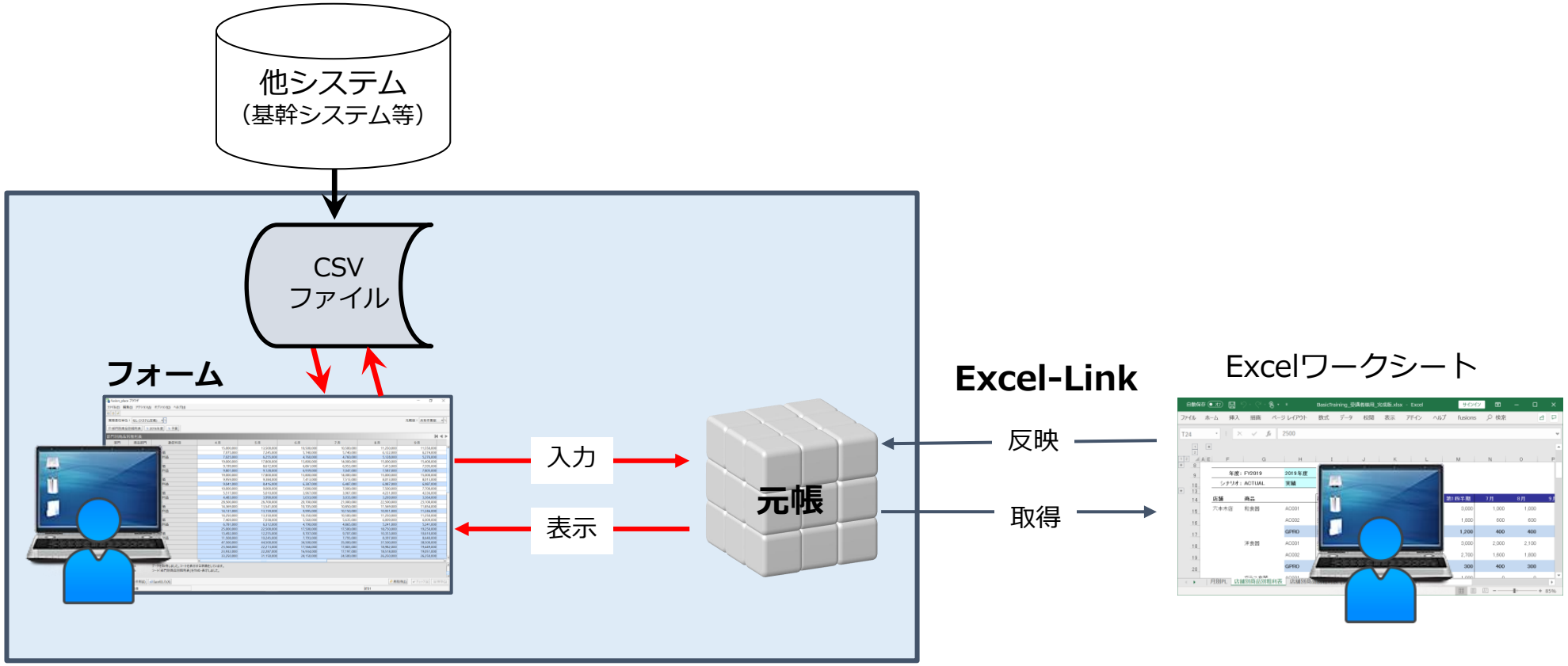
6. データ入出力③（インポート）

6-1.インポート概要
6-2.インポート（簡易版）
6-3.インポート（フル機能版)

6.データ入出力③（インポート）
6-1.インポート概要

fusion_placeでのデータを入出力機能として、2章で「フォーム」を、5章で「Excel-link」をご紹介しました。

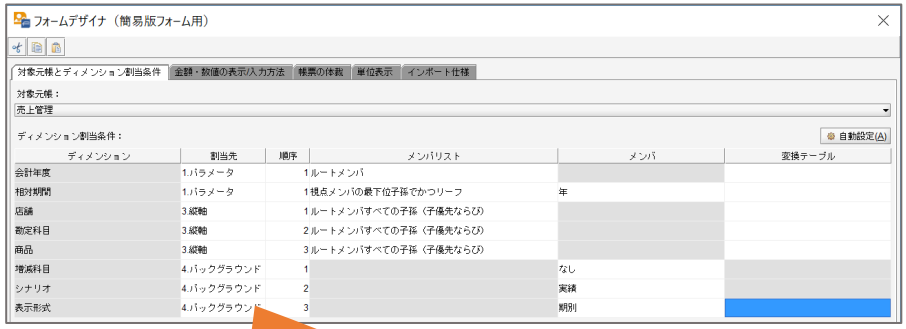
本章では、「フォーム」機能で、カンマ区切り形式ファイル（CSVファイル）のデータを入力する方法を説明します。他システムからの、データ一括入力に使用します。



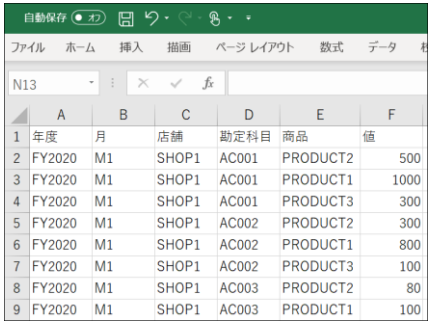
6.データ入出力③（インポート）
6-2.インポート（簡易版）

インポートに使用する場合にも、「フォーム」は、**簡易版**と**フル機能版**のいずれでも作成できます。
簡易版フォームは、CSVファイルのレイアウトが特定の形式であり、複雑な計算などが不要の場合に使用します。それ以外の場合には、フル機能版フォームを作成してインポートします。

簡易版フォームでのインポート



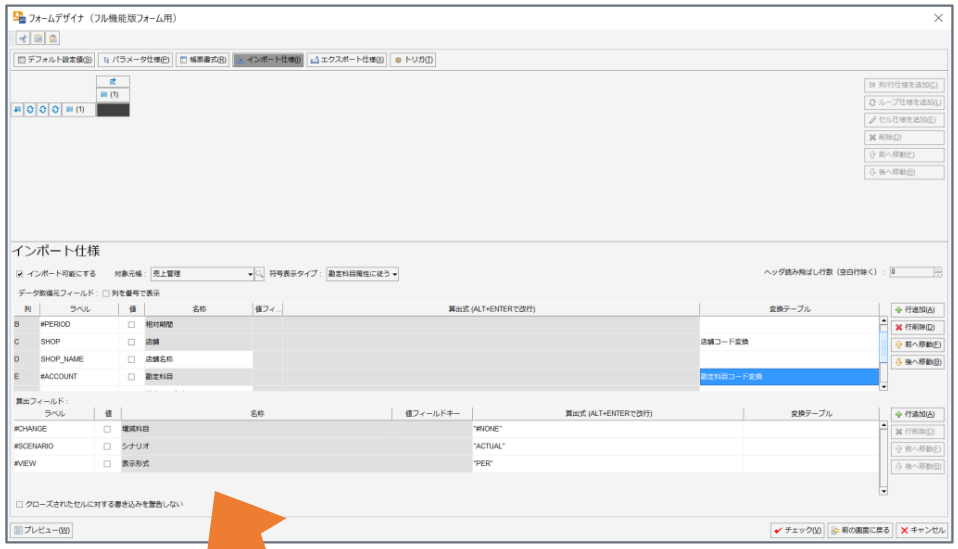
CSVファイル



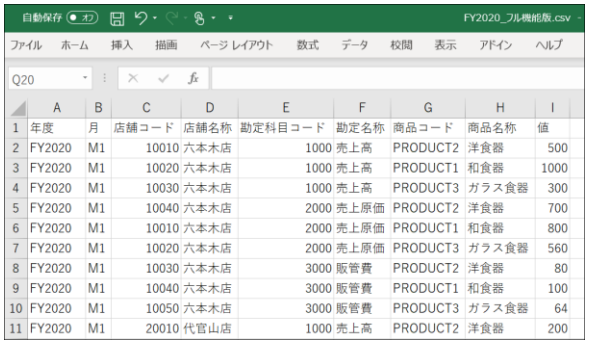
	A	B	C	D	E	F
1	年度	月	店舗	勘定科目	商品	値
2	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT2	500
3	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT1	1000
4	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT3	300
5	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT2	300
6	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT1	800
7	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT3	100
8	FY2020	M1	SHOP1	AC003	PRODUCT2	80
9	FY2020	M1	SHOP1	AC003	PRODUCT1	100

- ■CSVファイルの形式は、パラメータ・横軸・縦軸に割り当てられたディメンションのメンバに対応するキー項目がならび、その後に数値が並ぶ形式である必要があります。
- ■勘定科目コードや組織コードの変換が可能です。
- ■数値だけでなく、文字列値・論理値・列挙値もインポート可能です。

フル機能版フォームでのインポート



CSVファイル



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	年度	月	店舗コード	店舗名称	勘定科目コード	勘定名称	商品コード	商品名称	値
2	FY2020	M1	10010	六本木店	1000	売上高	PRODUCT2	洋食器	500
3	FY2020	M1	10020	六本木店	1000	売上高	PRODUCT1	和食器	1000
4	FY2020	M1	10030	六本木店	1000	売上高	PRODUCT3	ガラス食器	300
5	FY2020	M1	10040	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT2	洋食器	700
6	FY2020	M1	10010	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT1	和食器	800
7	FY2020	M1	10020	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT3	ガラス食器	560
8	FY2020	M1	10030	六本木店	3000	販管費	PRODUCT2	洋食器	80
9	FY2020	M1	10040	六本木店	3000	販管費	PRODUCT1	和食器	100
10	FY2020	M1	10050	六本木店	3000	販管費	PRODUCT3	ガラス食器	64
11	FY2020	M1	20010	代官山店	1000	売上高	PRODUCT2	洋食器	200

フル機能版のインポートでは、簡易版での機能に加えて、複雑なインポート処理ができます。例えば、以下のような場合に、フル機能版を使用して、インポートします。

■CSVファイルの1行に複数個の数値が登録されており、それぞれ別メンバの値としてインポートしたい場合。

■先頭の数行をヘッダとして読み飛ばしたい、また条件によって読み飛ばしたい行がある場合。インポートに不要な列がある場合。

■CSVファイルの項目に文字列操作を行ったうえでインポートしたい場合、また1行内の複数の数値や、複数行の数値を計算した結果をインポートしたい場合。

演習6.データ入出力③（インポート）

⓪演習の全体像

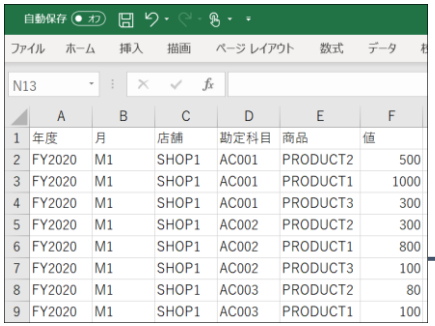
①簡易版フォームのインポート

②フル機能版フォームのインポート

演習6.データ入出力③（インポート）
⓪演習の全体像

フォームを利用して、CSVファイルのデータ入出力の操作方法について習得します。

1 CSVファイルの確認



	A	B	C	D	E	F
1	年度	月	店舗	勘定科目	商品	値
2	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT2	500
3	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT1	1000
4	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT3	300
5	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT2	300
6	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT1	800
7	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT3	100
8	FY2020	M1	SHOP1	AC003	PRODUCT2	80
9	FY2020	M1	SHOP1	AC003	PRODUCT1	100

2 簡易版フォーム作成およびインポート

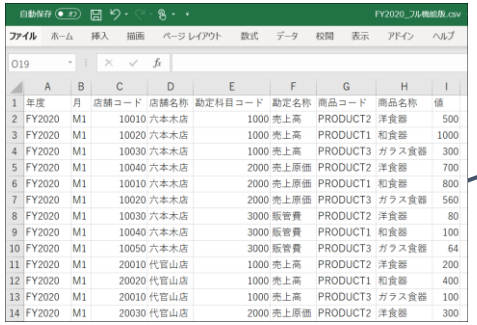
フォーム

データ入力

元帳

データ入力

3 CSVファイルの確認



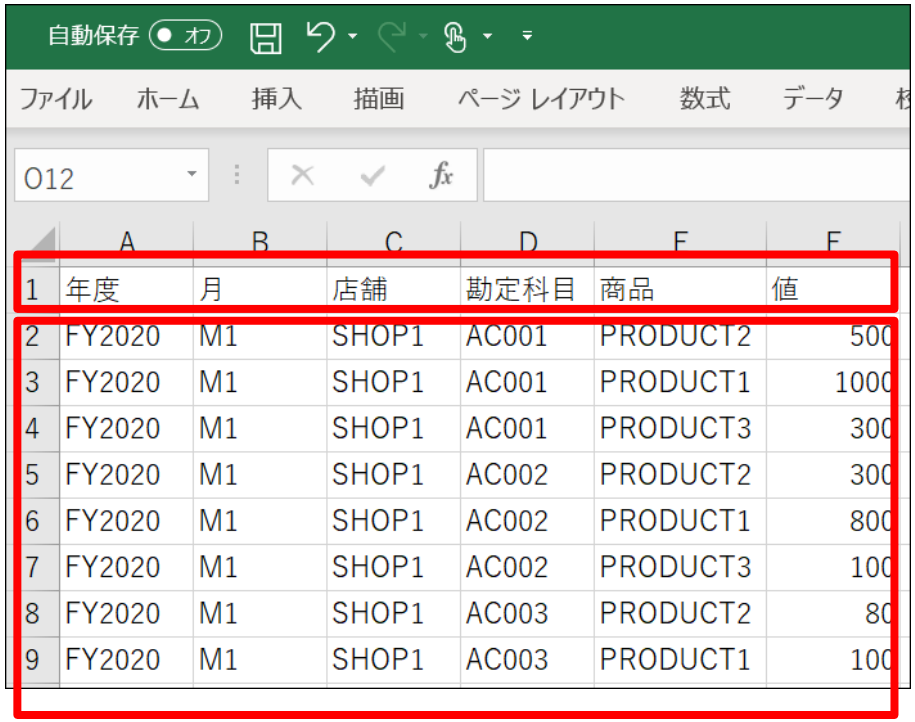
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	年度	月	店舗コード	店舗名称	勘定科目コード	勘定名称	商品コード	商品名称	値
2	FY2020	M1	10010	六本木店	1000	売上高	PRODUCT2	洋食器	500
3	FY2020	M1	10020	六本木店	1000	売上高	PRODUCT1	和食器	1000
4	FY2020	M1	10030	六本木店	1000	売上高	PRODUCT3	ガラス食器	300
5	FY2020	M1	10040	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT2	洋食器	700
6	FY2020	M1	10010	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT1	和食器	800
7	FY2020	M1	10020	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT3	ガラス食器	560
8	FY2020	M1	10030	六本木店	3000	販管費	PRODUCT2	洋食器	80
9	FY2020	M1	10040	六本木店	3000	販管費	PRODUCT1	和食器	100
10	FY2020	M1	10050	六本木店	3000	販管費	PRODUCT3	ガラス食器	64
11	FY2020	M1	20010	代官山店	1000	売上高	PRODUCT2	洋食器	200
12	FY2020	M1	20020	代官山店	1000	売上高	PRODUCT1	和食器	400
13	FY2020	M1	20010	代官山店	1000	売上高	PRODUCT3	ガラス食器	100
14	FY2020	M1	20030	代官山店	2000	売上原価	PRODUCT2	洋食器	300

4 フル機能版フォーム作成およびインポート

フォーム

演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート

あらかじめ、サンプルのデータファイル「FY2020_簡易版.csv」を用意してあります。このCSVファイルを、fusion_placeに「フォーム」より読み込んでみましょう 。



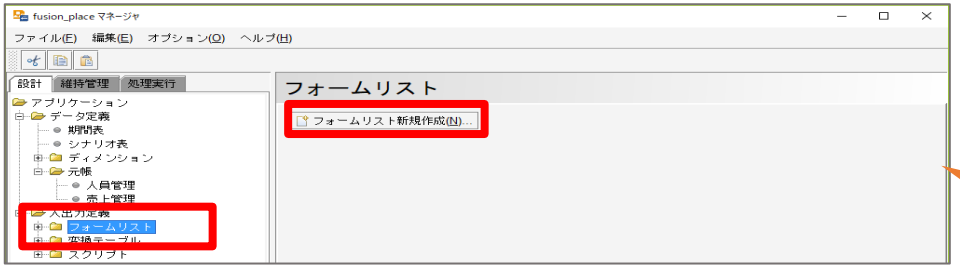
1.サンプルのデータファイル「FY2020_簡易版.csv」を開きます。データ形式および内容を確認します。このファイルの特徴は、以下のとおりです。

■1行目がヘッダー、2行目以降がデータ。データは22件（行）あります。

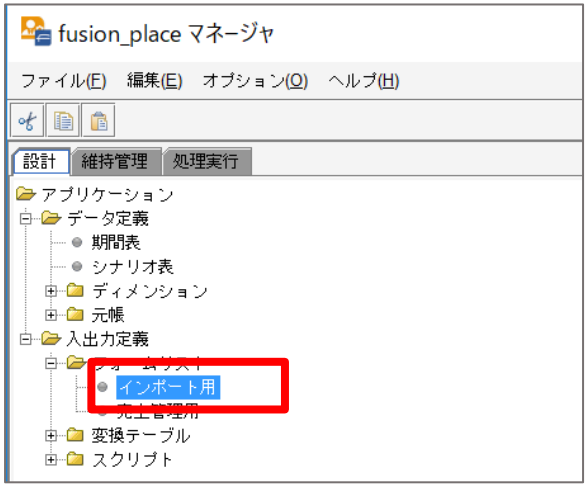
■カラムは、「年度」、「月」、「店舗」、「勘定科目」、「商品」、「値」の順に並んでいます。

演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート

CSVファイルをインポートするために、フォームリストおよびフォームを作成します。



2.設計タブから「フォームリスト」を選択します。



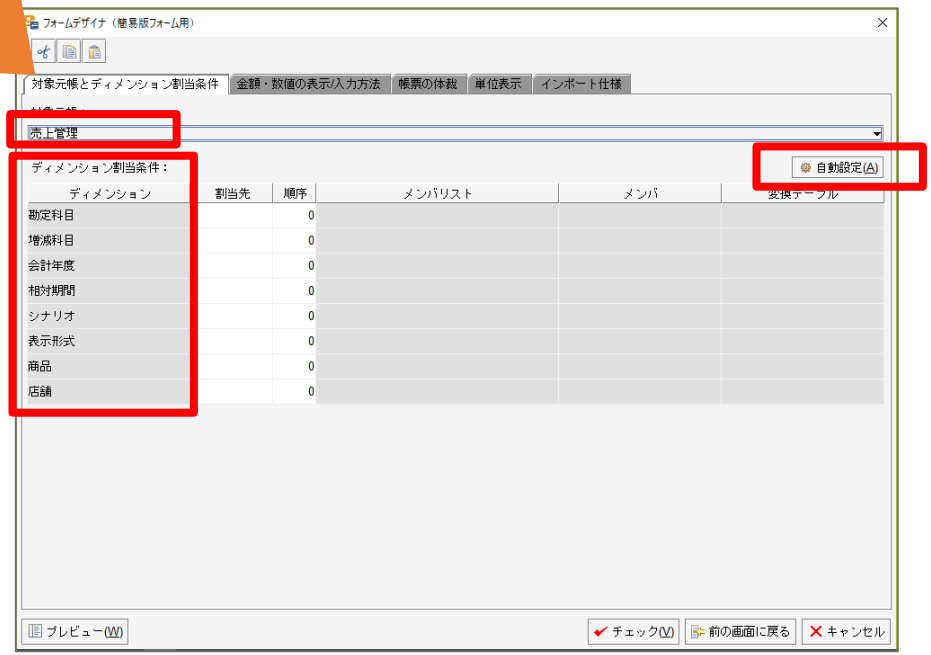
3.『フォームリスト新規作成』画面で
ラベル/名称：IMPORT/インポート用
を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

4.「行追加」ボタンをクリックし、表示された
フォーム一覧に以下の通り入力します。

- ラベル：IMPORT1
- 名称：インポート用フォーム（簡易版）

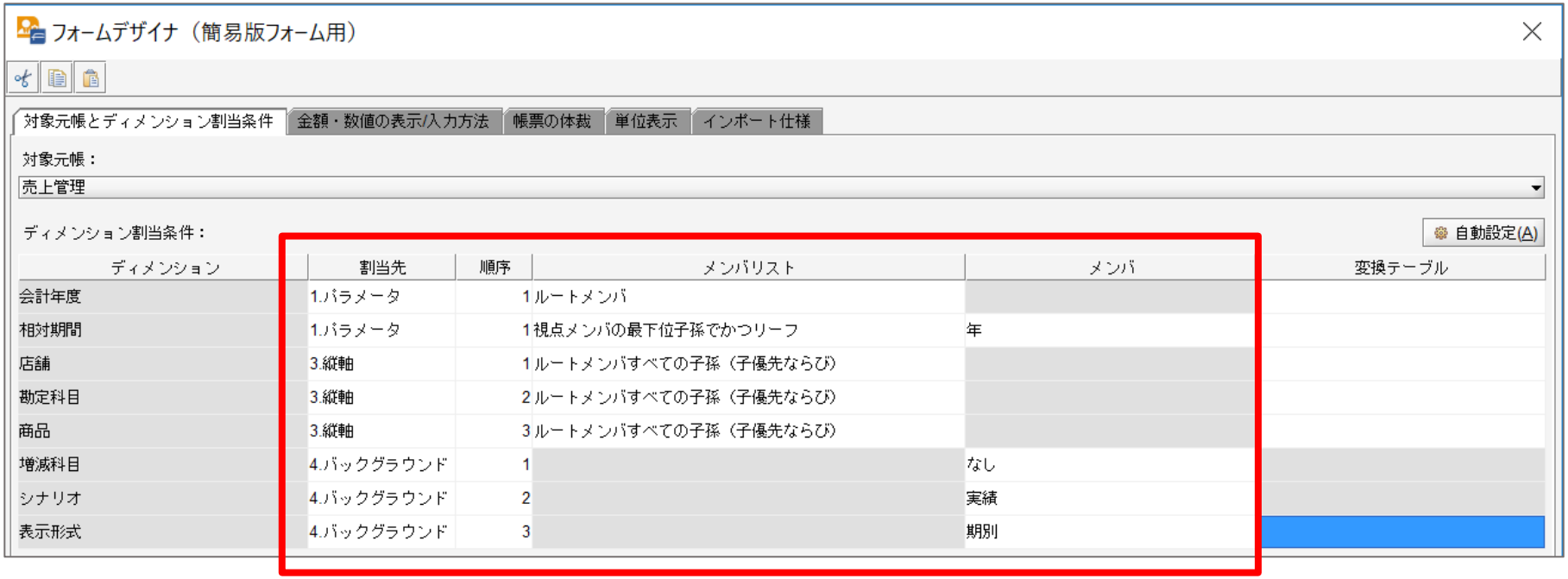
演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート

5.「フォーム設計」ボタンをクリックします。



6.対象元帳の項目から「売上管理」を選択、
「自動設定」ボタンをクリックします。
ディメンション割当条件の欄に、ディメンションが表示されます。

演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート



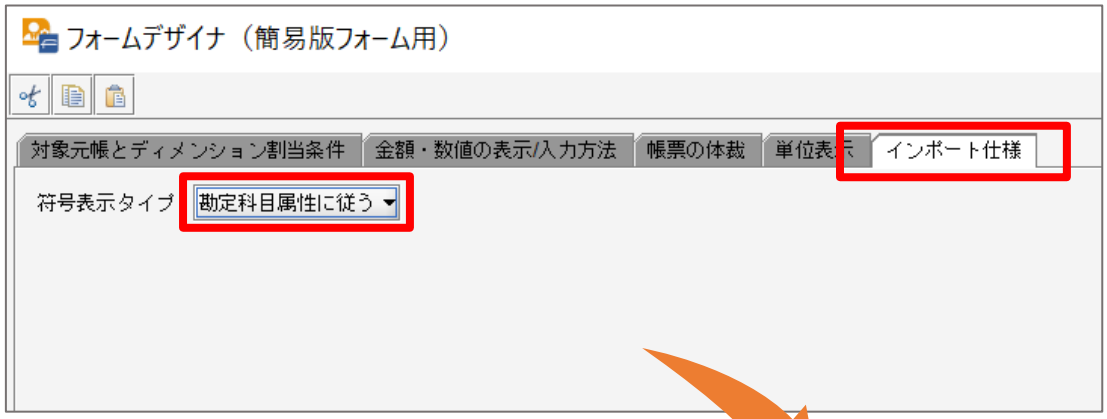
ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	ルートメンバ		
相対期間	1.パラメータ	1	視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	年	
店舗	3.縦軸	1	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
勘定科目	3.縦軸	2	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
商品	3.縦軸	3	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
増減科目	4.バックグラウンド	1		なし	
シナリオ	4.バックグラウンド	2		実績	
表示形式	4.バックグラウンド	3		期別	

店舗・勘定科目・商品については、割当先を「3.縦軸」として、順序にそれぞれ、1,2,3と入力すれば、上図の順に並びます。

7.上図のとおり設定します。

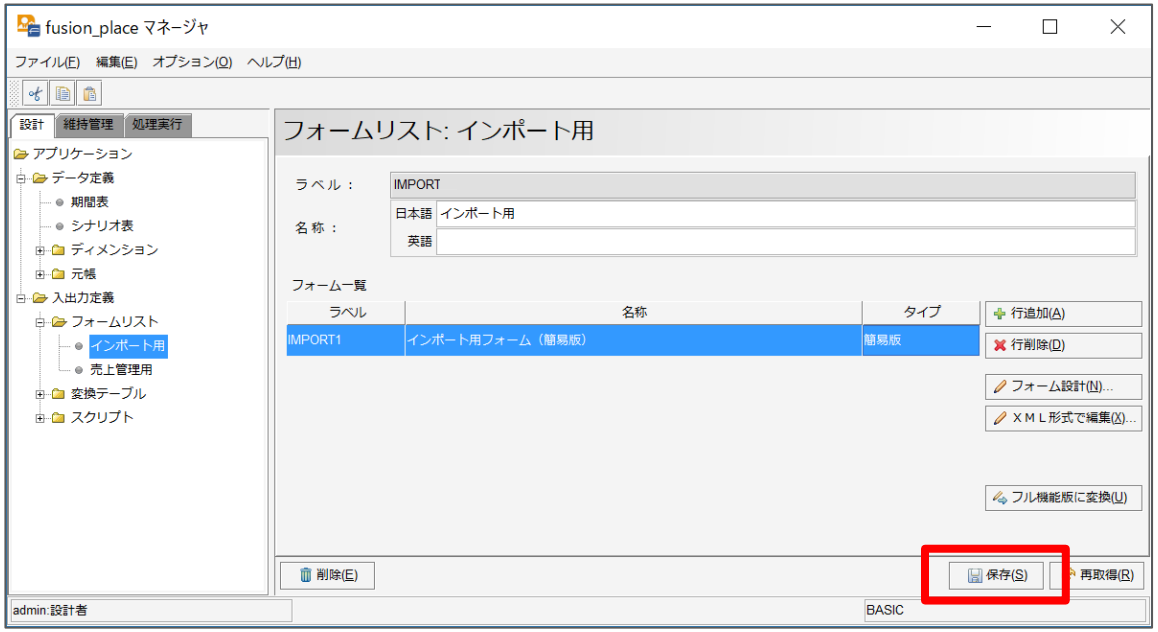
8.「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート



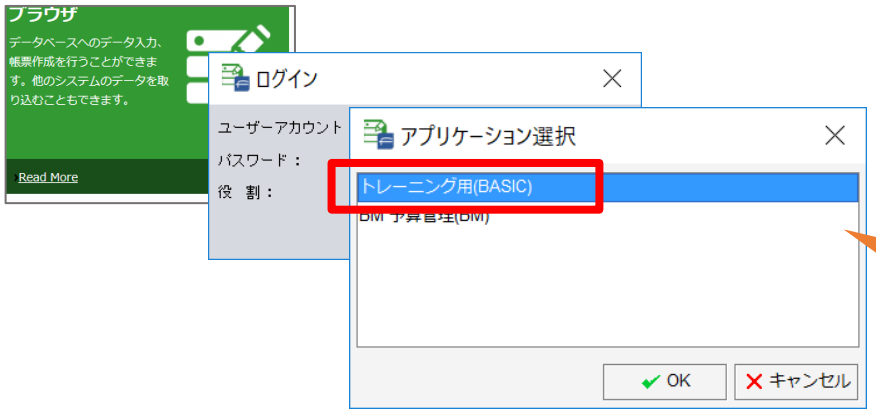
9.「インポート仕様」タブを選択し、「符号表示タイプ」欄を、「勘定科目属性に従う」に変更します。「前の画面に戻る」ボタンをクリックします。

10. 「保存」ボタンをクリックします。

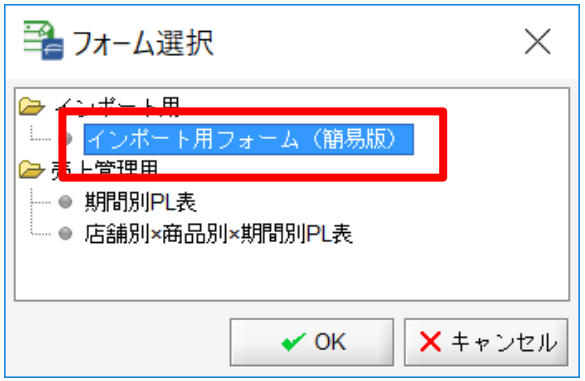


演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート

フォーム使用して、CSVファイルをインポートします。



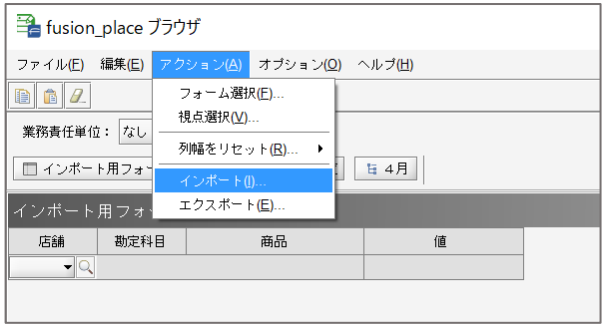
11.「ブラウザ」ボタンをクリック後、ログインし、アプリケーションを選択します。



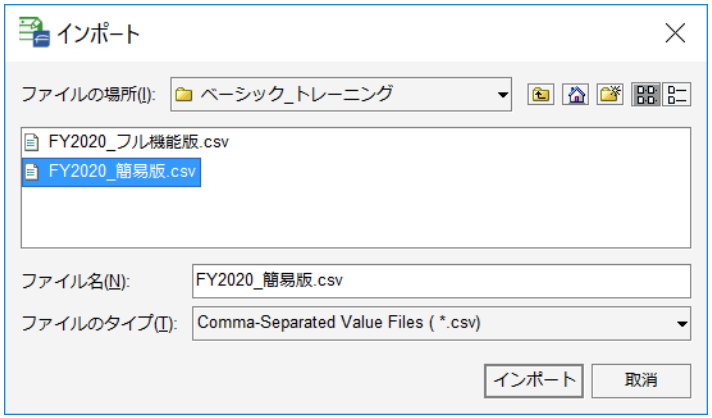
12.「フォーム選択」画面で、フォームリスト「インポート用」から、「インポート用フォーム（簡易版）」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

13.「インポート用フォーム（簡易版）」が表示されます。
会計年度・相対期間として2020年度・4月を選択下さい（表示前に選択を求められる場合もあります）。

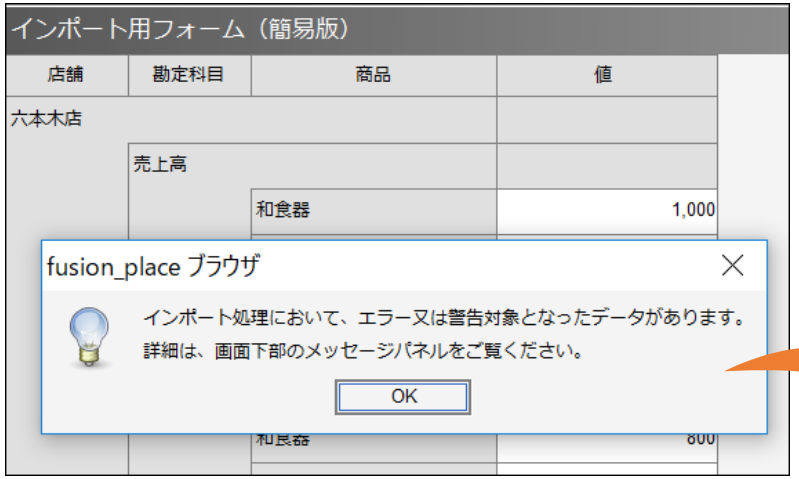
演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート



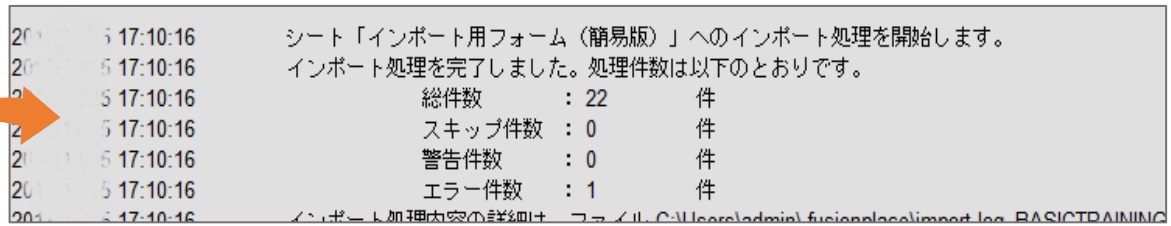
14.CSVファイルをインポートします。
「アクション」メニューを選択し、「インポート」をクリックします。



15.「インポート」画面で、「FY2020_簡易版.csv」で選択し、「インポート」ボタンをクリックします。



16.CSVファイルの読み込みが実行されます。左画面のように、エラーメッセージが表示されますので、画面下部のメッセージパネルを確認してください。



演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート

17. 下図のとおり、エラーが表示されています。ログファイルを開いて、処理内容を確認します。

```
20 11:29    シート「インポート用フォーム（簡易版）」へのインポート処理を開始します。
20 11:29    インポート処理を完了しました。処理件数は以下のとおりです。
20 11:29                総件数        : 22        件
20 11:29                スキップ件数  : 0         件
20 11:29                警告件数      : 0         件
20 11:29                エラー件数    : 1         件
20 11:29    インポート処理内容の詳細は、ファイル C:\Users\admin\.fusionplace\import-log_BASICTRAINING_IMPORT01_2017-12-17_15-11-29.csv にログとして残されています。
20 11:29    エンコーディングは、"日本語(シフトJIS)"が適用されました。
20 11:29    インポートしたデータをもとにシート「インポート用フォーム（簡易版）」を再表示する準備をしています。
20 11:29    シート「インポート用フォーム（簡易版）」を作成・表示しました。
```

ファイル名をコピーして、Excelで開く

■データファイル（CSVファイル）

	A	B	C	D	E	F
1	年度	月	店舗	勘定科目	商品	値
2	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT2	500
3	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT1	1000
4	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT3	300
5	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT2	300
6	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT1	800
7	FY2020	M1	SHOP1	AC002	PRODUCT3	100
8	FY2020	M1	SHOP1	AC003	PRODUCT2	80
9	FY2020	M1	SHOP1	AC003	PRODUCT1	100

■ログファイル

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	#LIN	#BEFORE_	#FY	#PERIC	SHOP	#ACCOUN	PRODUCT	#CHANGE
2	1	1.BEFORE	年度	月	店舗	勘定科目	商品	#NONE
3	1	2.AFTER	年度	月	店舗	勘定科目	商品	#NONE
4	2	1.BEFORE	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT2	#NONE
5	2	2.AFTER	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT2	#NONE
6	3	1.BEFORE	FY2020	M1	SHOP1	AC001	PRODUCT1	#NONE

1行目のヘッダー行が、エラーの原因となっていることがわかります。2行目以降のデータは、正常に処理されました。

演習6.データ入出力③（インポート）
①簡易版フォームのインポート

インポート用フォーム（簡易版） | 2020年度 | 4月

インポート用フォーム（簡易版）

店舗	勘定科目	商品	値
六本木店			
	売上高		
		和食器	1,000
		洋食器	500
		ガラス食器	300
		商品合計	1,800
	売上原価		
		和食器	800
		洋食器	300
		ガラス食器	100
		商品合計	1,200
	売上総利益		
		和食器	200
		洋食器	200
		ガラス食器	200
		商品合計	600

18. 「フォーム」画面で、2行目以降のデータは、正常に読み込まれていることを確認します。

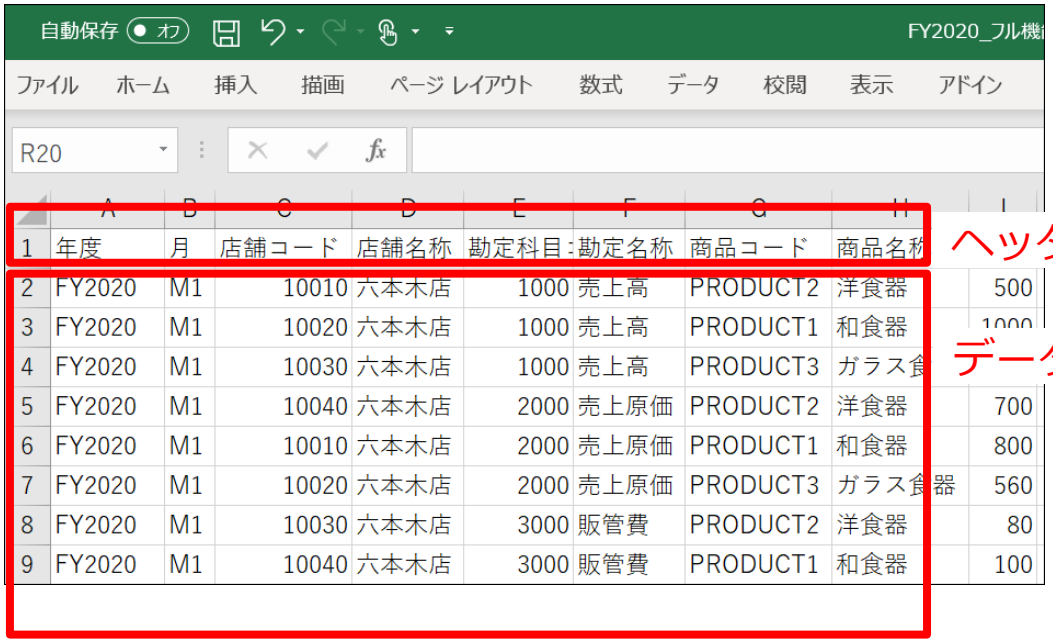
19. 「保存」ボタンをクリックします。この時点で、データが元帳に格納されます。

20. 前頁のとおり、ヘッダー行はインポートできず、エラーとなりました。
フル機能版のフォームを使用すれば、ヘッダー行を読み飛ばすことも可能です。

次頁より、フル機能版のフォームを作成し、より複雑なCSVファイルをインポートしてみましょう。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

簡易版フォームでは、限られたデータ形式のデータしかインポートできませんでした。フル機能版では、読み込み不要のカラムがある形式や、ヘッダーのある形式のインポート等が可能です。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	年度	月	店舗コード	店舗名称	勘定科目	勘定名称	商品コード	商品名称	
2	FY2020	M1	10010	六本木店	1000	売上高	PRODUCT2	洋食器	500
3	FY2020	M1	10020	六本木店	1000	売上高	PRODUCT1	和食器	1000
4	FY2020	M1	10030	六本木店	1000	売上高	PRODUCT3	ガラス食	
5	FY2020	M1	10040	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT2	洋食器	700
6	FY2020	M1	10010	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT1	和食器	800
7	FY2020	M1	10020	六本木店	2000	売上原価	PRODUCT3	ガラス食器	560
8	FY2020	M1	10030	六本木店	3000	販管費	PRODUCT2	洋食器	80
9	FY2020	M1	10040	六本木店	3000	販管費	PRODUCT1	和食器	100

1.サンプルのデータファイル「FY2020_フル機能版.csv」のインポートを演習します。このファイルを開き、下記のとおり、データ形式および内容を確認します。

(1)1行目がヘッダー、2行目以降がデータ。ヘッダーはインポート対象から外します。

(2)カラム（列）には、インポートに不要な列が含まれています（D・F・H列は、コードの名称であり、不要です）。インポート対象から外します。

(3)店舗コード、勘定科目コードが、本研修のアプリケーションと異なります。コード変換が必要です。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

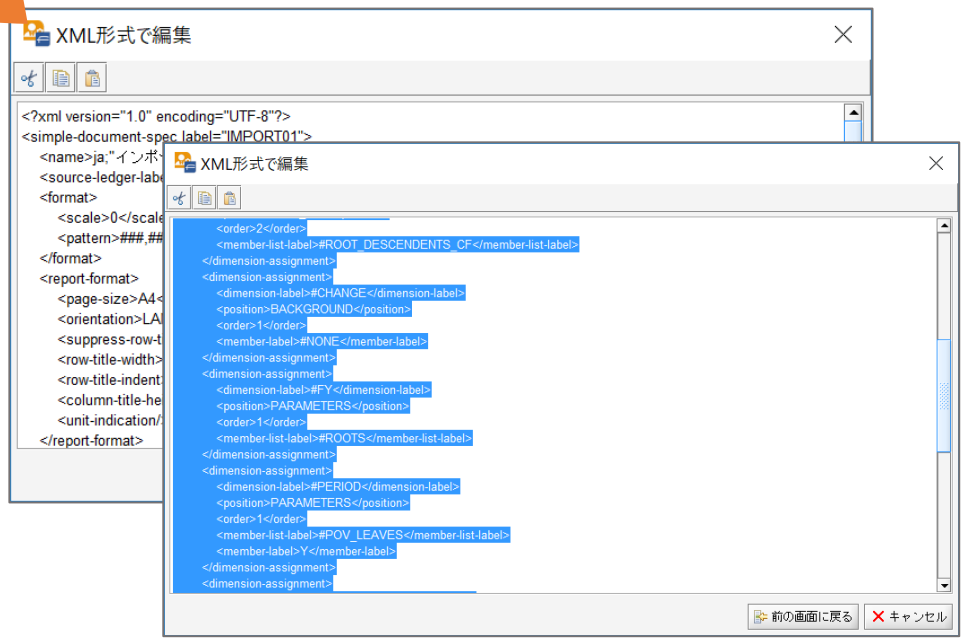
フォーム「IMPORT2」を作成します。効率化のため、「IMPORT2」は、「IMPORT1」をコピーして作成します。

2.「マネージャ」を起動します。「フォームリスト」で、「インポート用」を選択します。

3.「行追加」ボタンをクリックし、「ラベル」に、「IMPORT2」と入力します。名称は、空欄のままにします。（この段階では、まだ「保存」はしません。）

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

4. 「IMPORT1」を選択し、「XML形式で編集」ボタンをクリックします。

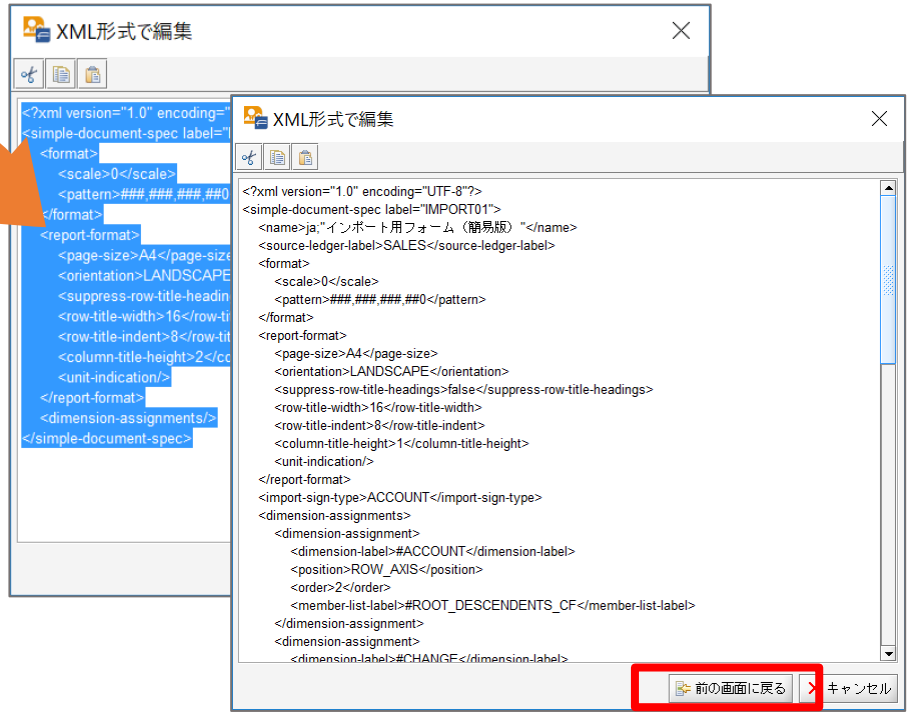


5. 「XML形式で編集」画面の設定をコピーします。
全体を選択（**Ctrl-A** ）し、
コピー（**Ctrl-C**）をします 。

6.「前の画面に戻る」ボタンをクリックします。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

7. 「IMPORT2」を選択し、「XML形式で編集」ボタンをクリックします。

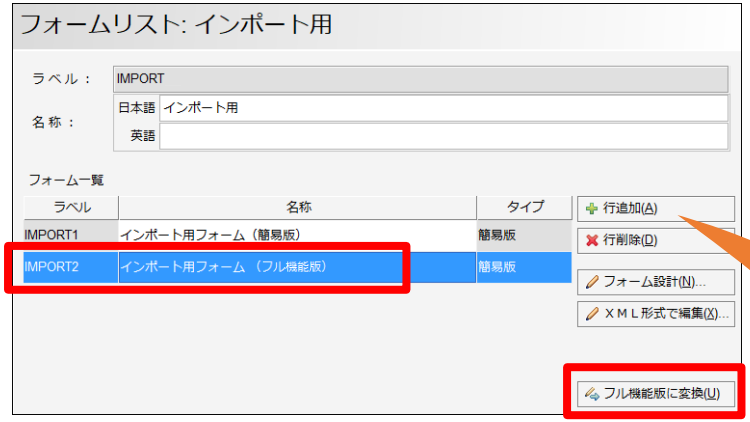


8. 「XML形式で編集」画面で、「IMPORT1」の内容を貼り付けます。
全体を選択（ **Ctrl-A** ）し、
貼り付け（ **Ctrl-V** ）をします 。

9. 「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。（これで、IMPORT1のコピーが完了です。）

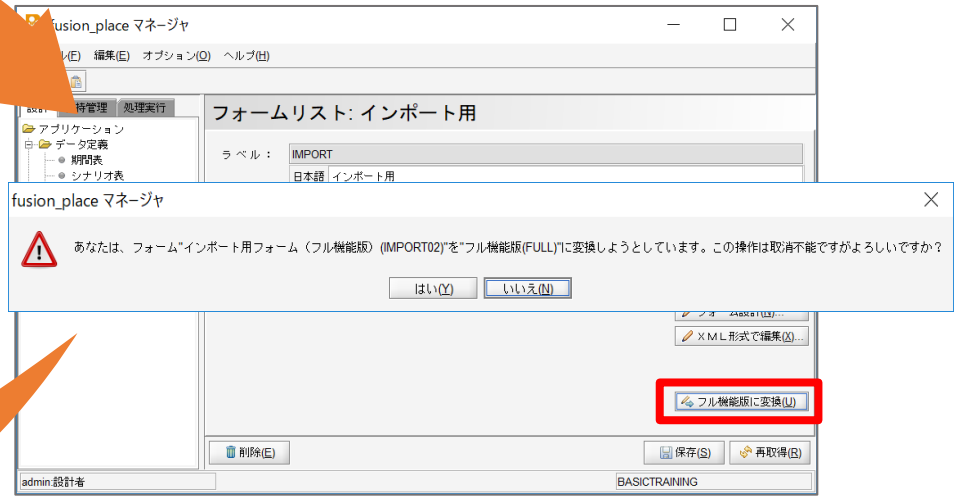
演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

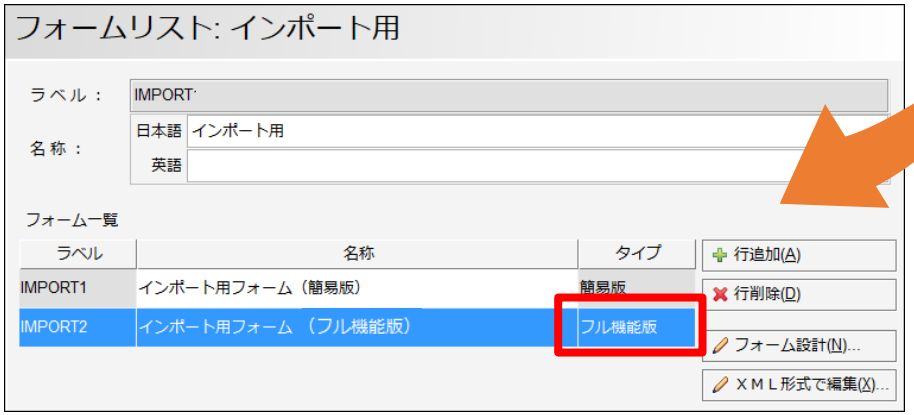
「IMPORT2」を、フル機能版フォームに変換します。



10.「IMPORT2」の「名称」欄を、「インポート用フォーム（フル機能版）」に変更します。

11.「フル機能版に変換」ボタンをクリックします。　右画面のような警告メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

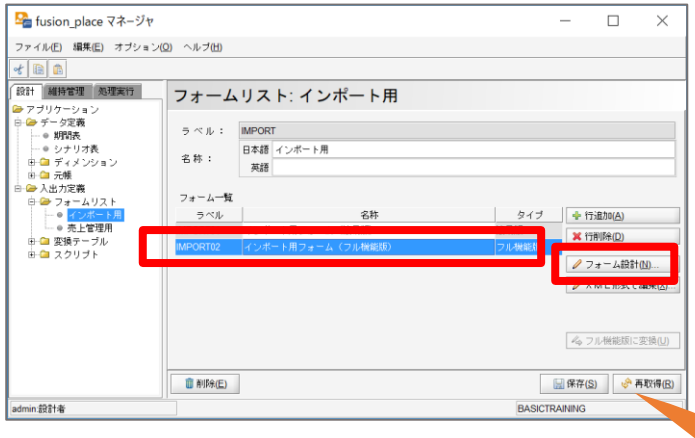




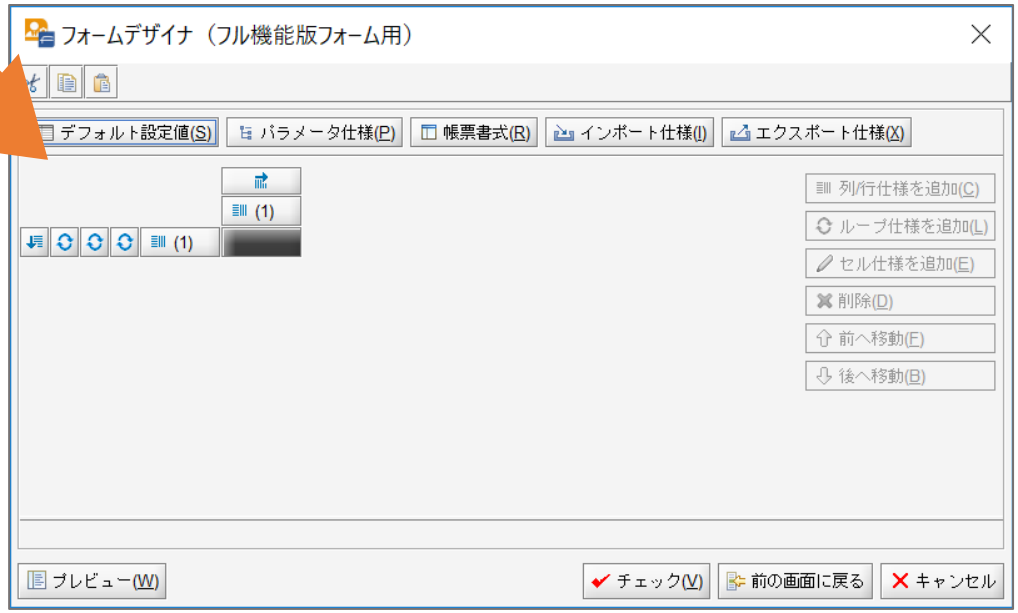
12.「タイプ」欄が、「フル機能版に変換」に変わったことを確認します。

13.「保存」ボタンをクリックします。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート



14.「IMPORT2」を選択し、「フォーム設計」ボタンをクリックします。

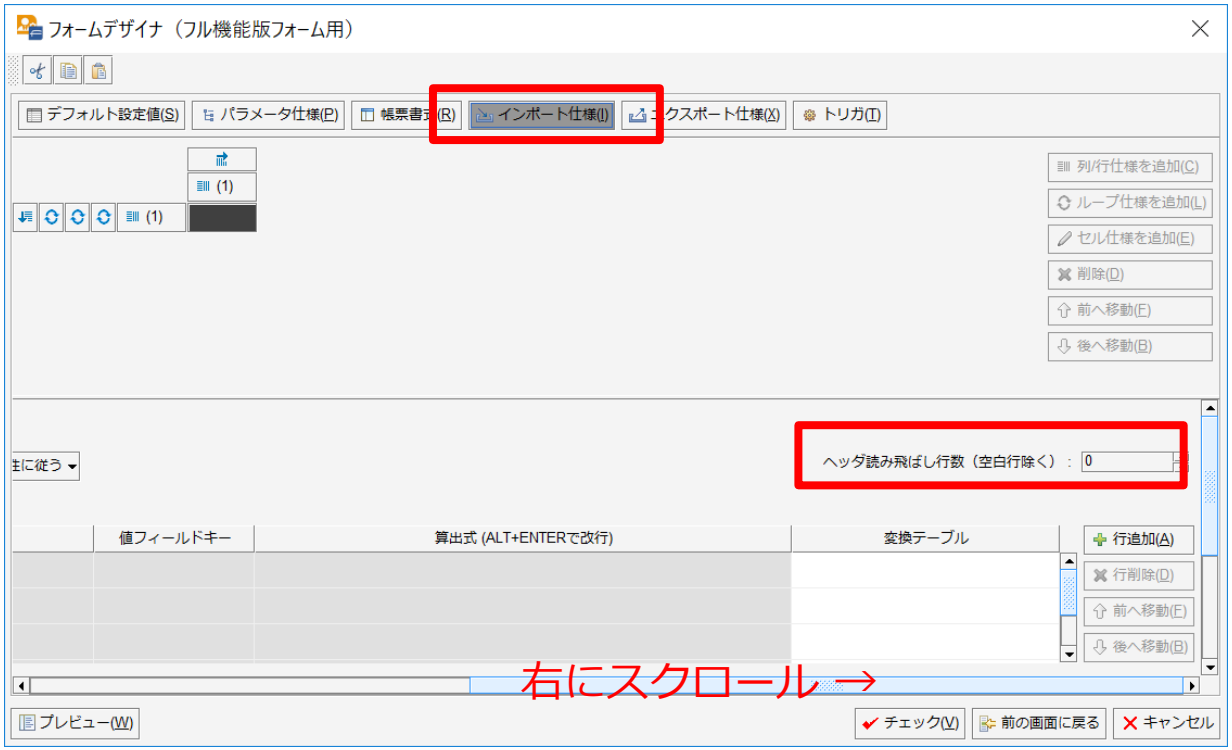


15.「フォームデザイナ（フル機能版フォーム用）」が表示されます。

（※注）「フル機能版」には、「簡易版」の設定が引き継がれます。これに、「フル機能版」の設定を追加します。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

ヘッダー行（1行目）を、インポート対象から外します。②フル機能版フォームのインポート 1.(1)を参照



16.「インポート仕様」タブを選択します。「ヘッダ読み飛ばし行数」欄で、「1」を設定します。

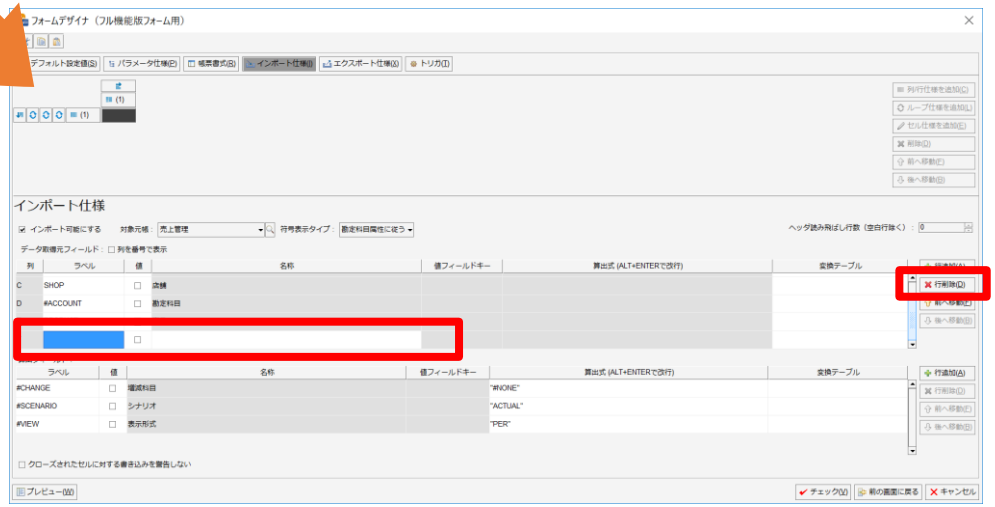
17.「ヘッダ読み飛ばし行数」欄で、「1」を設定します。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

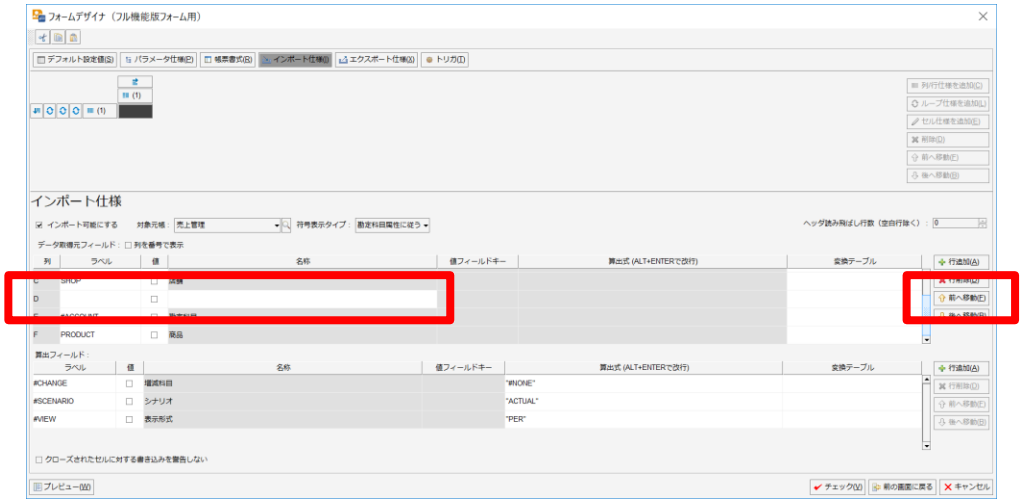
カラム（列）の構成を設定をします。 ②フル機能版フォームのインポート 1.(2)を参照

18.「インポート仕様」タブが選択されていることを確認します。
「データ取得元フィールド」欄に、csvファイルの列構成を登録します。

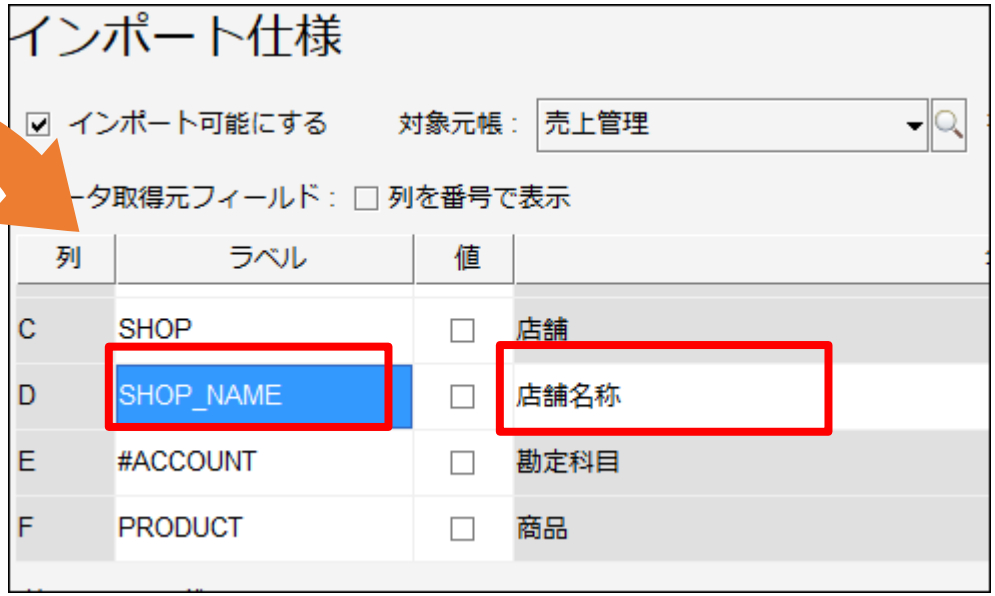
19.「行追加」ボタンをクリックします。空白行が、一番下に追加されます。



演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート



20.「前へ移動」ボタンを２回クリックし、追加された行を、「SHOP：店舗」行の下に移動します。



21.以下のとおり、入力します。

ラベル：SHOP_NAME

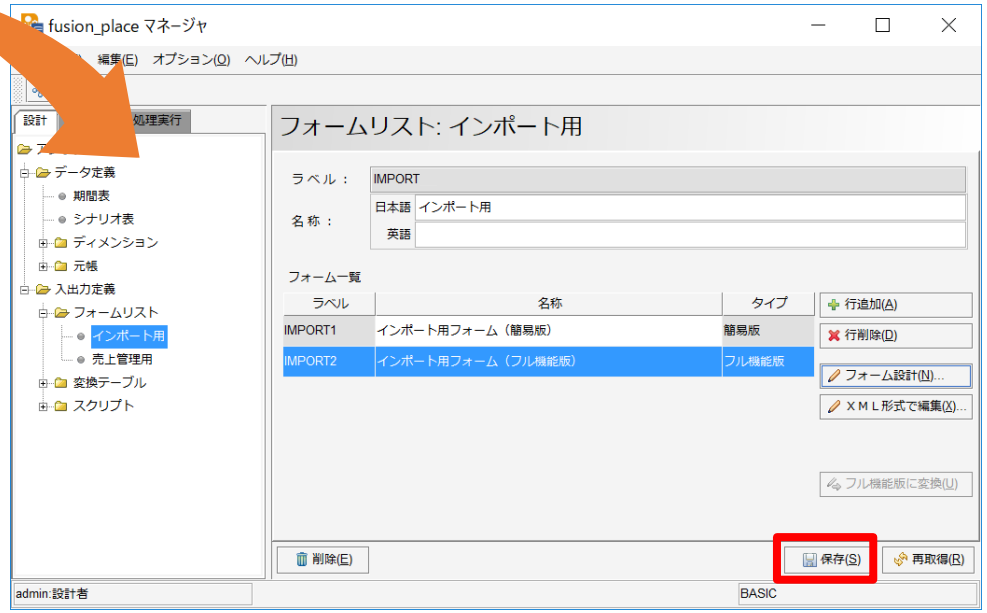
名称：店舗名称

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

22.同様の手順で、「勘定科目名称」および「商品名称」の列も登録します。

■ACCOUNT_NAME：　勘定科目名称

■PRODUCT_NAME：　商品名称

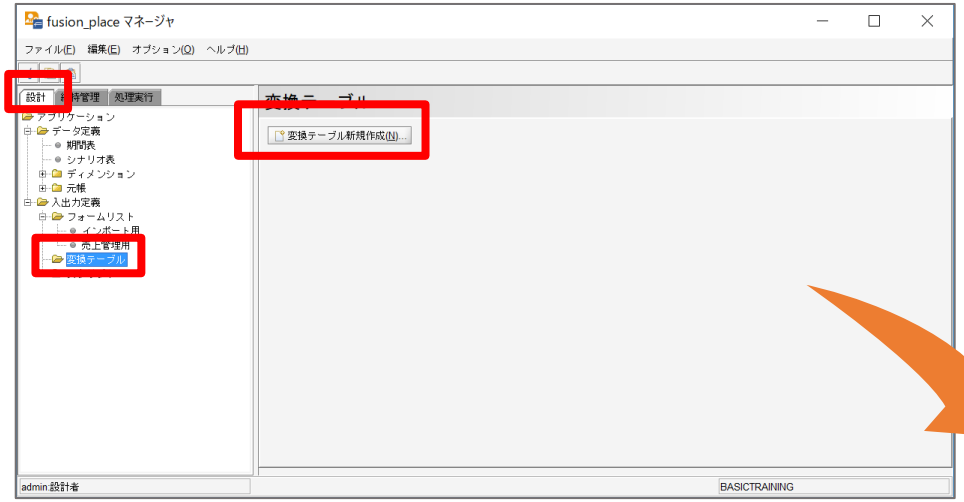


23. 「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、前の画面に戻り、「保存」ボタンをクリックします。

(Tips)
この段階で、「FY2020_フル機能版.csv」のインポートを実行し、どのようなエラーが出るか確認することもできます。

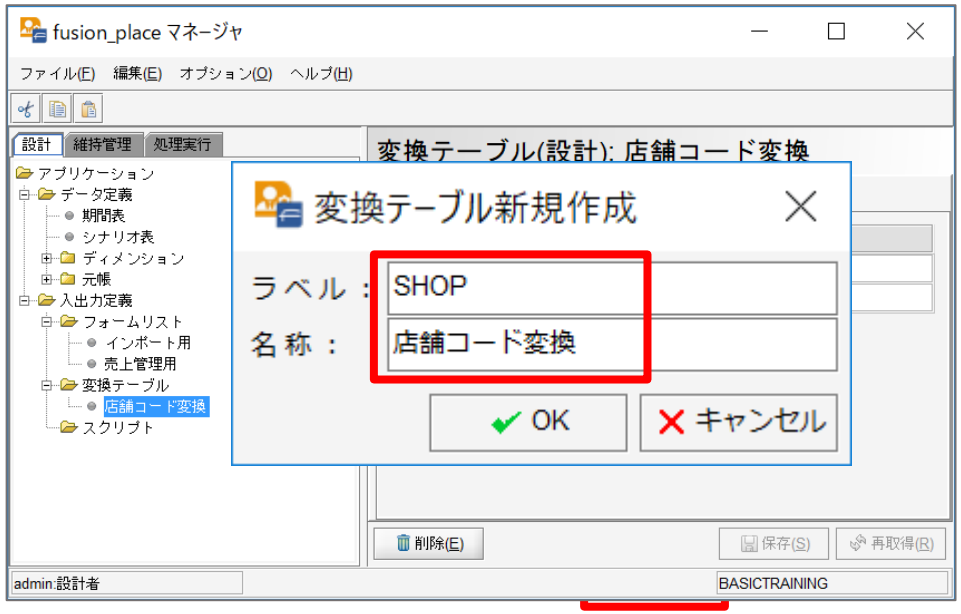
演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

店舗コードの「変換テーブル」を作成します。 ②フル機能版フォームのインポート 1.(3)を参照



24.まず、店舗コードの変換表を作成します。「設定」タブを選択し、「入出力定義」の「変換テーブル」を選択します。

25.「変換テーブル新規作成」ボタンをクリックします。



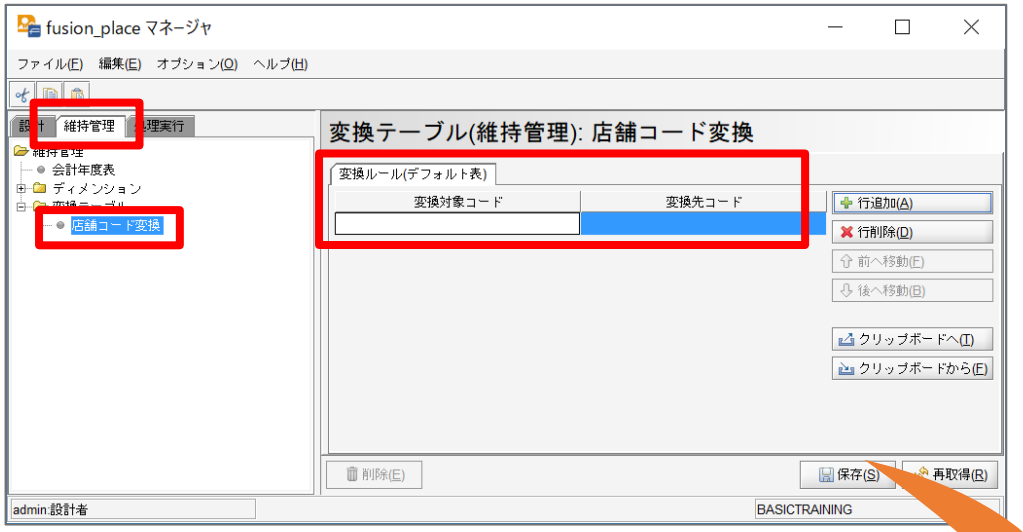
26.「変換テーブル新規作成」画面で、以下のとおり入力し、「OK」ボタンをクリックします。

・ラベル：SHOP

・名称：店舗コード変換

27.「保存」ボタンをクリックします。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート



28.「維持管理」タブを選択し、「変換テーブル」をクリックし、「店舗コード変換」を選択します。

29.「変換ルール（デフォルト表）」タブに、以下のとおり入力し、「保存」ボタンをクリックします。右図参照。

・変換対象コード：100*

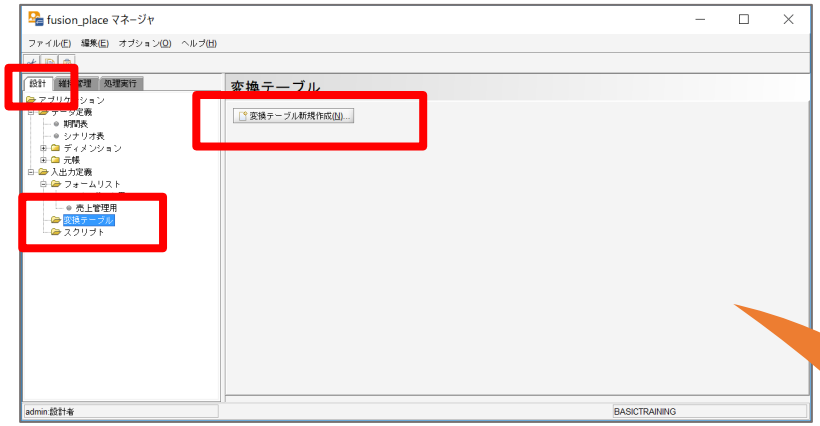
・変換先コード　　：SHOP1

注）「*」はワイルドカードです。任意の長さの文字列を表します。

9.同様の手順で、右図のとおり、「SHOP2」および「SHOP3」も登録し、「保存」します。

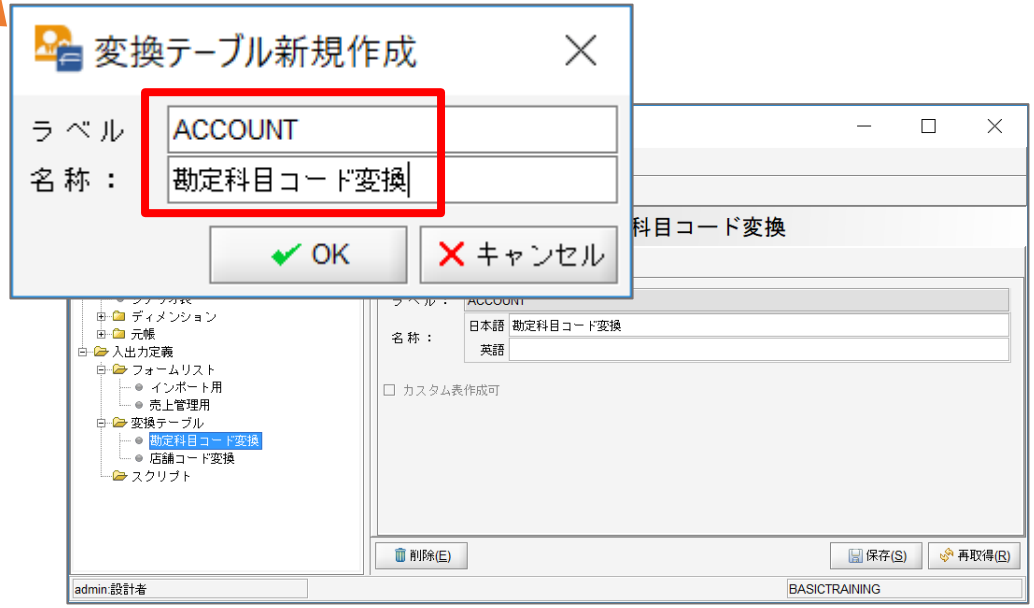
演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

勘定科目コードの「変換テーブル」を作成します。



30.勘定科目コードの変換表を作成します。
「設定」タブを選択し、「入出力定義」の「変換テーブル」を選択します。

31.「変換テーブル新規作成」ボタンをクリックします。

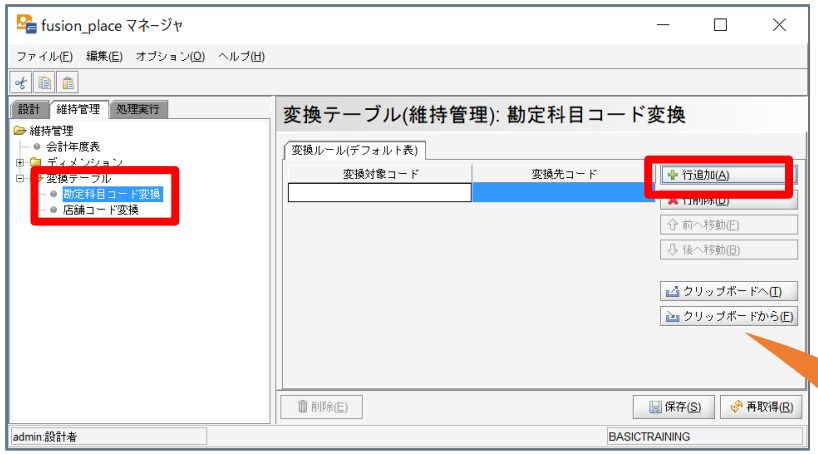


32.『変換テーブル新規作成』画面で、以下のとおり入力し、「OK」ボタンをクリックします。

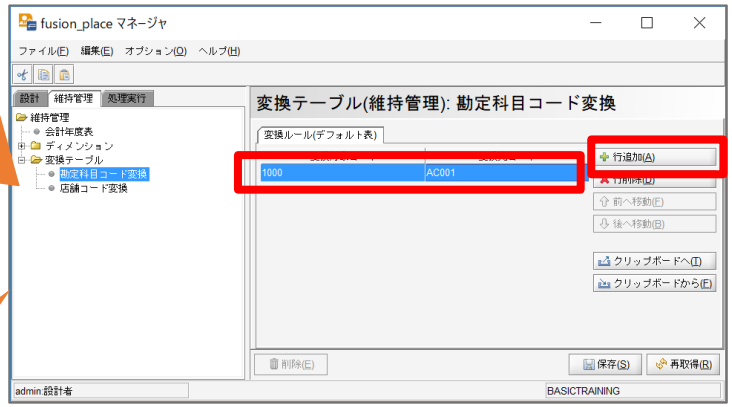
・ラベル：ACCOUNT

・名称：勘定科目コード変換

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート



33.「維持管理タブ」→「変換テーブル」 →「勘定科目コード変換」を選択し、「行追加」ボタンをクリックします。



34.「変換ルール（デフォルト表）」タブで、以下のとおり入力します。

- 変換対象コード：1000
- 変換先コード：AC001

変換ルール(デフォルト表)

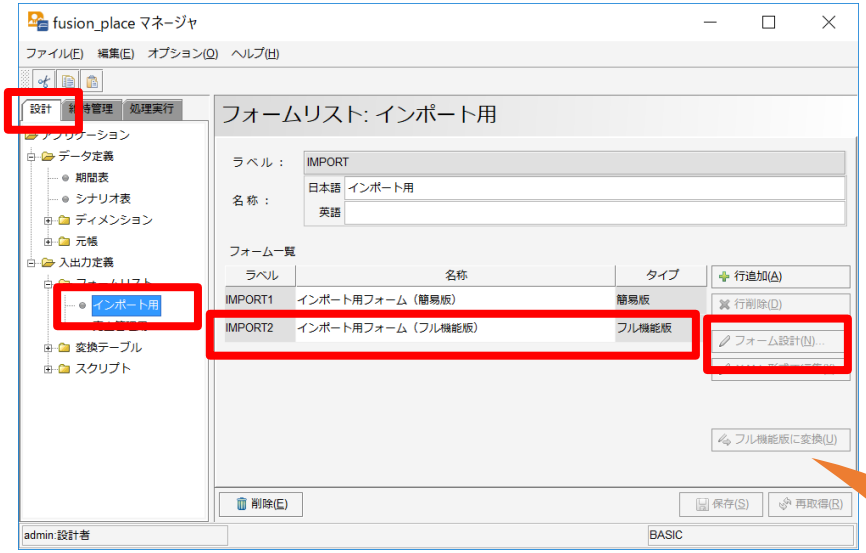
変換対象コード	変換先コード
1000	AC001
2000	AC002
3000	AC003

35.同様の手順で、他の勘定科目コードについて、左図のとおりに入力します。

36. 「保存」ボタンをクリックします。

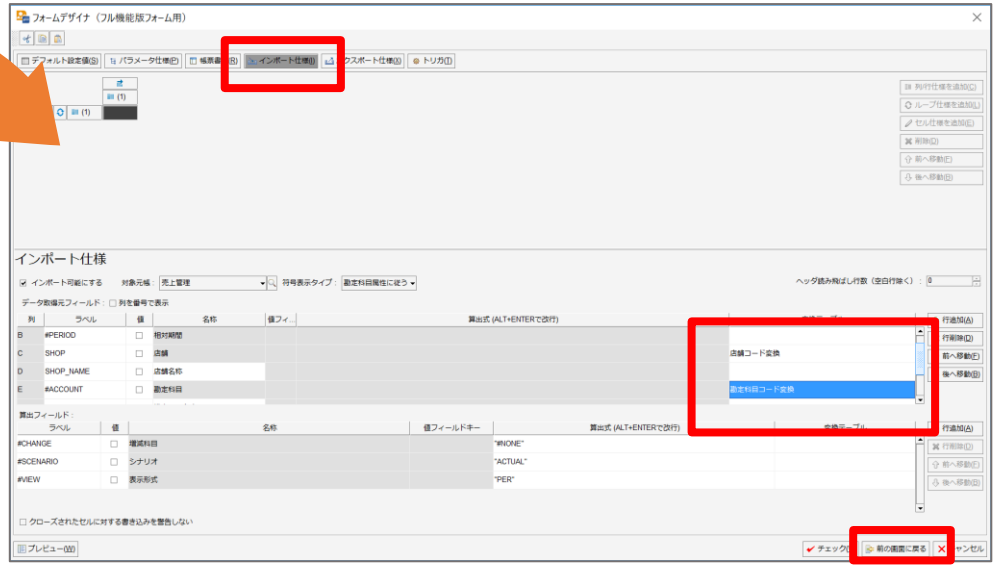
演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

「変換テーブル」を、フォーム「IMPORT2」に登録します。



37.「設計」タブを選択し、「入出力定義」→「フォームリスト」→「インポート用」をクリックします。「IMPORT2：インポート用フォーム（フル機能版）」を選択します。

38.「フォーム設計」ボタンをクリックします。

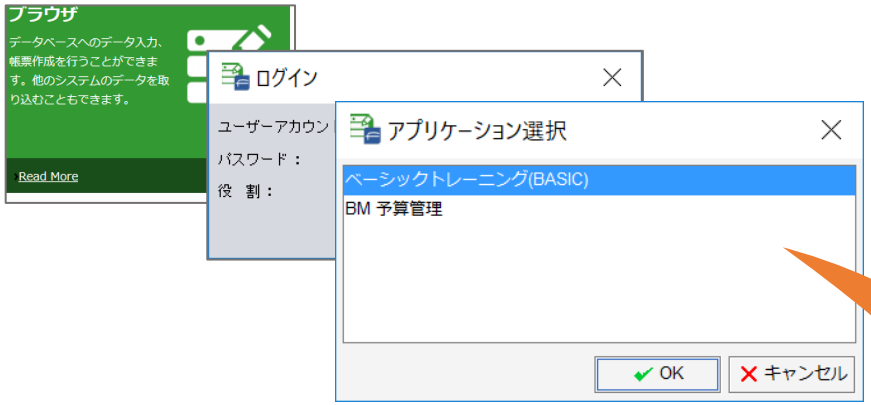


39.「インポート仕様」タブを選択し、ラベル「SHOP」の「変換テーブル」欄で、「店舗コード変換」を選択します。

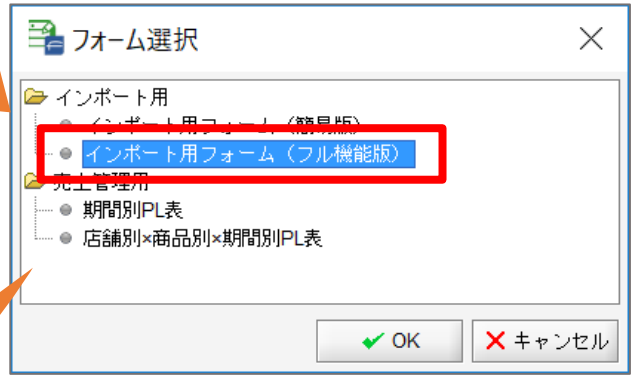
40.同様に、ラベル「ACCOUNT」の「変換テーブル」欄で、「勘定科目コード変換」を選択します。「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

「FY2020_フル機能版.csv」ファイルをインポートします。



41.「ブラウザ」ボタンをクリック後、ログインし、アプリケーションを選択します。

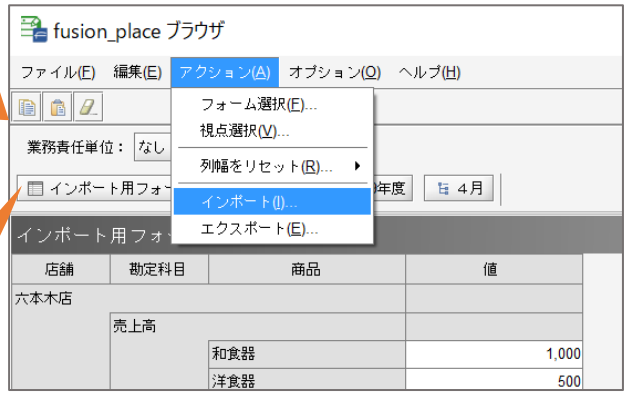


42.「フォーム選択」画面で「インポート用フォーム（フル機能版）」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

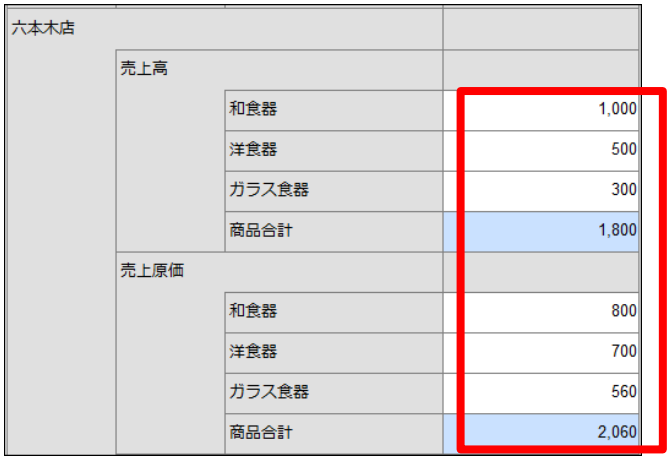
43.「アクション」メニュー→「インポート」をクリックし、「 FY2020_フル機能版.csv 」を選択します。

演習6.データ入出力③（インポート）
②フル機能版フォームのインポート

44. 「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面にて、「2020年度」および「4月」が選択されていることを確認します。



45.「アクション」メニュー→「インポート」をクリックし、「 FY2020_フル機能版.csv 」を選択します。

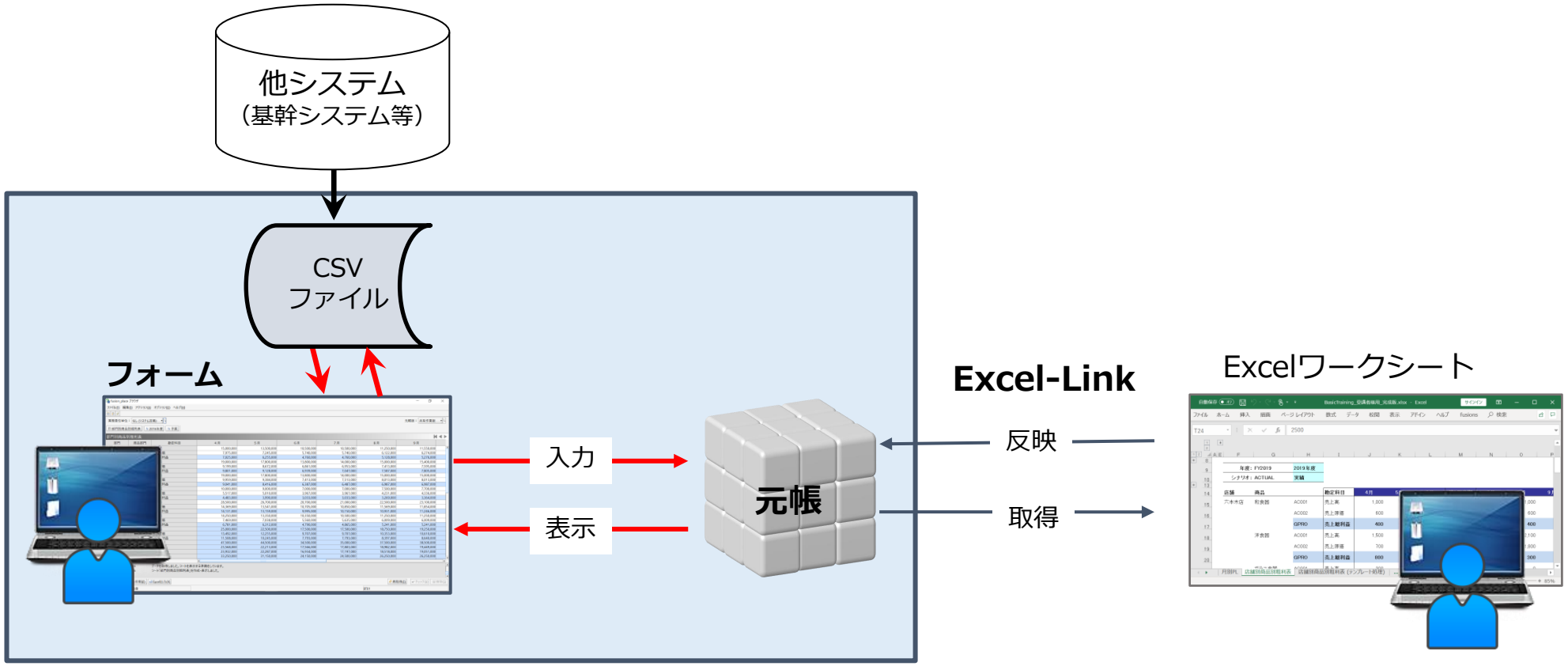


46. インポートが実行され、データが入力されていることを確認します。「保存」ボタンをクリックします。

※「保存」した時点で、fusion_placeにデータが書き込まれます。

6.データ入出力③（インポート）おさらい

以上で、フォームによる、CSVファイルのインポート（データ読み込み）方法をご理解頂けたかと思います。



fusions